取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PASSO

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 33
排気ガスに対する注意 40

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 41
チャイルドシート 42

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 60

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 62
計器類 68
マルチインフォメーションディスプレイ 70

3 各部の操作

3-1. キー
キー 78

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
キーフリーシステム 81
ドア（フロントドア、リヤドア）... 90
バックドア 93

3-3. シートの調整
フロントシート 97
リヤシート 98
ヘッドレスト 101

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 104
インナーミラー 106
ドアミラー 107

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 110

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 114
荷物を積むときの注意 124

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ.....126

オートマチックトランスミッション.....131

方向指示レバー.....133

パーキングブレーキ.....134

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....135

オートハイビーム.....139

フォグランプスイッチ.....142

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....143

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....145

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....147

4-5. 運転支援装置について

スマートアシストⅢ.....151

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）.....162

誤発進抑制制御機能（前方・後方）.....172

車線逸脱警報機能.....181

先行車発進お知らせ機能.....184

Stop & Start System (SMART STOP).....186

コーナーセンサー.....196

バックカメラ.....202

パノラミックビューモニター.....205

運転を補助する装置.....212

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....218

5 室内装備・機能

5-1. エアコン・デフォッガーの使い方

マニュアルエアコン.....224

オートエアコン.....229

運転席シートヒーター.....236

5-2. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ.....238

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....240

・インテリアランプ.....240

・マップランプ.....241

5-4. 収納装備

収納装備一覧.....242

・助手席シートアンダートレイ.....243

・ドアポケット.....243

・カップホルダー（運転席 / 助手席）／ボトルホルダー.....244

・アッパーボックス／グローブボックス.....246

・アームレストポケット.....247

・小物入れ.....247

ラゲージルーム内装備.....248

・デッキボード.....248

・デッキボックス.....249

・停止表示板収納スペース.....249

5-5. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備.....250
・サンバイザー.....250
・バニティミラー.....250
・時計.....251
・アームレスト.....252
・アシストグリップ.....253
・アクセサリーソケット.....254
・買い物フック.....255

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....258
内装の手入れ.....262
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.....265
ガレージジャッキ.....267
ウォッシャー液の補充.....268
タイヤについて.....269
タイヤ空気圧について.....273
エアコンフィルターの交換....275
ワイパーゴムの交換.....277
キーの電池交換.....283
ヒューズの点検・交換.....285
電球（バルブ）の交換.....288

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは..... 304
非常点滅灯
（ハザードランプ)..... 305
発炎筒..... 306
車両を緊急停止するには..... 308
水没・冠水したときは..... 309
7-2. 緊急時の対処法
けん引について..... 310
フューエルポンプシャット
オフシステム..... 318
警告灯がついたときは..... 319
“スマアシ ※ 停止”が
表示されたときは..... 325
パンクしたときは
（タイヤパンク応急修理
セット装着車）..... 327
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車)..... 339
エンジンが
かからないときは..... 350
電子カードキーが正常に
働かないときは..... 352
バッテリーが
あがったときは..... 354
オーバーヒートしたときは... 357
スタックしたときは..... 360

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....362
8-2. カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧.....368
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....371

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 374
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 377
アルファベット順さくいん..... 378
五十音順さくいん 379

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

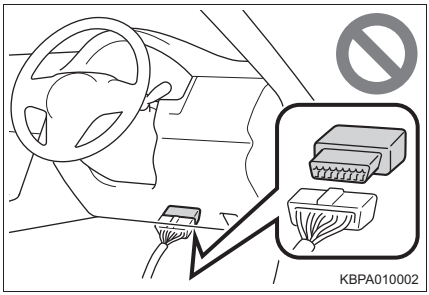
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうトヨタは、トヨタ自動車株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうトヨタは、トヨタ自動車株式会社を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

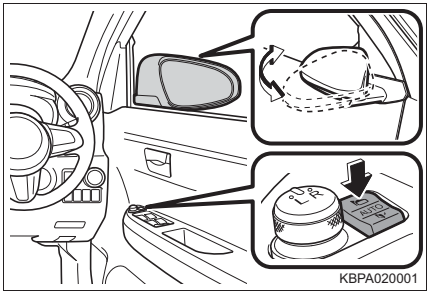
警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

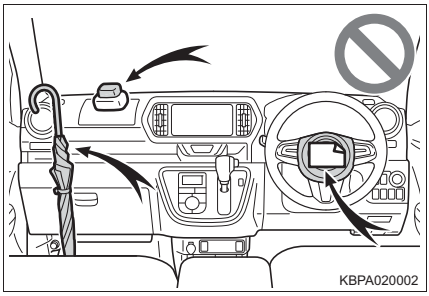
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

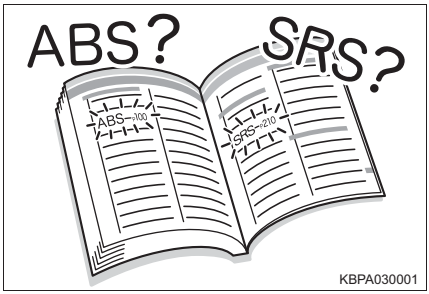


知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

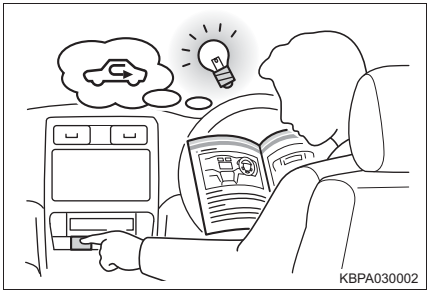
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....379
・アルファベット順
さくいん.....378



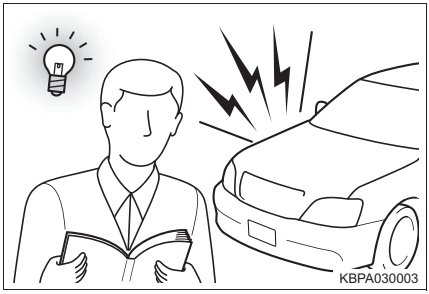
■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12



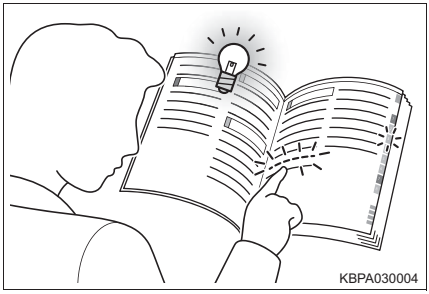
■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....374
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....377



■ タイトルから探す

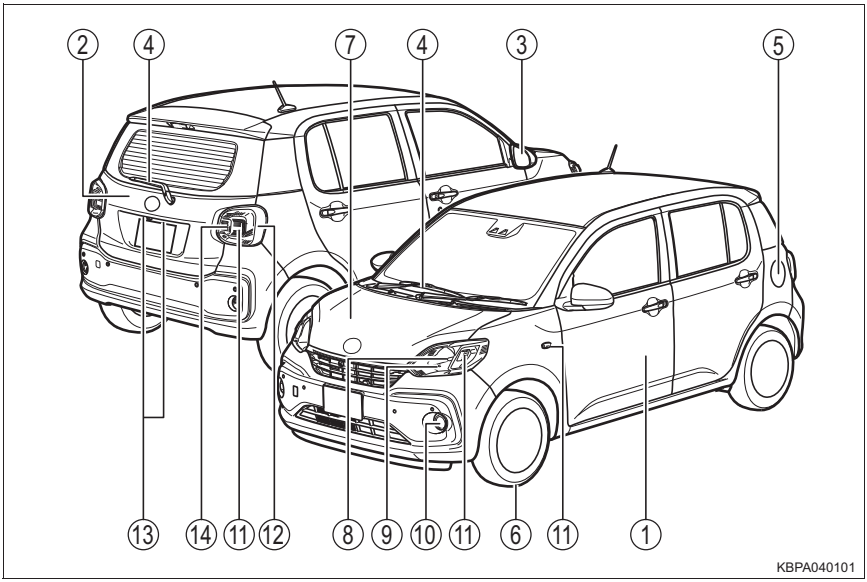
・目次 2



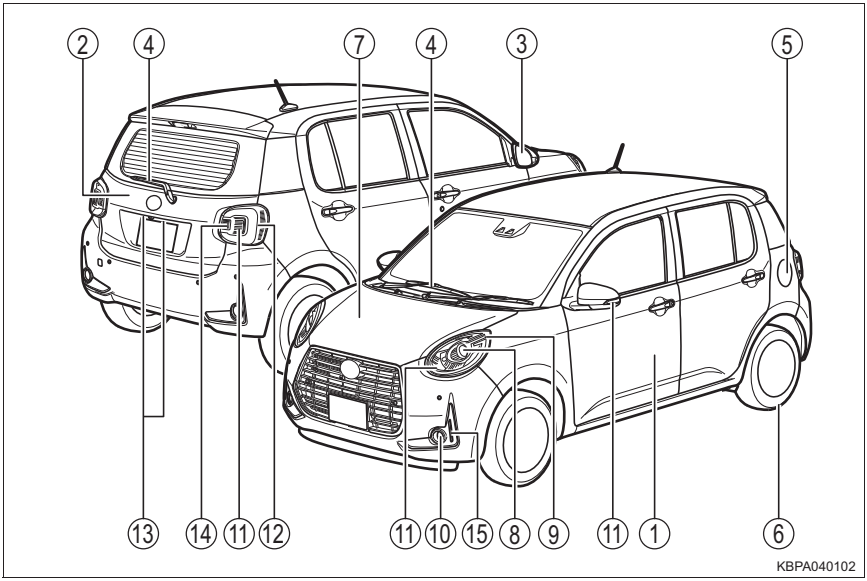
イラスト目次

■ 外観

▶ MODA を除く



▶ MODA



① **ドア** . . . . . **P. 90**
施錠／解錠 . . . . . P. 81, 90
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 110
メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 91, 352
警告灯 . . . . . P. 321
② **バックドア** . . . . . **P. 93**
施錠／解錠 . . . . . P. 81, 93
警告灯 . . . . . P. 321
③ **ドアミラー** . . . . . **P. 107**
鏡面の角度調整 . . . . . P. 107
ミラーの格納 . . . . . P. 108
④ **ワイパー** . . . . . **P. 143, 145**
冬季の注意 . . . . . P. 219
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 226, 231
⑤ **給油口** . . . . . **P. 147**
給油方法 . . . . . P. 147
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 362
⑥ **タイヤ** . . . . . **P. 269**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 367
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 219
点検・ローテーション . . . . . P. 269
パンク時の対処 . . . . . P. 327, 339
⑦ **ボンネット** . . . . . **P. 265**
開け方 . . . . . P. 265
エンジンオイル . . . . . P. 363
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 357

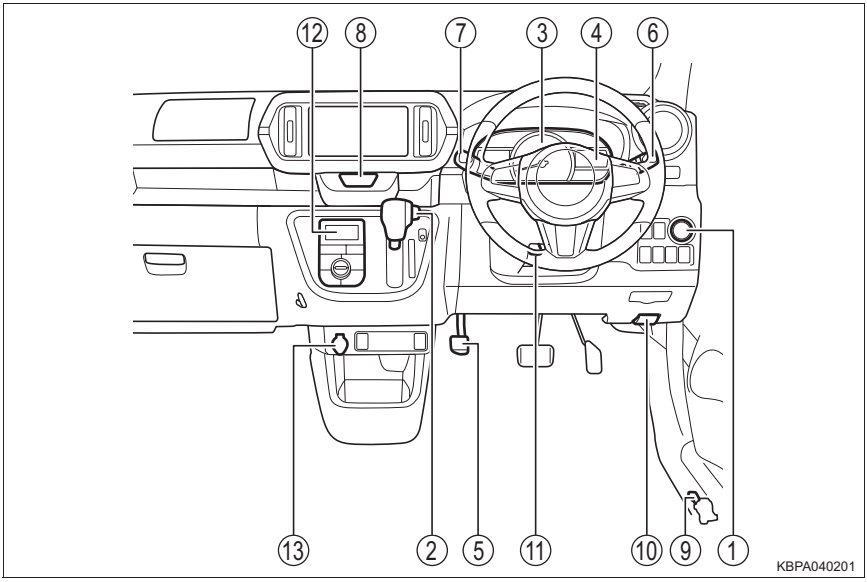
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 288, ワット数：P. 367）

⑧ ヘッドランプ . . . . . .P. 135
⑨ 車幅灯. . . . . .P. 135
⑩ フロントフォグランプ★ . . . . . .P. 142
⑪ 方向指示灯 . . . . . .P. 133
⑫ 尾灯 . . . . . .P. 135
⑬ 番号灯. . . . . .P. 135
⑭ 後退灯
シフトポジションを R にする . . . . . .P. 131
⑮ LED イルミネーションランプ★. . . . . .P. 135

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

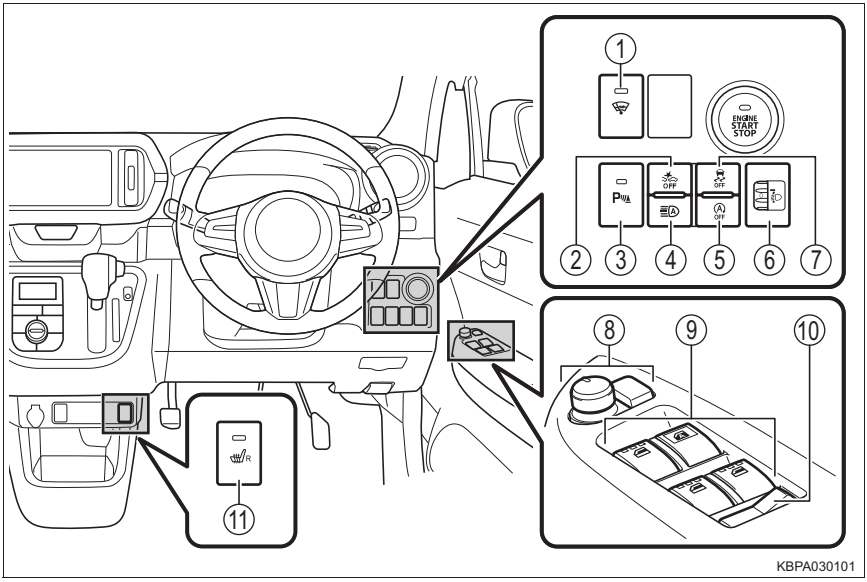


① **エンジンスイッチ . . . . . P. 126**
エンジンの始動・モード切りかえ . . . . . P. 126
エンジンの緊急停止 . . . . . P. 308
エンジンが始動できないときの対処. . . . . P. 350
② **シフトレバー . . . . . P. 131**
シフトポジションの切りかえ. . . . . P. 131
けん引時の注意. . . . . P. 310
シフトレバーが動かないときの対処. . . . . P. 132
③ **メーター . . . . . P. 68**
見方・明るさの調整 . . . . . P. 73
警告灯／表示灯. . . . . P. 62
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 319

④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 70**
表示内容 . . . . . P. 70
⑤ **パーキングブレーキ . . . . . P. 134**
かける・解除する . . . . . P. 134
冬季の注意 . . . . . P. 218
警告ブザー . . . . . P. 322, 323
⑥ **方向指示レバー . . . . . P. 133**
ランプスイッチ . . . . . P. 135
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 . . . . . P. 135
フロントフォグランプ★ . . . . . P. 142
⑦ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ . . . . . P. 143, 145**
使い方 . . . . . P. 143, 145
ウォッシャー液の補充 . . . . . P. 268
⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . P. 305**
⑨ **給油口オープナー . . . . . P. 147**
⑩ **ボンネット解除レバー . . . . . P. 265**
⑪ **ハンドル位置調整レバー . . . . . P. 104**
⑫ **エアコン . . . . . P. 224, 229**
操作方法 . . . . . P. 224, 229
リヤウィンドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー） . . . . . P. 225, 231
ウインドシールドデアイサー★ . . . . . P. 226, 231
⑬ **アクセサリーソケット . . . . . P. 254**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

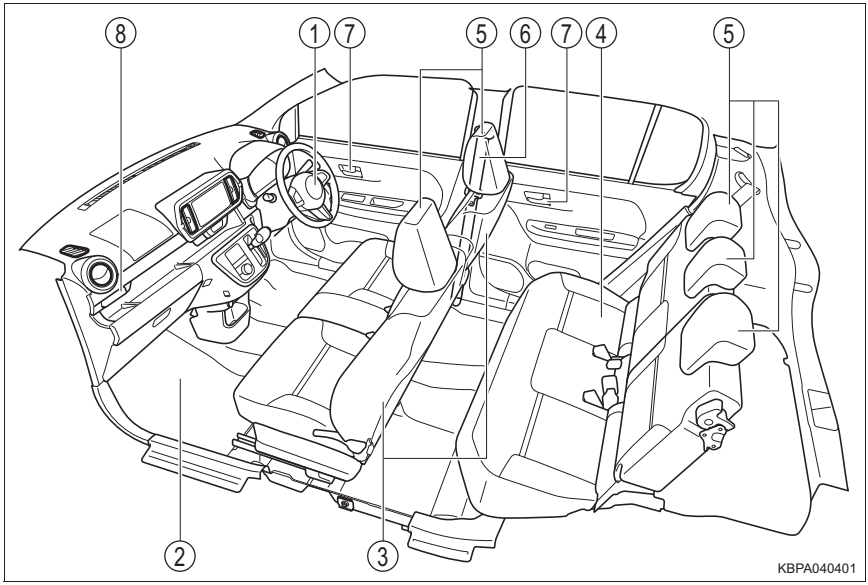
■ スイッチ類



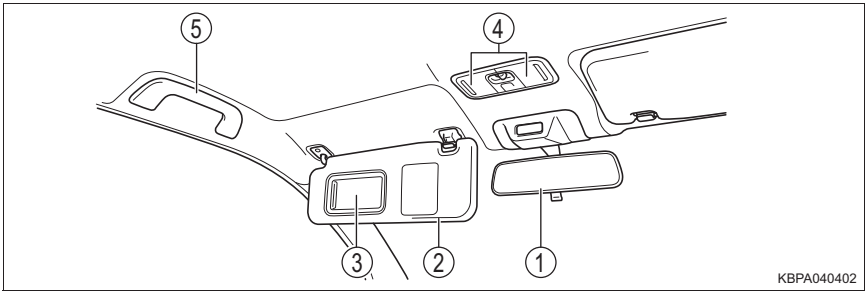
① ウインドシールドデアイサースイッチ★.....P. 226, 231
② スマートアシスト OFF スイッチ.....P. 155
③ コーナーセンサースイッチ.....P. 196
④ オートハイビームスイッチ.....P. 139
⑤ Stop & Start キャンセルスイッチ.....P. 187
⑥ 手動光軸調整ダイヤル★.....P. 136
⑦ VSC OFF スイッチ.....P. 213, 214
⑧ ドアミラースイッチ.....P. 107
⑨ パワーウインドウスイッチ.....P. 110
⑩ ウインドウロックスイッチ.....P. 110
⑪ シートヒータースイッチ★.....P. 236

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 33
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 97
④ リヤシート . . . . . P. 98
⑤ ヘッドレスト . . . . . P. 101
⑥ シートベルト . . . . . P. 26
⑦ ロックレバー . . . . . P. 91
⑧ カップホルダー . . . . . P. 244



① インナーミラー.....P. 106
② サンバイザー※.....P. 250
③ バニティミラー.....P. 250
④ インテリアランプ／マップランプ .....P. 240
⑤ アシストグリップ★.....P. 253

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 46）

KSPA000109

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために.....24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....33
排気ガスに対する注意.....40
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....41
チャイルドシート.....42
1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム.....60

運転する前に

点検整備

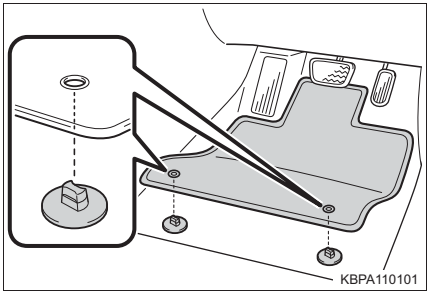
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

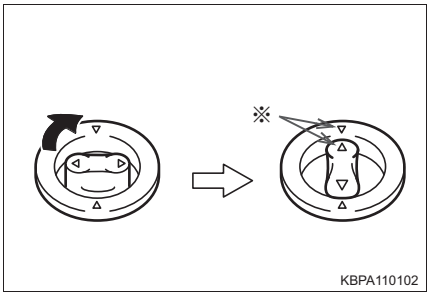
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

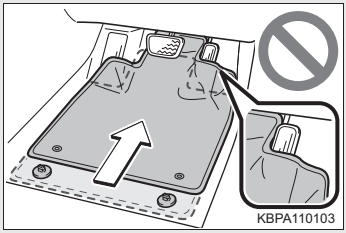
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ●トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

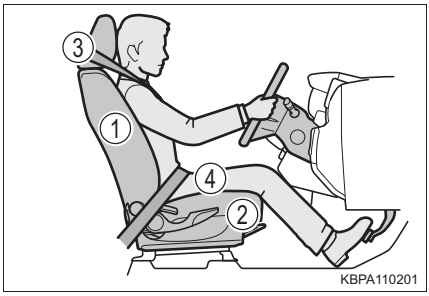
- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン停止およびシフトレバーPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 97）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 97）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 102）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 106, 107）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシート（シートアンダートレイ付きの助手席を除く）の下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

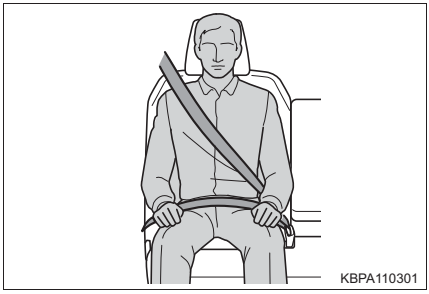
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

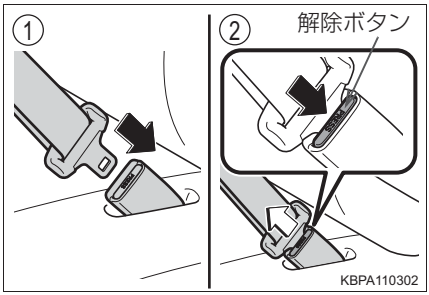
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方（リヤ中央席を除く）

① ベルトを固定するには、“　カチッ”　と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



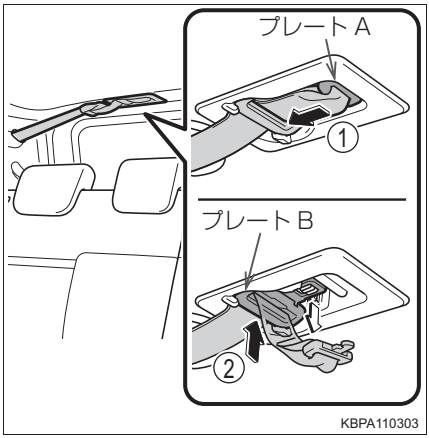
着け方（リヤ中央席）

1 プレートを取り出す

① プレート A を取り出す

② プレート B の端を押して取り出す

プレート A だけを取り出した状態ではベルトを引き出すことができません。

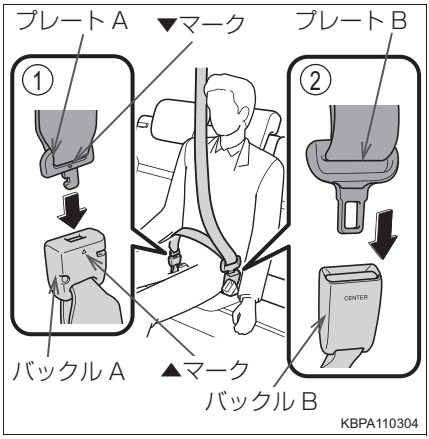


2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

① プレート A、バックル A

プレート A の▼マークとバックル A の▲マークを合わせます。

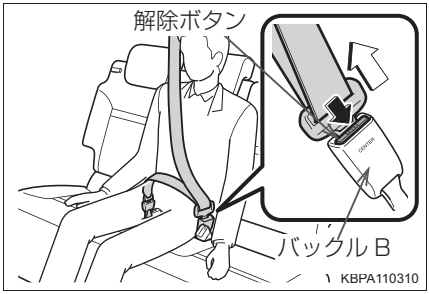
② プレート B、バックル B



はずし方・格納の仕方（リヤ中央席）

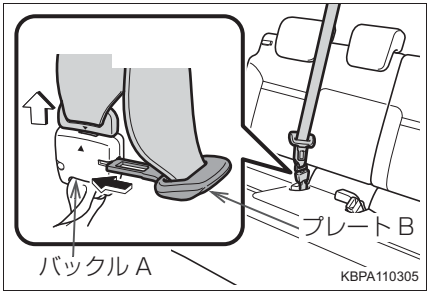
リヤ中央席シートベルトは、リヤシートを折りたたむ場合など必要なときに分離・格納することができます。安全のため、ベルトを分離したときは必ずプレートを所定の場所に格納してください。

1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



2 プレート B をバックル A の切り欠きに挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

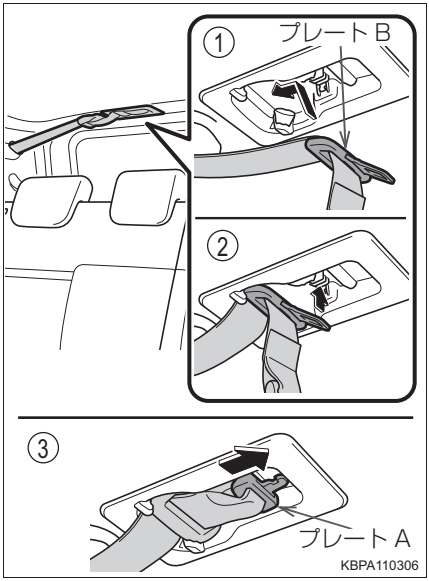


3 プレート B、プレート A の順に天井のホルダーに格納する

① プレート B の端をホルダーに引っかける

② プレート B をホルダーの突起部に押し込む

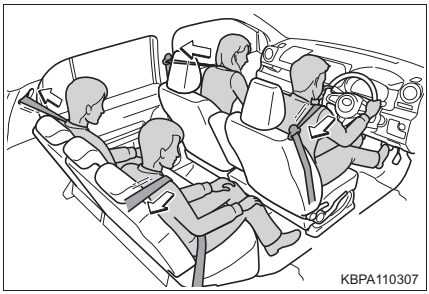
③ プレート A をしっかり奥まで挿し込む



シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ左右席★）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは通常は作動しません。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 42）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて（フロント席、リヤ左右席★）

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

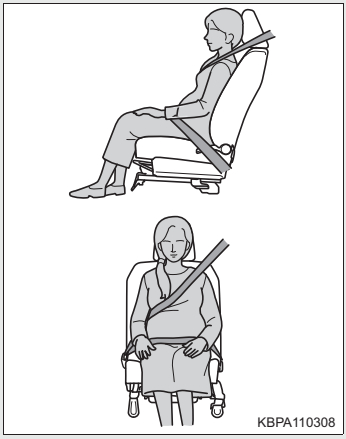
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のあるかたの場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

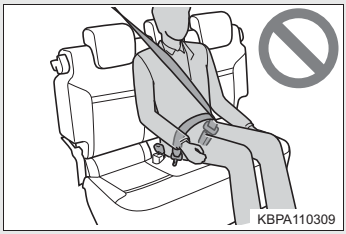
●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■分離格納式シートベルトについて

●分離格納式シートベルトを使用するときは、必ずプレート A とバックルを結合してください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

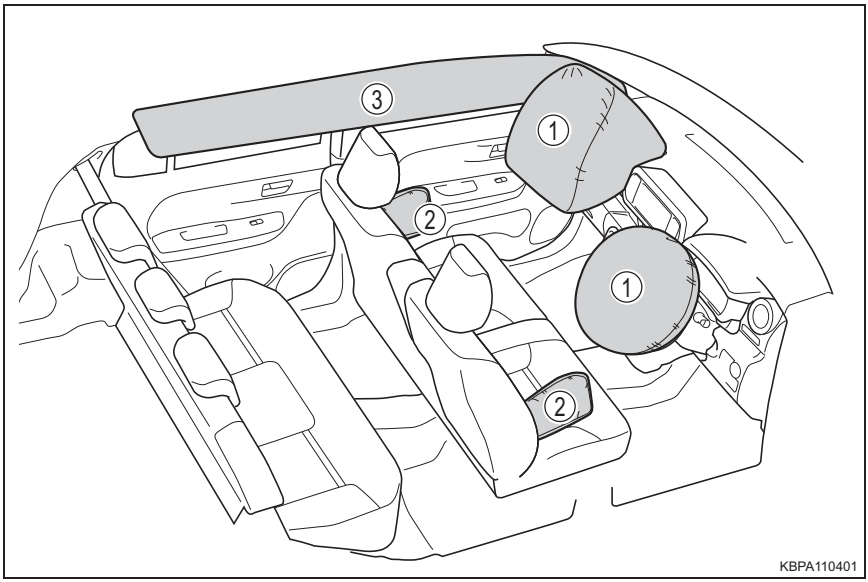


●分割可倒シート装着車：助手席側のリヤシートを前に倒した状態で、リヤ中央席に座らないでください。倒したシートにリヤ中央席のシートベルトバックルが挟まれるため、正しく装着することができません。事故などの場合にシートベルトが十分な効果を発揮できず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●分離格納式シートベルトを格納するときは、プレートを確実に挿し込み、固定してください。正しく格納していないと、走行中にプレートが飛び出し、乗員にあたるなどしてけがをするおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ★

② SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

③ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ左右席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 42）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

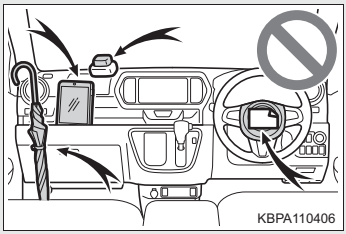
⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

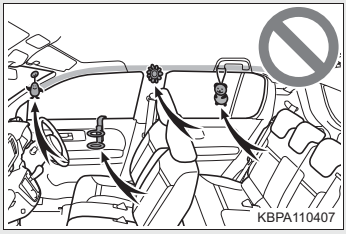
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

KBPA110405

●ダッシュボード･ハンドルのパッド部分やその周辺には何も取り付けたり、置いたりしない


KBPA110406

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール･アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限シールを除く：→ P. 330）


KBPA110407

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車:SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ非装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動するとき

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ★）

SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 50km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

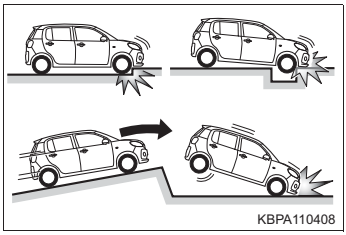
■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

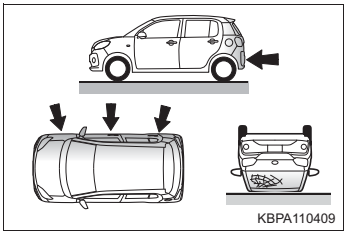
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

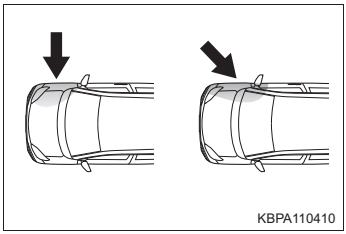


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ★）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

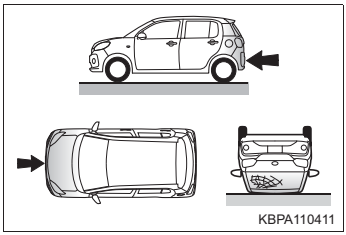


SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

●横転



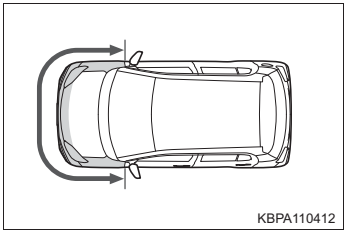
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

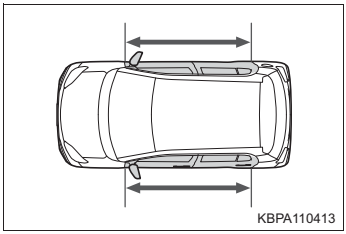
次のような場合には、修理・点検が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

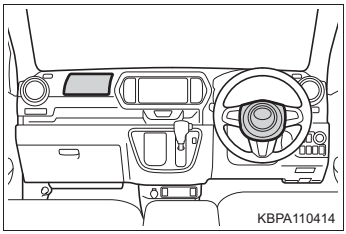
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


KBPA110412

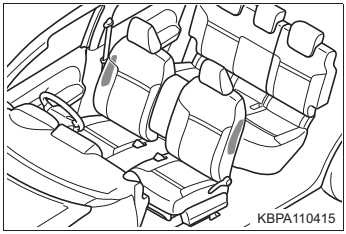
●SRSサイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


KBPA110413

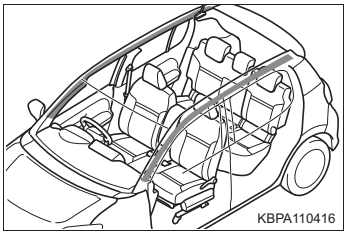
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


KBPA110414

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


KBPA110415

●SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


KBPA110416

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れ替え、ただちにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所にお車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 42）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 91）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 110）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 42 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトを着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 48）

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN（ECE）R44※ の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

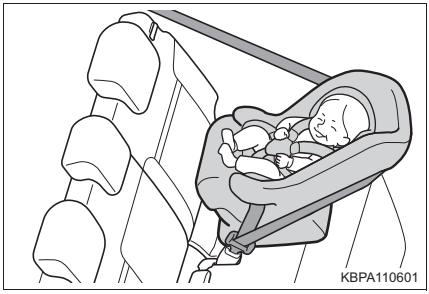
グループ 0：10kg まで
グループ 0 ＋：13kg まで
グループⅠ：9 ～ 18kg
グループⅡ：15 ～ 25kg
グループⅢ：22 ～ 36kg

※ UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

チャイルドシートの種類

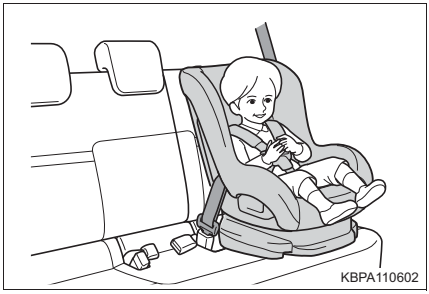
▶ ベビーシート

UN（ECE）R44 基準のグループ 0、0 ＋に相当



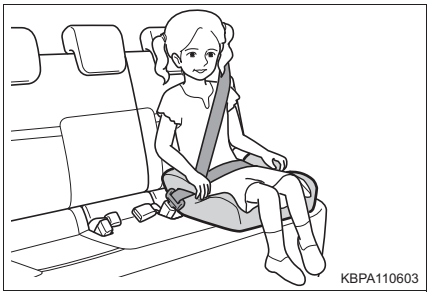
▶ チャイルドシート

UN（ECE）R44 基準のグループ 0 ＋、Ⅰに相当



▶ ジュニアシート

UN（ECE）R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当



警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●トヨタでは、お子さまの年齢や体格に合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。

●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、お車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 48）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

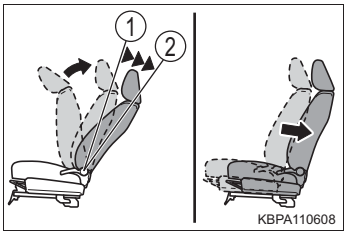
●チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から外して保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを前向きに取り付けてください。



- 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置（①）まで起こし、4 段目の固定位置（②）まで調整する
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外す（→ P. 101）
- シートをいちばん後ろに下げる

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

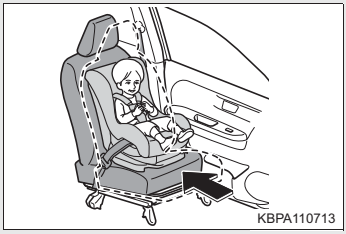
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

KSPA110712

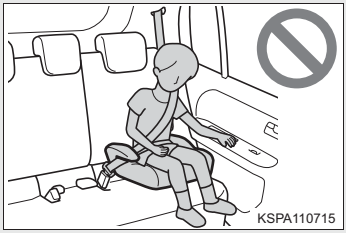
●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


KBPA110713

⚠ 警告

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 49）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 52）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

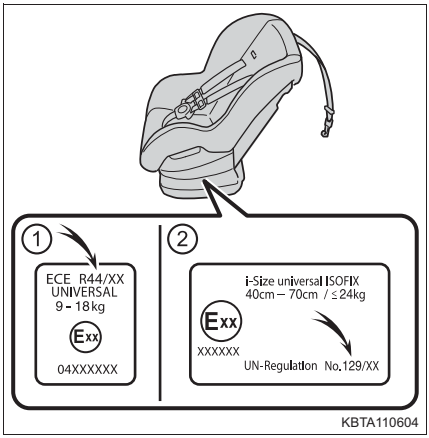
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

▶ 法規番号の表示例

① UN（ECE）R44 認可マーク ※2 対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN（ECE）R129 認可マーク ※2 対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1：UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

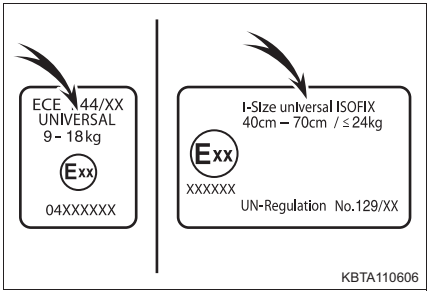
※2：表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

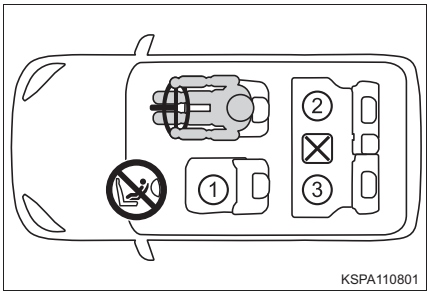
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル
「universal（汎用）」
・セミユニバーサル
「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド
「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック
「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



①※1、2、3	U ※4 L ※4
②※3	U L
③※3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 52）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

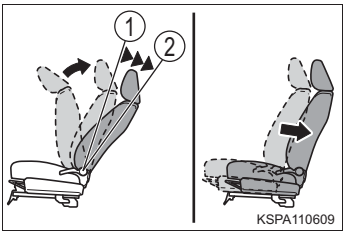
トップテザーアンカーが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。

※1： シートをいちばん後ろに下げた状態で取り付けてください。

※2： 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置（①）まで起こし、4 段目の固定位置（②）まで調整してください。



※3： ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外してください。

※4： チャイルドシートは必ず前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
i-Size 着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後ろ向きチャイルドシート
R2	小型後ろ向きチャイルドシート
R2X	小型後ろ向きチャイルドシート
R1	後ろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+ （13kgまで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅰ （9～18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○

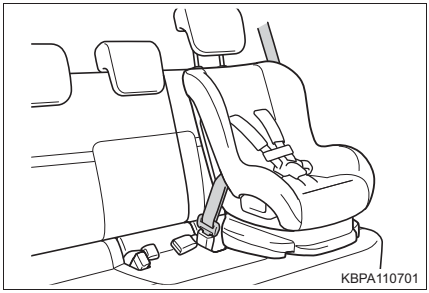
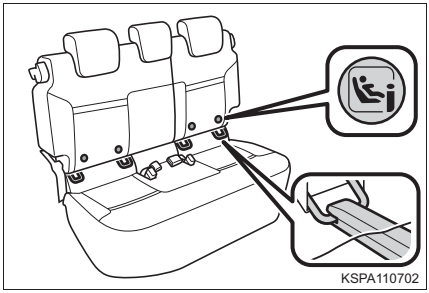
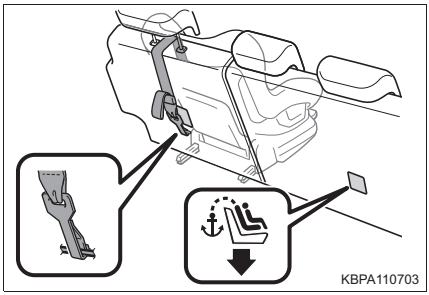
リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

⚠ 警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する	 KBPA110701	P. 54
ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーで固定する	 KSPA110702	P. 56
テザーベルトを固定する	 KBPA110703	P. 58

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

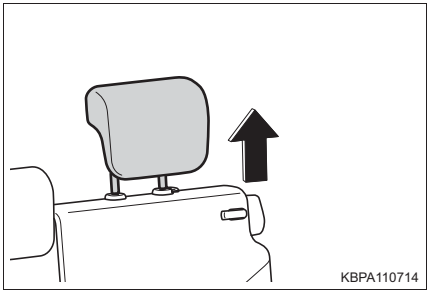
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 49）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整する（→ P. 45）

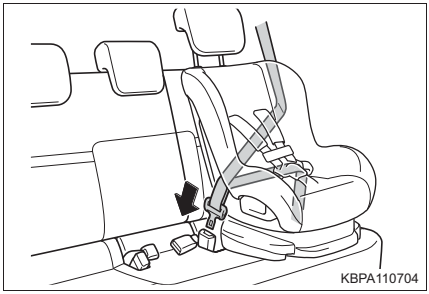
2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。（→ P. 101）



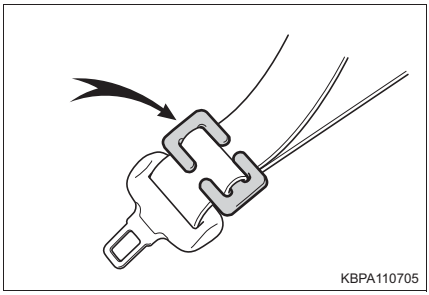
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込み、ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

■ チャイルドシートの取り外し

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取り外す

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

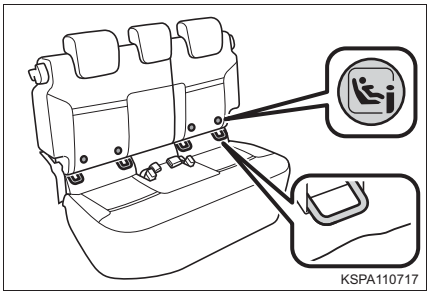
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

このお車はリヤ外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）


KSPA110717

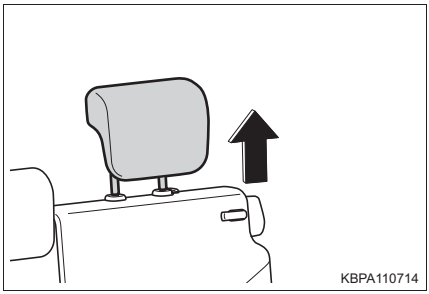
■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 49）

1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

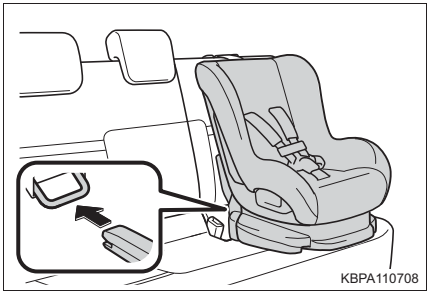
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。（→ P. 101）


KBPA110714

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。


KBPA110708

3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

⚠ 警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

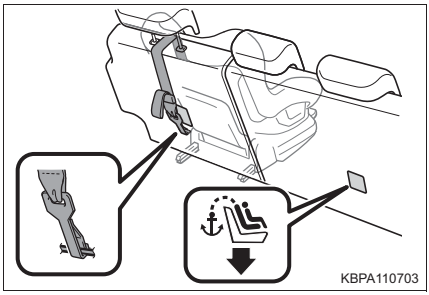
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

このお車はリヤ外側席にトップテザーアンカーが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

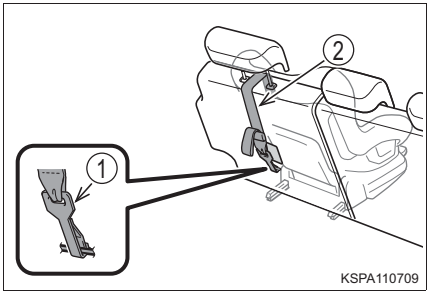
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

① フック

② テザーベルト



2 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

■リヤヘッドレストについて

●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストの取り外しが必要な場合は、安全な場所にしっかり固定しておいてください。

エンジンイモビライザーシステム

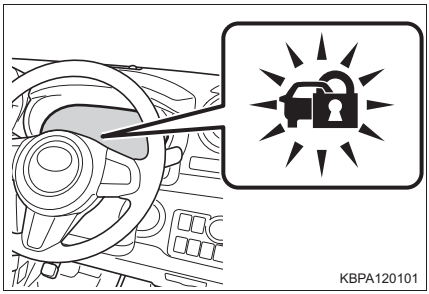
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティ用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

2

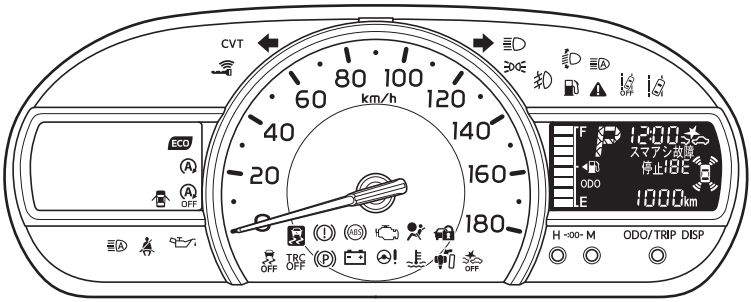
2. 計器の見方
警告灯／表示灯.....60
計器類.....66
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....68

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

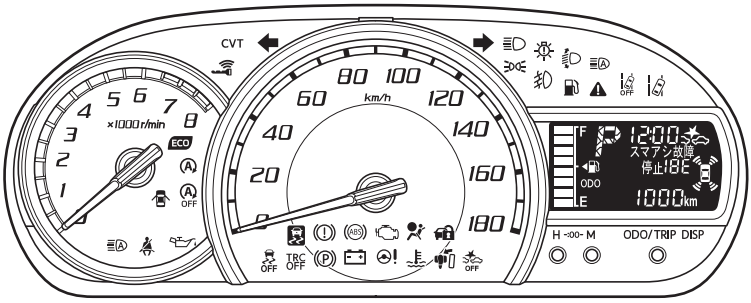
◆ メーター

▶ タコメーター非装着車



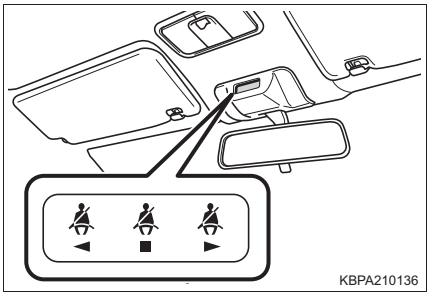
KBPA210101

▶ タコメーター装着車



KBPA210102

◆ 後席シートベルトリマインダ



警告灯

システム異常などを警告します。

※1 ブレーキ警告灯（→ P. 319）

※1 ABS 警告灯（→ P. 320）

※1 充電警告灯（→ P. 319）

※1 パワーステアリング警告灯（→ P. 320）（赤色/黄色）

※1 油圧警告灯（→ P. 319）

※1 オートハイビーム警告灯（黄色）（→ P. 320）

※1 高水温警告灯（→ P. 319）（赤色）

※1※2 スマートアシスト OFF 表示灯（→ P. 320）

※1 エンジン警告灯（→ P. 319）

※1※3 車線逸脱警報 OFF 表示灯（→ P. 320）

※1 CVT オートマチックトランスミッション警告灯（→ P. 319）（点滅）

※1※4 マスターウォーニング（→ P. 320）

※1 SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（→ P. 319）

スマアシ故障 スマートアシスト故障警告灯（→ P. 320）

スマートアシスト停止警告灯
（→ P. 325）

※5

コーナーセンサー表示灯
（→ P. 320）

※1※6

スリップ表示灯
（→ P. 320）

※7

（点滅）

Stop & Start キャンセル表示灯
（→ P. 321）

※1

LED ヘッドランプオートレベリング警告灯★
（→ P. 321）

※1※8

キーフリー警告灯
（→ P. 321）

※1

LED ヘッドランプ警告灯★
（→ P. 321）

※1

ブレーキオーバーライドシステム警告灯
（→ P. 321）

半ドア警告灯
（→ P. 321）

燃料残量警告灯
（→ P. 321）

（点滅）

運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯
（→ P. 322）

※9※10

後席シートベルト締め忘れ警告灯
（→ P. 322）

パーキングブレーキ未解除警告灯（→ P. 322）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 スマートアシストⅢの機能を停止にしたときも点灯します。

※3 車線逸脱警報機能を停止にしたときも点灯します。

※4 スマートアシストⅢが作動したときも点灯します。（→ P. 156）

※5 コーナーセンサーが作動したときも点灯します。

※6 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※7 Stop & Start システムを非作動にしたときは点灯します。

※8 点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。点滅した場合は電子カードキーが作動範囲外にある、または電子カードキーの電池切れが近い状態であることを示します。（→ P. 323）

※9 リヤシートベルトが非装着の状態で、エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたとき、もしくはリヤシートベルトをはずすと点灯します。リヤシートベルトを着用する、または走行後約30秒経過すると消灯します。また、走行後リヤシートベルトをはずした状態でリヤドアを開閉すると点灯します。

※10 インナーミラー上部に点灯します。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 133）

尾灯表示灯（→ P. 135）

ハイビーム表示灯
（→ P. 135）

フロントフォグランプ
表示灯★（→ P. 142）

※1

（青色）
低水温表示灯

※2

（点滅）
スマートアシスト作動灯
（→ P. 156）

※2※4

スマートアシスト OFF
表示灯
（→ P. 155）

※2

（点滅）
車線逸脱警報作動灯
（→ P. 157）

※2※4

車線逸脱警報 OFF 表示灯
（→ P. 155）

※2

Stop & Start 表示灯
（→ P. 186）

※3

Stop & Start キャンセル
表示灯（→ P. 187）

※2

（点滅）
スリップ表示灯
（→ P. 213）

※2

VSC OFF 表示灯
（→ P. 214）

※2

TRC OFF 表示灯
（→ P. 213）

※2

エコドライブインジケー
ターランプ（→ P. 116）

エンジンイモビライザー
システム表示灯
（→ P. 60）

シフトポジション表示灯
（→ P. 131）

オートハイビーム作動灯
（緑色）
（→ P. 139）

※5

コーナーセンサー表示灯
（→ P. 196）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。

※2 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※3 Stop & Startシステムに異常があるときは点滅します。

※4 スマートアシストⅢに異常があるときも点灯します。

※5 コーナーセンサーに異常があるときも点灯します。

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABSやSRSエアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチをイグニッションONモードにしても点灯しない場合や、数秒後またはエンジンを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

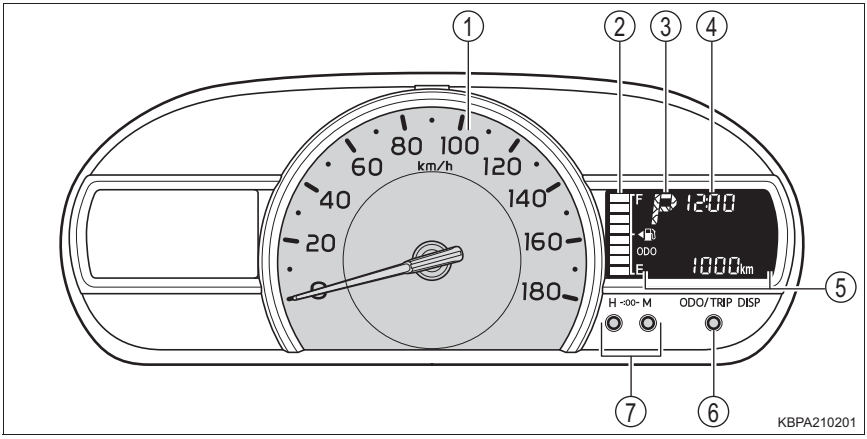
⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

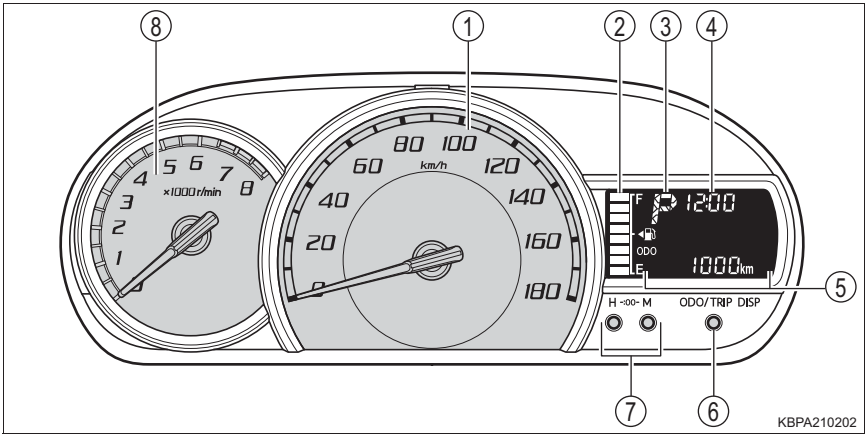
水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 319）が装備されています。高水温警告灯が赤色点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 357）

計器類

▶ タコメーター非装着車



▶ タコメーター装着車



① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② 燃料計

燃料残量を示します。

③ シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 131）

④ 時計表示

時刻を表示します。（→ P. 251）

⑤ トリップインフォメーション

外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。
（→ P. 71）

⑥ 表示切りかえボタン

トリップインフォメーションの表示を切りかえます。（→ P. 70）

⑦ クロックセットボタン

（→ P. 251）

⑧ タコメーター★

毎分のエンジン回転数を示します。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

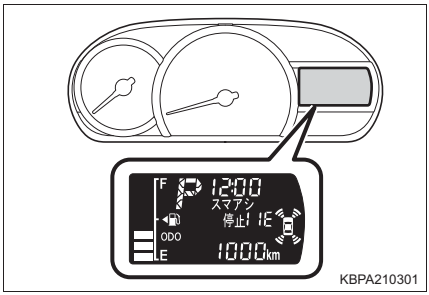
タコメーター装着車はタコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。



KBPA210301

● 時計表示

時刻を表示します。

● トリップインフォメーション（→ P. 71）

表示される項目は次のとおりです。

・オドメーター
・トリップメーターA・B
・アイドリングストップ時間
・総アイドリングストップ時間
・外気温
・平均燃費
・航続可能距離
・メーター照度調整

● シフトポジション表示（→ P. 131）

● スマートアシストⅢ機能停止コード表示（→ P. 325）

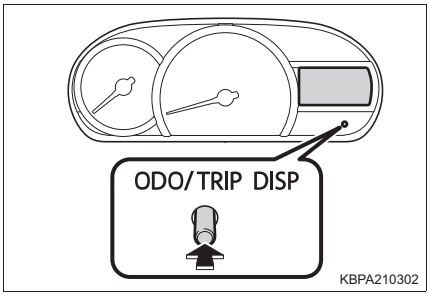
● コーナーセンサー作動表示（→ P. 196）

● 燃料計

燃料残量を示します。

表示切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。



KBPA210302

トリップインフォメーション

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

表示中に表示切りかえボタンを長押しすることでユーザーカスタマイズ画面に切りかわります。（→ P. 74）

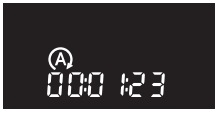
■ トリップメーター A※ ／トリップメーター B※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター A またはトリップメーター B の表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

※ : 区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ アイドリングストップ時間



エンジンを始動してから停止するまでのアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。

■ 総アイドリングストップ時間

リセットしてからのアイドリングストップ時間(Stop & Start システムによるエンジンの停止時間) を通算で表示します。

リセットするには、総アイドリングストップ時間表示中にメーター内の表示切りかえボタンを長押しします。

■ 外気温

● 外気温を表示します。

外気温：－ 30 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

● 外気温が3℃以下になると路面凍結警告を表示します。

温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることを表示します。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

・ リセットするには、平均燃費表示中に表示切りかえボタンを押し続けます。
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 照度調整

▶ タコメーター非装着車

メーターの照度が夜照度（→ P. 76）のときに表示します。

・照度調整表示が表示中に表示切りかえボタンを長押しすることで、メーターの照度を 4 段階で調整できます。
・周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。

▶ タコメーター装着車

昼照度または夜照度（→ P. 76）のメーター照度を表示します。

・照度調整表示が表示中に表示切りかえボタンを長押しすることで、メーターの照度を 5 段階で調整できます。
・昼照度は周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているときに調整します。
・夜照度は周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。

ユーザーカスタマイズ画面

ユーザーカスタマイズ画面に切りかえることで、次の設定を変更することができます。

- エコドライブインジケーターの表示・非表示
- アイドリングストップ時間割り込み表示の ON・OFF

■ 設定変更のしかた

1 オドメーター表示中に表示切りかえボタンを約 1 秒以上押し続ける（→ P. 70）

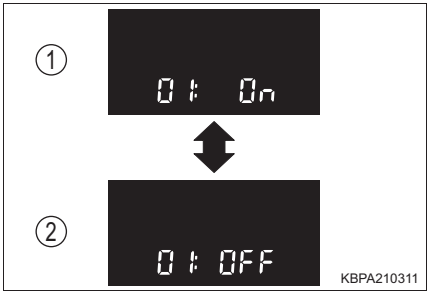
2 表示切りかえボタンを押すごとに、次の順に表示設定が切りかわる
- ・エコドライブインジケーターランプ
- ・アイドリングストップ時間割り込み
- ・設定終了表示

3 表示設定の画面で表示切りかえボタンを押し続けるごとに ON ／ OFF を切りかえる

▶ エコドライブインジケーターランプ「01」

①表示
②非表示

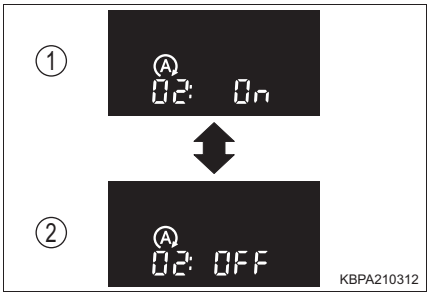
エコドライブインジケーターランプが点滅します。（→ P. 116）



▶ アイドリングストップ時間割り込み表示「02」

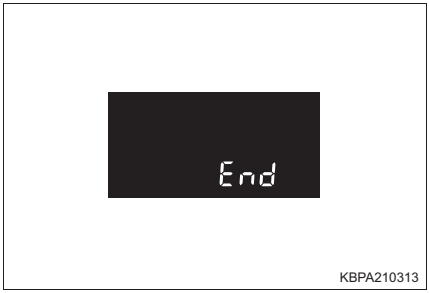
①割り込み表示 ON
②割り込み表示 OFF

Ⓐ の表示が点滅します。



▶ 設定終了表示

表示切りかえボタンを約 1 秒以上押し続ける、もしくはしばらくするとオドメーター表示にもどります。



知識

■平均燃費について

●エンジンスイッチをイグニッションONモードにした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。

●表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

■航続可能距離について

●表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。

●新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。

●異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。

■外気温表示について

●外気温の測定が正しく行われないときは「－－℃」または「E ℃」と表示されます。

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

●実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

■路面凍結警告表示について

●路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。

●エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたとき、外気温がすでに3℃以下の場合、警告表示されません。

●路面凍結警告がいったん表示されると、外気温が４℃以上に上がってから、３℃以下に下がらないと再び警告表示されません。

■メーター照度について（昼照度と夜照度）

●メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切り替わります。

・昼照度：周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき
・夜照度：周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき

●夜照度になると、メーター照明は次のように変化します。

・タコメーター非装着車：指針と文字盤の照明が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイの照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では、マルチインフォメーションディスプレイの照明が減光しません。
・タコメーター装着車：すべてのメーター照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では、照明が減光しません。

⚠ 注意

航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が “E” に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を補給してください。

各部の操作 3

3-1. キー
キー.....78
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
キーフリーシステム.....81
ドア
（フロントドア、リヤドア）....90
バックドア 93
3-3. シートの調整
フロントシート.....97
リヤシート 98
ヘッドレスト.....101
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 104
インナーミラー.....106
ドアミラー 107
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ.....110

キー

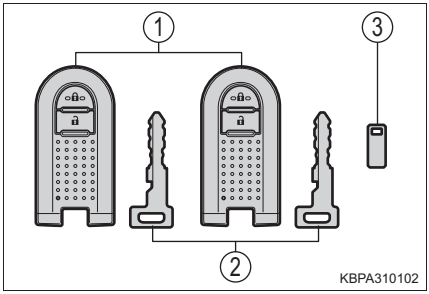
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子カードキー
- キーフリーシステムの作動
（→ P. 81）
- ワイヤレス機能の作動
（→ P. 90）

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

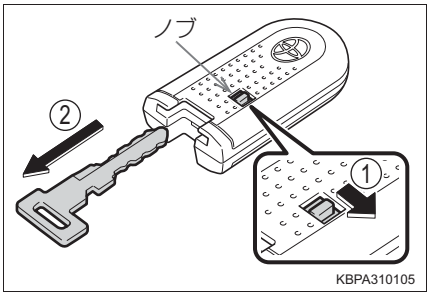


メカニカルキーを使うには

① ノブをスライドさせたままにする

② メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子カードキーと一緒に携帯してください。電子カードキーの電池が切れたときやキーフリーシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 352)



知識

■ **メカニカルキーを紛失したとき**

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ **航空機に乗るとき**

航空機に電子カードキーを持ち込む場合は、航空機内で電子カードキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ **キー登録本数の確認について**

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

⚠ 注意

■**電子カードキーの故障を防ぐために**

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●湿度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●電子カードキーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子カードキー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■**電子カードキー取り扱いの注意**

電子カードキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

●必ず日本国内でご使用ください。

■**電子カードキーを携帯するとき**

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■**キーフリーシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき**

車両に付属しているすべての電子カードキーをお持ちください。

■**電子カードキーを紛失したとき**

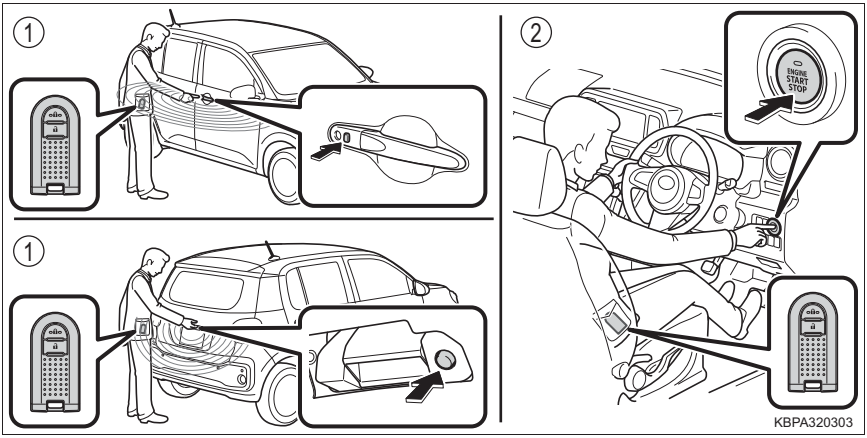
電子カードキーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子カードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

キーフリーシステム ※

※ “キーフリーシステム” はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

機能概要

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。
（必ず運転者が携帯してください）



① 全ドアを施錠・解錠する （→ P. 90）

② エンジンを始動する（→ P. 126）

知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は１回、解錠は２回）

■カスタマイズ機能

非常点滅灯の点滅を停止することができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 368）

■解錠操作のセキュリティ機能

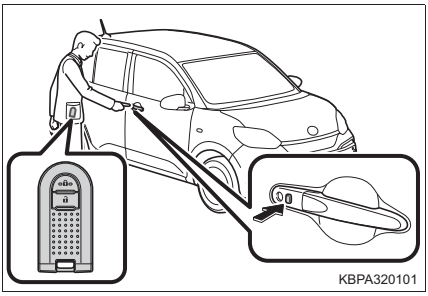
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

ドアの施錠・解錠

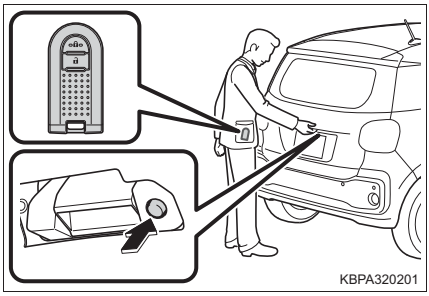
ロック／アンロックスイッチを押して施錠・解錠する

スイッチを確実に押してください。
施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。

▶ フロントドアハンドル



▶ バックドア

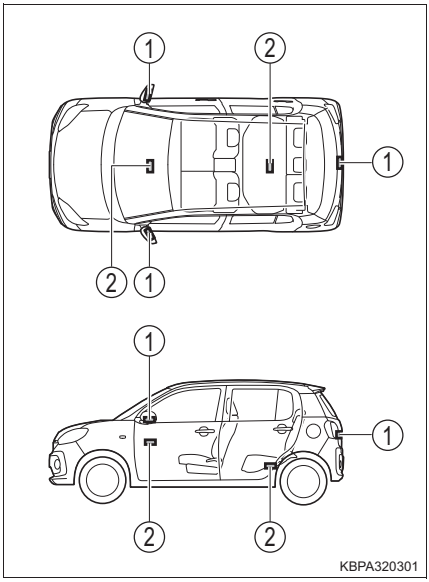


アンテナの位置と作動範囲

■アンテナの位置

① 車外アンテナ

② 車室内アンテナ



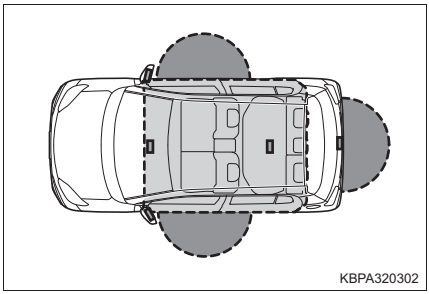
■作動範囲（電子カードキーの検知エリア）

●：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。
（電子カードキーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●：エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。



知識

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。
警告灯が点灯した場合、状況に応じて適切に対処してください。(→P. 323)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピピピピピ”と警告ブザーが鳴る	エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはONモードのときに、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めた	電子カードキーを携帯して乗車してください
車内から“ピーンピーン ピーン･･･”と警告ブザーが鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのときに運転席ドアを開いた)	エンジンスイッチをOFFにして、ドアを閉めてください
車内から“ピッピッピッ”と警告ブザーが鳴る	電子カードキーの電池切れが近いときに、エンジンスイッチをOFFにした※	新しい電池に交換してください
車内から“ピーンピーン ピーン･･･”と警告ブザーが鳴り続ける	運転席ドアが開いているときに、エンジンスイッチをONモードからOFFにした	運転席ドアを閉めてください

※ 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはONモードにしたときも警告ブザーが鳴ります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子カードキーと車両間の通信をさまたげ、キーフリーシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。
（対処方法：→ P. 352）

●電子カードキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子カードキーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子カードキーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子カードキーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（電子手帳）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子カードキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子カードキーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子カードキーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・エンジン始動時またはモード切りかえ時に電子カードキーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれていた場合

●電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。（作動範囲：→ P. 83）

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子カードキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子カードキーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子カードキーが作動範囲内にあれば、電子カードキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子カードキーを検知しているドア以外では、解錠できません。
場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近に電子カードキーがある場合でも、電子カードキーを検知し、解錠されることがあります。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子カードキーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

●電子カードキーが作動範囲内にある場合、洗浄などで水圧にてドアハンドルにあるロック／アンロックスイッチが押され、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●車室内または車両に近い位置に電子カードキーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、キーフリーシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）

●ドアハンドルにあるロック／アンロックスイッチは確実に押して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠されないことがあります。

●ロック／アンロックスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

■施錠時の留意事項

●電子カードキーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドルにあるロック／アンロックスイッチにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）

●車内に電子カードキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして高圧な水をドアハンドルにあるロック／アンロックスイッチにかけた場合、車内のブザーが吹鳴することがあります。

●ドアハンドルにあるロック／アンロックスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、ロック／アンロックスイッチが押せない場合があります。押せない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●ロック／アンロックスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。

■解錠時の留意事項

●ドアハンドル上のロック／アンロックスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどしてから再度ロック／アンロックスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●電子カードキーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドルにあるロック／アンロックスイッチにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）

●作動範囲内に他の電子カードキーがあるときは、ロック／アンロックスイッチを押してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

●ロック／アンロックスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子カードキーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめキーフリーシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子カードキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子カードキーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子カードキーの位置や持ち方によっては、電子カードキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 92）

■キーフリーシステムが正常に作動しないとき

●ドア・バックドアの施錠・解錠：→ P. 352

●エンジンの始動：→ P. 352

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。また、電子カードキーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・キーフリーシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子カードキーの LED が点灯しない

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。（→ P. 323）

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子カードキーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池が切れたとき

→ P. 283

■販売店で設定可能な機能

キーフリーシステムを非作動にすることができます。

（カスタマイズ一覧：→ P. 368）

■販売店でキーフリーシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 90, 352)

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：
→ P. 352

●エンジンの停止：→ P. 127

警告

■電波がおよぼす影響について

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 83）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ドア（フロントドア、リヤドア）

ドアの施錠／解錠

キーフリーシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

◆ キーフリーシステム

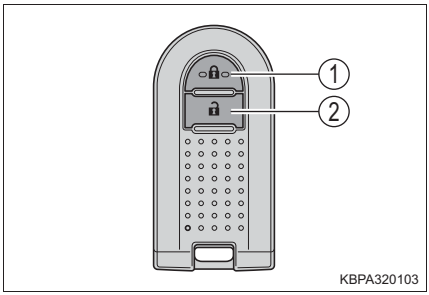
→ P. 81

◆ ワイヤレス機能

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する



知識

■作動の合図

非常点滅灯の点滅で知らせます。
（施錠は１回、解錠は２回）

■カスタマイズ機能

非常点滅灯の点滅を停止することができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 368）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■キーフリーシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 352）

電子カードキーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。
（→ P. 283）

◆ キー

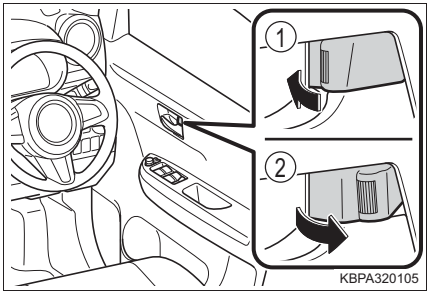
メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→ P. 352)

◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席のドアを解錠（または施錠）すると、全てのドアが解錠（または施錠）されます。



キーを使わずに外側から運転席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子カードキーが放置されているときは施錠されません。
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

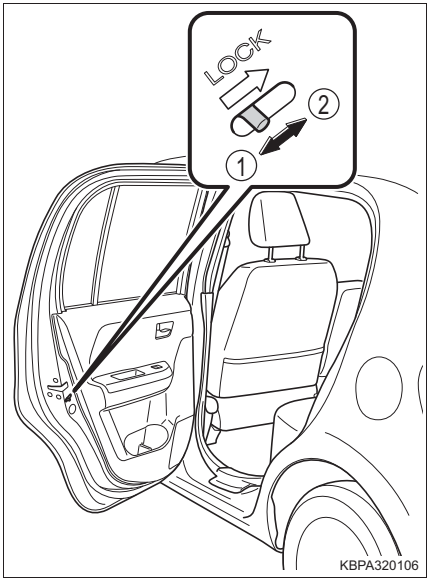
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■キー閉じ込み防止機能

●キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。次の状態で作動します。

・エンジンスイッチがアクセサリーモード またはイグニッション ON モードのとき
・車内に電子カードキーがあるとき

●次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

・車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にし、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
・すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

■半ドア走行時警告ブザー

→P. 321

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 85

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠／解錠

◆ キーフリーシステム

→P. 81

◆ ワイヤレスリモコン

→P. 90

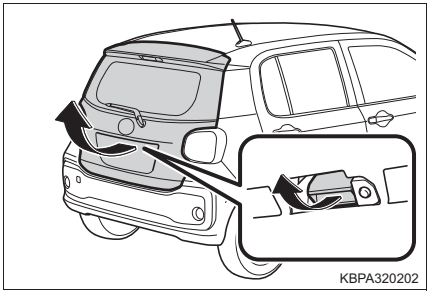
車内からの施錠／解錠

◆ ロックレバー

→P. 91

バックドアを開けるには

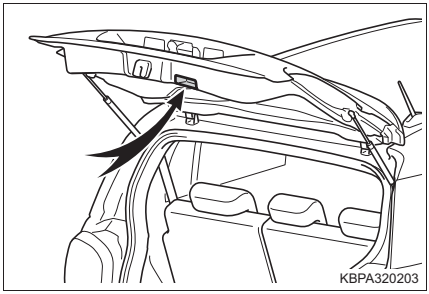
バックドアハンドルを引いたまま、バックドアを持ち上げる



バックドアを閉めるとき

バックドアインナーハンドルを持ってバックドアを引き下げる

必ず外から押して閉めてください。



⚠ 警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

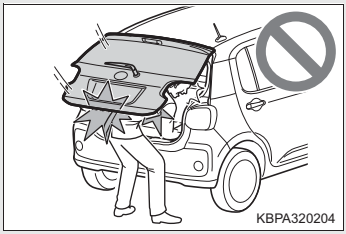
●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

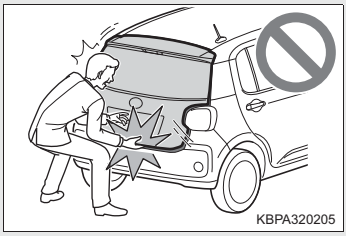
警告

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


KBPA320204

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアインナーハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


KBPA320205

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

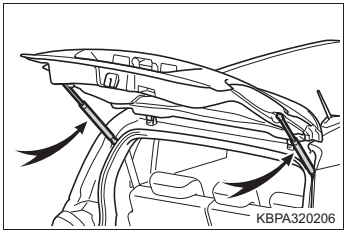
■**バックドアハンドルのスイッチについて**

バックドアハンドルのスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

■**ダンパーステーについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



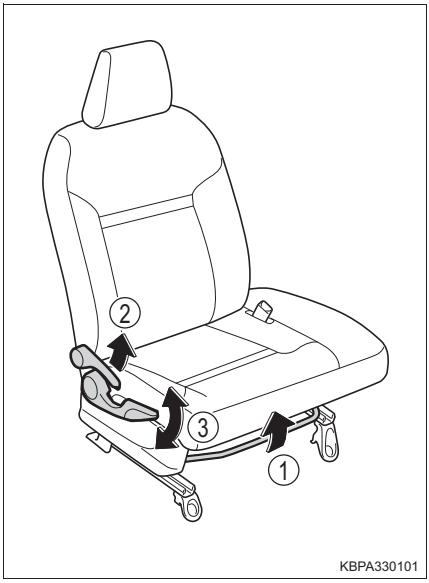
フロントシート

調整のしかた

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整★（運転席のみ）



⚠ 警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

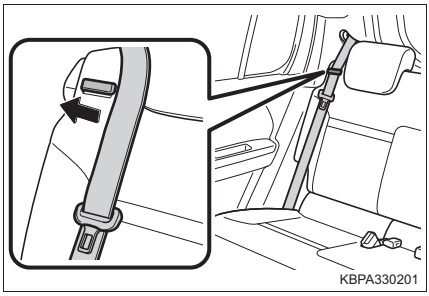
前倒しのしかた

■ 前倒しする前に

1 シートベルトを格納する

▶ リヤ中央席
→ P. 28

▶ リヤ左右席
シートベルトをベルトハンガーにかける

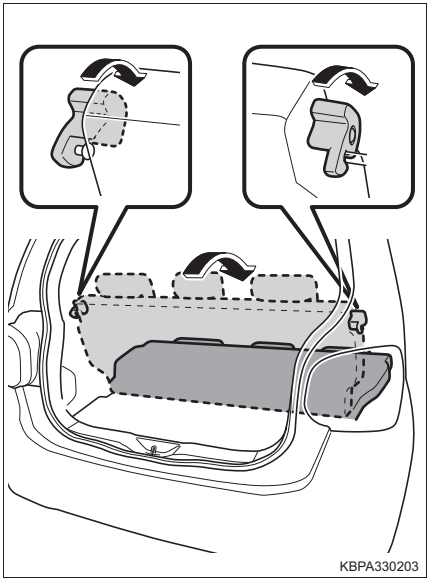

KBPA330201

2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 101）

■ リヤシートを前に倒すときは

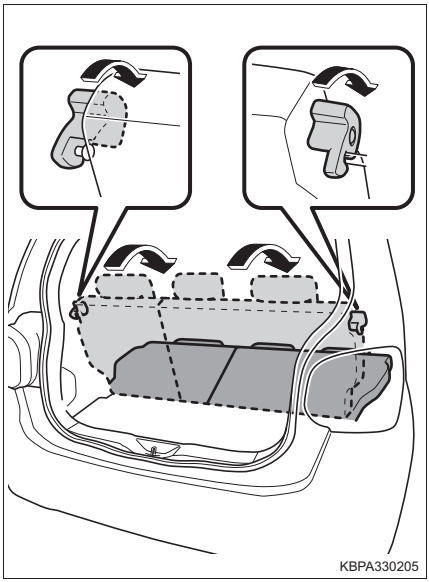
▶ 一体可倒シート

両手で同時にシートバックフックを押し、背もたれを前方に倒す


KBPA330203

▶ 分割可倒シート

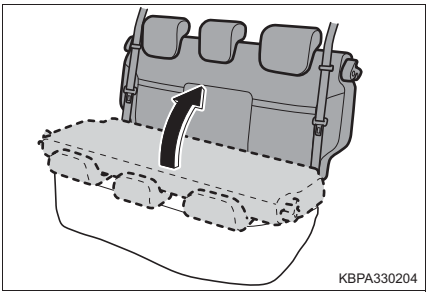
シートバックフックを引いて背もたれを前方に倒す


KBPA330205

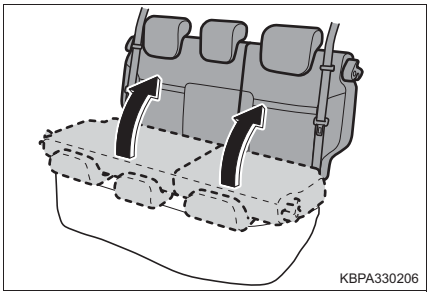
■ **リヤシートをもとにもどすときは**

1 背もたれを起こし、固定する

▶ 一体可倒シート


KBPA330204

▶ 分割可倒シート


KBPA330206

2 リヤシートベルトをベルトハンガーからはずす

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■リヤシートを操作するときは

●走行中にリヤシートを操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする

●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する

●倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとにもどしたあとは

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

●シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認する

⚠ 注意

■背もたれを前倒しするときは

背もたれを倒す前に、必ずシートベルトを格納してください。

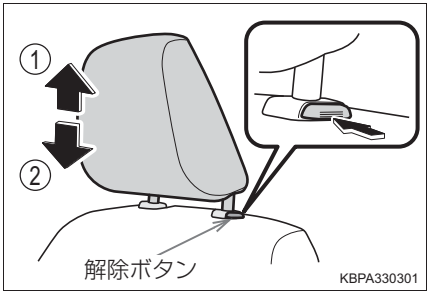
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

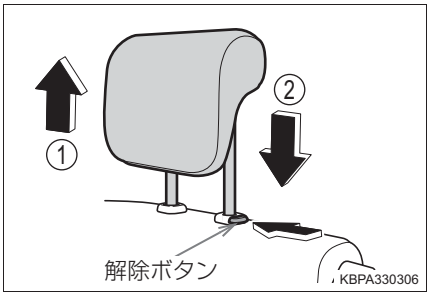


リヤシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

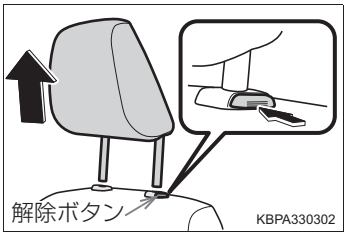


知識

■フロント席とリヤ中央席のヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。

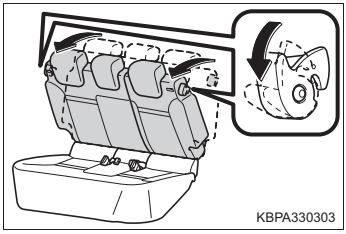
フロント席のヘッドレストが天井に当たってはずすことができないときは、背もたれを倒してください。
(→ P. 97)



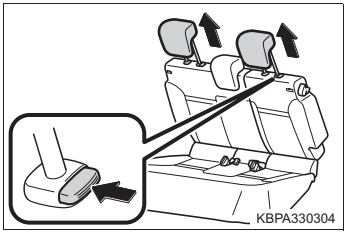
■リヤ左右席のヘッドレストを取りはずすとき

1 シートバックフックを引いて、背もたれを前に倒す

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



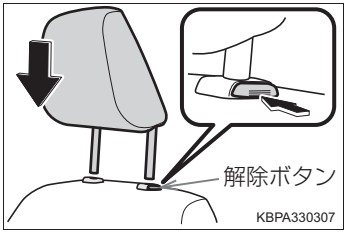
2 解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをはずす



■ヘッドレストを取り付けるとき

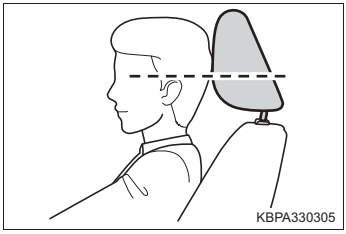
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■フロント席のヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

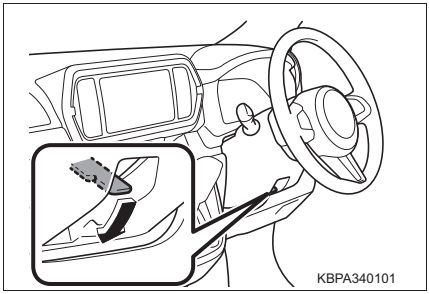
●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

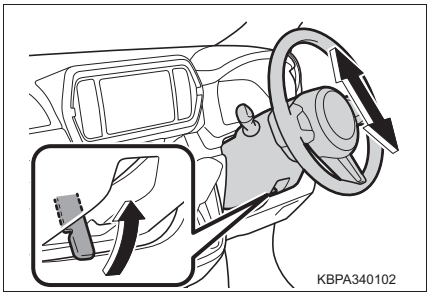
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



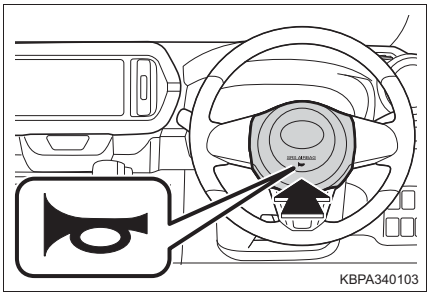
2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 104）

警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

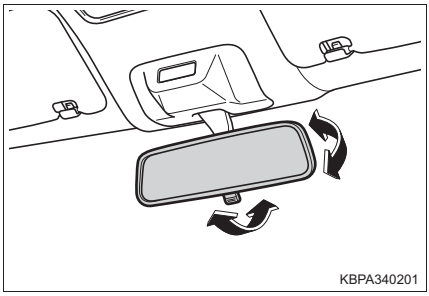
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの角度を調整することができます。

調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの角度を調整することができます。

インナーミラー本体を持って、調整する

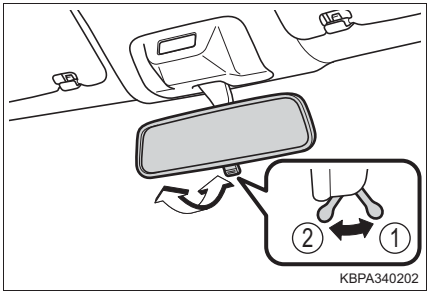

KBPA340201

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



KBPA340202

⚠ 警告

■走行中の警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

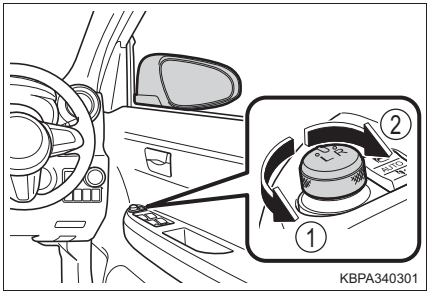
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

① 左

② 右



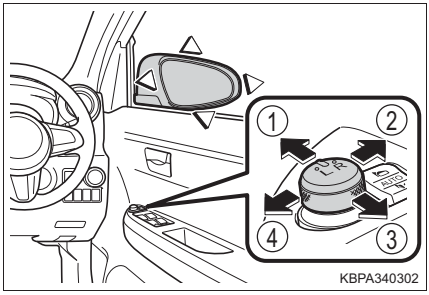
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左



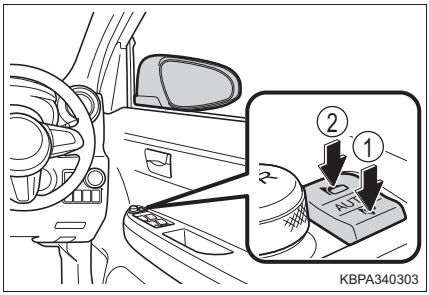
ドアミラーを格納する

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

スイッチを押す

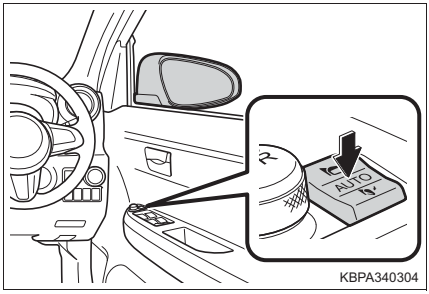
① 格納する

② 復帰する



■ オート作動

キーフリーシステムによるドアの施錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納します。



▶ 格納のしかた

1 スイッチを “AUTO”（中立）の位置にする

2 ロック／アンロックスイッチ操作、またはワイヤレスリモコン操作でドアを施錠する

▶ 復帰のしかた

エンジンスイッチをアクセサリーモード またはイグニッション ON モードにする

知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■オート作動での格納（または復帰）をさせたくないとき

スイッチを復帰（または格納）の位置にしてください。

■カスタマイズ機能

オート作動の作動内容などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 368）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ミラーの調整をしない

●ドアミラーを格納したまま走行しない

●走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

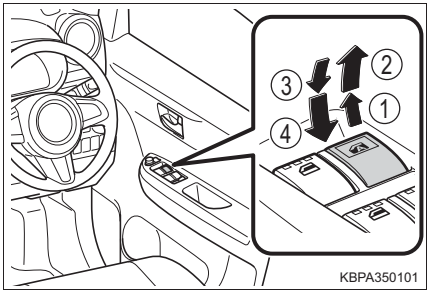
① 閉める

② 自動全閉（運転席のみ）※

③ 開ける

④ 自動全開（運転席のみ）※

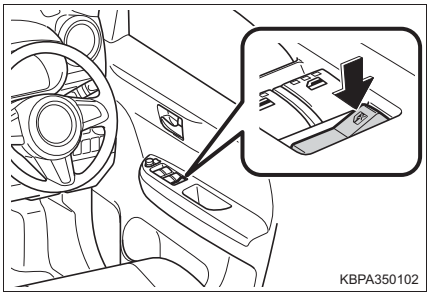
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動（運転席のみ）

エンジンスイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 40 秒間はドアガラスを開閉できます。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■運転席ドアガラスを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ドアウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

1 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 運転席ドアウインドウスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉にしたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを再接続したときは

パワーウインドウを適切に作動させるために、初期設定を次の手順で行ってください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 運転席ドアウインドウスイッチを下に押し続け、全開にする

3 運転席ドアウインドウスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉したあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

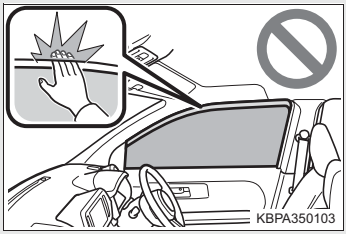
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 110）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、電子カードキーを携帯してお子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 114
荷物を積むときの注意..... 124

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 126
オートマチックトランスミッション 131
方向指示レバー 133
パーキングブレーキ..... 134

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 135
オートハイビーム 139
フォグランプスイッチ..... 142
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 143
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 145

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....147

4-5. 運転支援装置について

スマートアシストⅢ 151
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）.....162
誤発進抑制制御機能（前方・後方）.....172
車線逸脱警報機能.....181
先行車発進お知らせ機能 184
Stop & Start System (SMART STOP) 186
コーナーセンサー.....196
バックカメラ.....202
パノラミックビューモニター.....205
運転を補助する装置.....212

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....218

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンを始動する

→ P. 126

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 131）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 134）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 131）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 134）、シフトレバーを P にする（→ P. 131）

3 エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する

4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告灯が点灯します（→ P. 321）

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂部品（バンパー、バックドアなど）に取り付けることはできません。

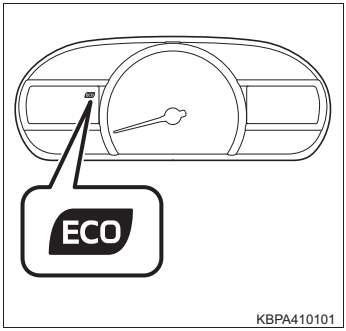
■環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトレバーが D 以外のとき

●車速が約 100km/h 以上のとき



エコドライブインジケーターランプの表示／非表示を設定できます。(→ P. 74)

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 308を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 131）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また、V フレックスフルタイム 4WD 車はオンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
脱出できないときは、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

⚠ 注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

⚠ 注意

■タイヤがパンクしたときは

▶応急用タイヤ装着車

応急用タイヤに交換してください。（→ P. 339）

▶タイヤパンク応急修理セット装着車

タイヤの損傷の程度を確認してください。

●修理可能な場合は、応急修理してください。（→ P. 327）

●修理不可能な場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト（4WD 車）各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード
・フタのない小物入れ／トレイ

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子カードキーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

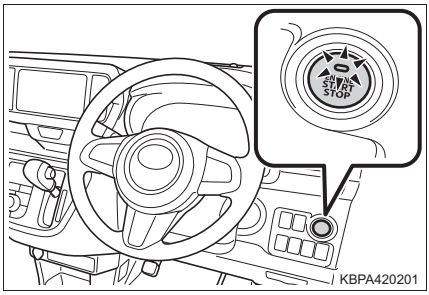
1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む

エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



KBPA420201

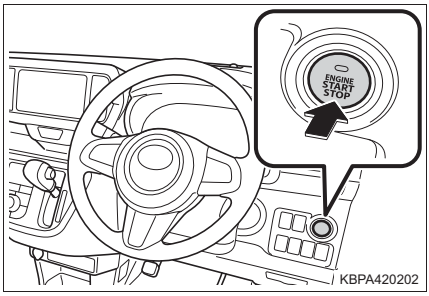
5 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



KBPA420202

エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 134）、シフトレバーを P の位置にする

3 エンジンスイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離して、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

OFF※

非常点滅灯が使用できます。

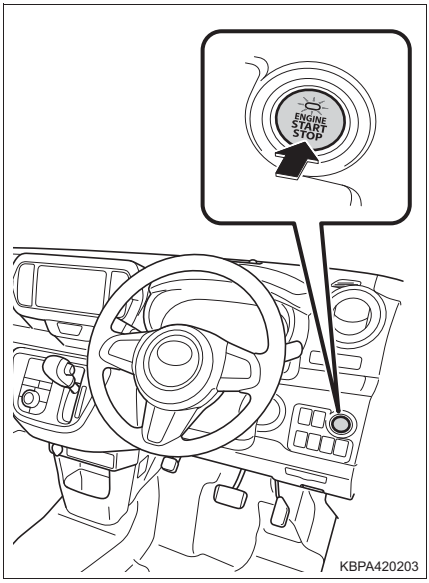
アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。
エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチのモードはアクセサリーモードになり OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを 2 回押す

4 エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上イグニッション ON モード (エンジンがかかっていない状態) か 1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子カードキーの電池の消耗について

→ P. 88

■キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 85

■ご留意いただきたいこと

→ P. 86

■エンジンが始動しないとき

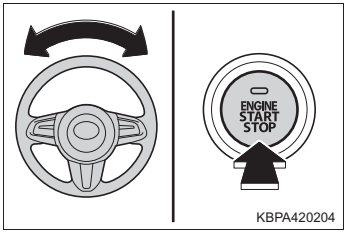
エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→ P. 60)

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにバックドアを除くいずれかのドアを開閉すると、ステアリングロックによりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

エンジンスイッチの表示灯がしばらく緑色に速く点滅します。



シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■エンジンスイッチの表示灯が黄色に点滅したとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子カードキーの電池が切れたときは

→ P. 283

■エンジンスイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合や速く連続して押した場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でキーフリーシステムを非作動にしたときは

→ P. 352

⚠ 警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ドアの施錠操作をしたりしないでください。ステアリングロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 308）
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンスイッチの表示灯が消灯していない場合エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■エンジンを始動するとき

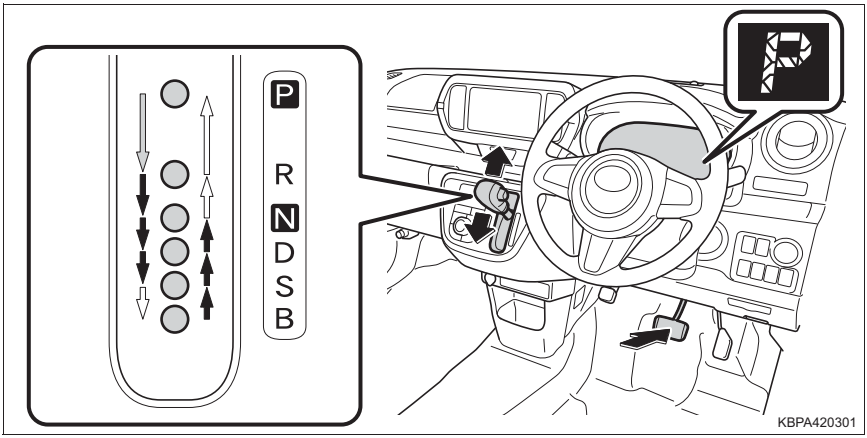
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



⇦ エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。

⇦ シフトレバーボタンを押して操作します。

← シフトレバーボタンを押さずに操作します。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

知識

■シフトレバーを P からシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

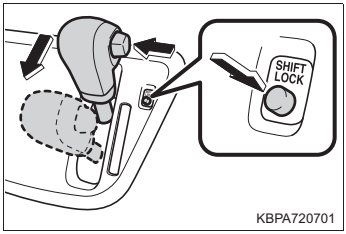
1 パーキングブレーキをかける

2 エンジンスイッチを OFF にする

3 ブレーキペダルを踏む

4 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。
エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

① 左折

② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持 ※）

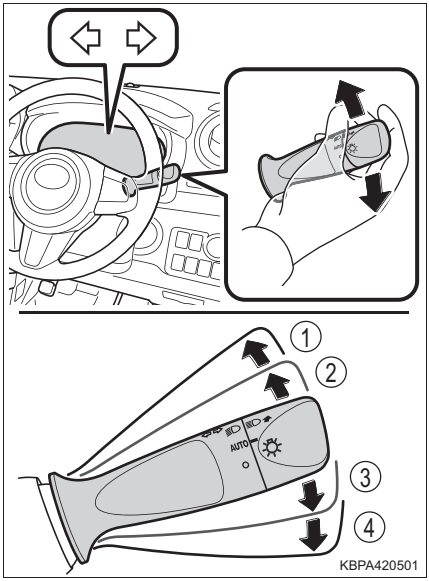
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持 ※）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折

※ ②または③の位置にレバー操作し、すぐに離したときは方向指示灯が 3 回点滅します。



■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の②または③の位置に操作してください。レバーを①または④の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

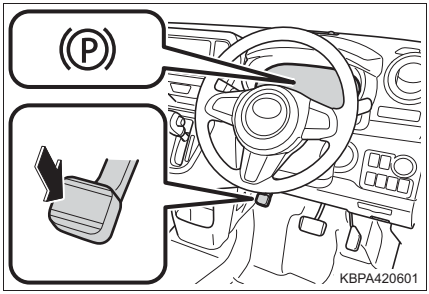
■カスタマイズ機能

方向指示灯の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 368）

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→ P. 322

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 218

⚠ 注意

■走行前の注意

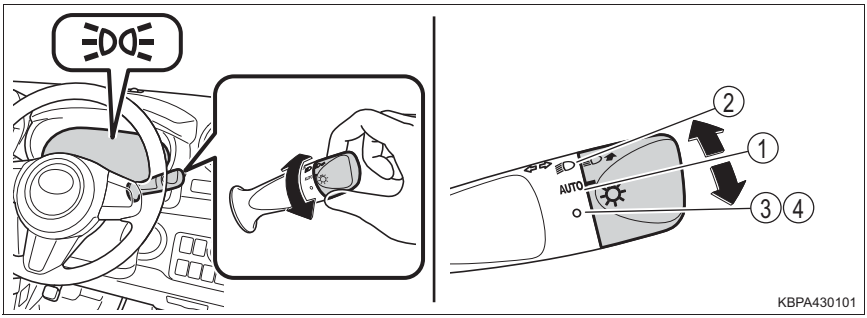
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、次のように☼スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



スイッチ位置		点灯・消灯するランプ		
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯	LED イルミネーション ランプ★
①	AUTO	自動点灯・消灯		点灯
②	≡D	点灯 ※1		
③ ※2、3	○	消灯	点灯	
④ ※2、4		消灯		

※1 エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは OFF のときも点灯します。
※2 ☼スイッチを ○ の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。
※3 車速が約 3km/h 以下で自動点灯しているとき
※4 車速が約 3km/h 以下で ☼スイッチを約 1 秒以上操作したとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ類の再点灯について

☼スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

- 車速が約 3km/h を超えたとき
- 再度 ☼スイッチを ○ の位置に操作したとき
- エンジンスイッチを再度イグニッション ON モードにしたとき
- 車速が約 3km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 30 秒経過したとき

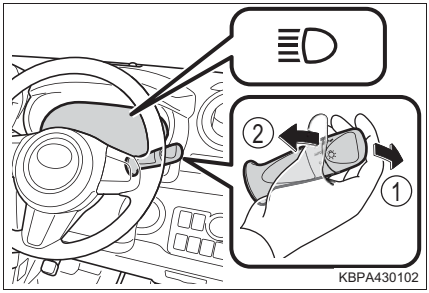
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

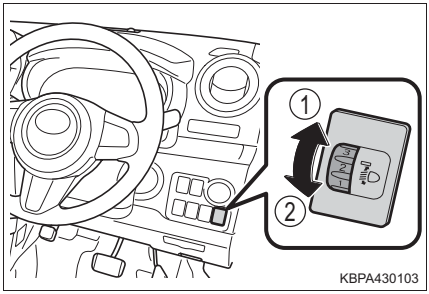


手動光軸調整ダイヤル（LED ヘッドランプ装着車を除く）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

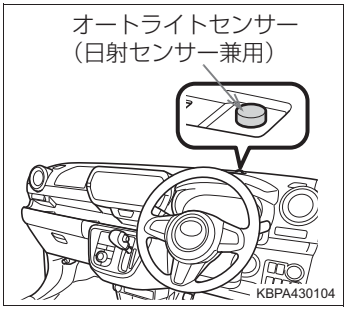
乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	FF 車 （前輪駆動）	4WD 車 （4 輪駆動）
運転者	なし	0	0
運転者と 助手席乗員	なし	0	0
全乗員	なし	1	1
全乗員	ラゲージルーム 満載時	2	2
運転者	ラゲージルーム 満載時	3	2.5

知識

■ライトセンサー

●次のことをお守りください。
お守りいただかないと自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

・センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らない
・ガラスクリーナーなどを吹きかけない



■ランプ消し忘れ防止機能

●ランプ類が点灯している状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードからアクセサリーモード、または OFF にすると、点灯していたランプ類が自動で消灯します。

●再度ランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、再度 ≡D の位置にします。

■オートレベリングシステム★

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチがアクセサリーモード または OFF の状態で、ヘッドランプ・尾灯を点灯して運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは OFF の状態で、ヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後にすべてのランプが自動消灯します。
自動消灯したあと、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

●エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき

●ランプスイッチを操作したとき（ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します）

●いずれかのドアを開閉したとき（ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。
また、お車から離れるときは、必ずランプ類を消灯してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートハイビーム

オートハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

オートハイビームを過信しないでください。オートハイビームは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切りかわらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

注意

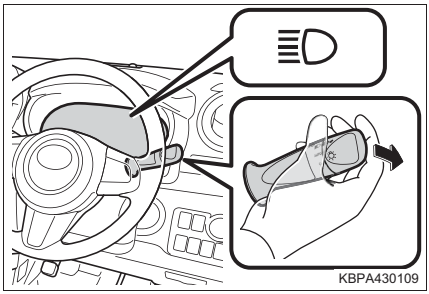
■オートハイビームを正しく作動させるために

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

オートハイビームの使い方

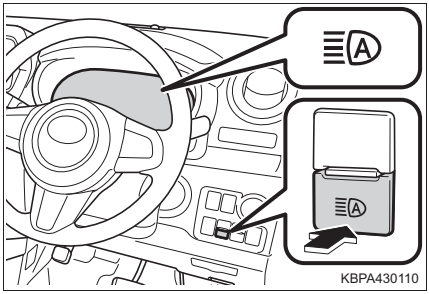
1 エンジンスイッチがイグニッション ON モード で、ランプスイッチが AUTO または の位置のときレバーを前方へ押す

ハイビーム表示灯が点灯します。



2 オートハイビームスイッチを押す

オートハイビームが作動すると、オートハイビーム作動灯が点灯します。



ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の街路灯が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 20km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の街路灯が明るい

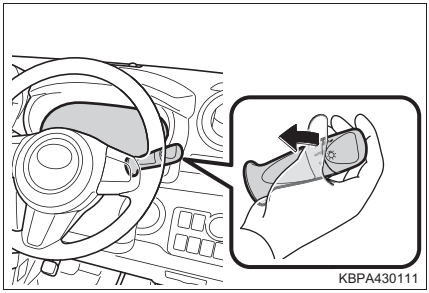
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートハイビーム作動灯が消灯します。

オートハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

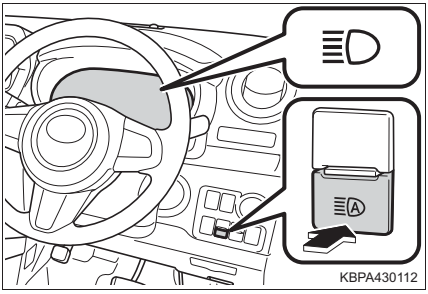

KBPA430111

■ ハイビームへの切りかえ

オートハイビームスイッチを押す

オートハイビーム作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。


KBPA430112

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■オートハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・対向車または先行車のランプの明るさ
・対向車または先行車の動きや向き
・対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
・対向車または先行車が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●オートハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
・ステレオカメラの温度が高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変形があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

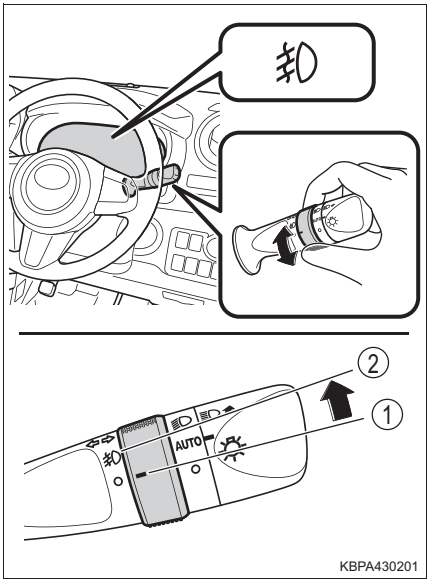
■オートハイビーム警告灯が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

① ○ 消灯する
② 点灯する



知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

車速感応式間欠ワイパー装着車は を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間がかわります。

① ○ 停止

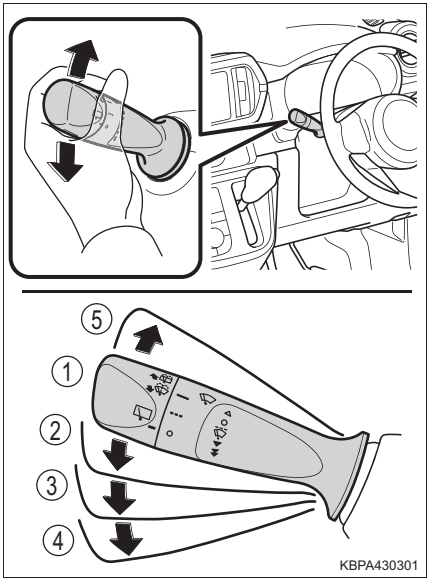
② 間欠作動

車速感応式間欠ワイパー装着車は、車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ 低速作動

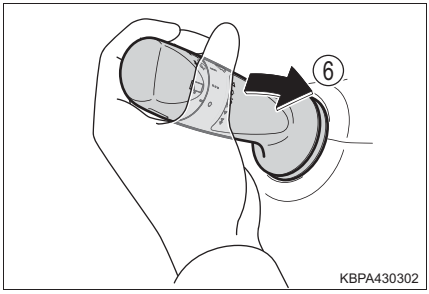
④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動



⑥ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■カスタマイズ機能★

車速感応機能の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：P. 368）

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）★

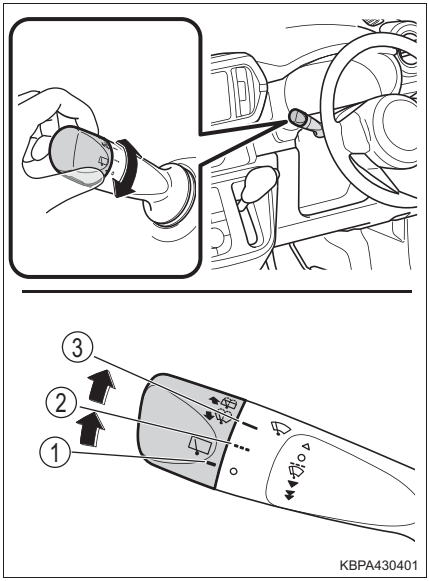
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

① ○ 停止

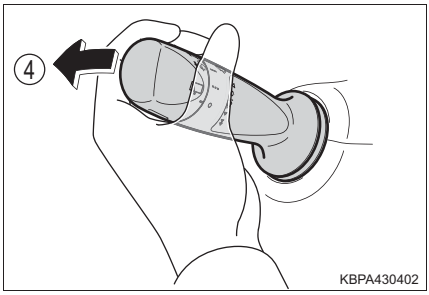
② ---約 4 秒間低速作動した後、間欠作動

③ ——通常作動



④ ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R にするとリヤワイパーが数回作動します。

■カスタマイズ機能

作動の間隔などの設定を変更することができます。

（カスタマイズ一覧→ P. 368）

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

⚠ 警告

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■**給油するとき**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジン出力が低下する

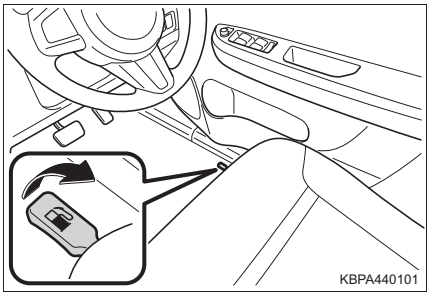
●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

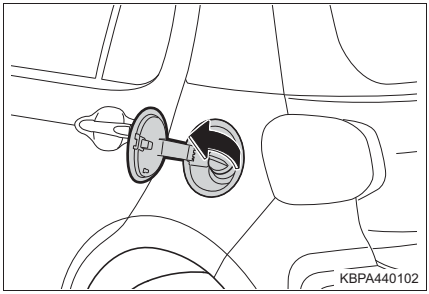
給油口の開け方

1 オープナーを上げる

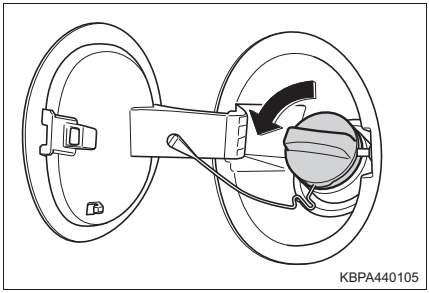


2 給油扉を止まる位置まで開ける

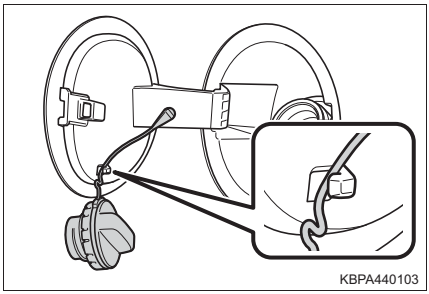
給油扉がもどらないことを確認する。



3 キャップをゆっくりまわして開ける



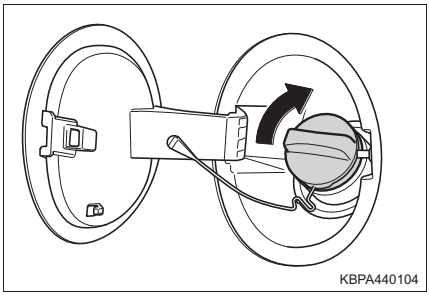
4 キャップをハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スマートアシストⅢ ※

※ “スマートアシスト” はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

スマートアシストⅢは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→P. 162

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→P. 162

◆ 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

→P. 172

◆ 車線逸脱警報機能

→P. 181

◆ 先行車発進お知らせ機能

→P. 184

◆ オートハイビーム

→P. 139

警告

■スマートアシストⅢについて

●スマートアシストⅢは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストⅢは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

●次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストⅢの機能を停止してください。（→ P. 155）

・タイヤの空気圧が適正でないとき
・応急用タイヤ★やタイヤチェーンを装着しているとき
・摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
・メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
・タイヤパンク応急修理セット★を使用したとき
・サスペンションを改造したとき
・ステレオカメラの視界をさまたげるようなものを車両に取り付けたとき
・ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
・ヘッドランプの光軸がずれているとき
・ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
・荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
・車両を改造・架装したとき
・けん引されるとき
・キャリアカーに積載するとき
・シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
・リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
・サーキットなどでスポーツ走行するとき
・脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
・冠水した道を走行するとき
・事故や故障で自車の走行が不安定なとき
・ブレーキ警告灯が点灯しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両データの記録について

スマートアシストⅢには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ハンドルおよびシフトレバーの操作状況
- 車速などの車両情報
- スマートアシストⅢの各機能の作動状況
- 先行車や障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオカメラの画像情報（2 次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

■ データの取り扱いについて

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、次の場合を除き、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

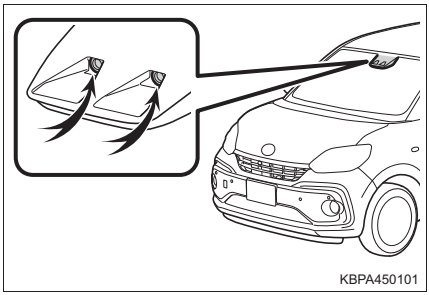
【ここでいうトヨタは、トヨタ自動車株式会社を意味しています。】

記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で必要な情報を認識します。

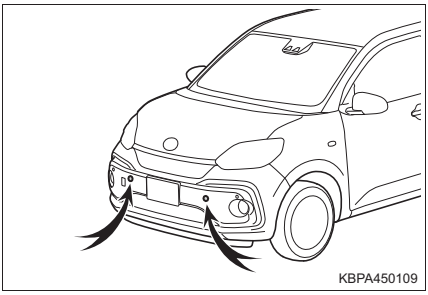
- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オートハイビーム


KBPA450101

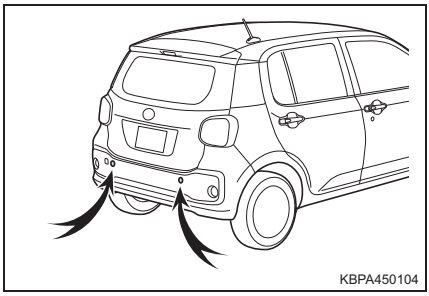
ソナー

ソナーは、誤発進抑制制御機能（前方・後方）で必要な情報を認識します。

▶ フロントソナー


KBPA450109

▶ リヤソナー


KBPA450104

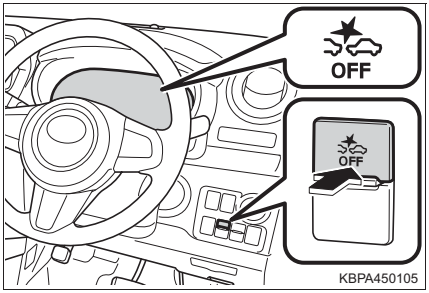
スマートアシストⅢの機能を停止するには

スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストⅢの機能を停止することができます。

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・誤発進抑制制御機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを 2 秒以上押し続ける

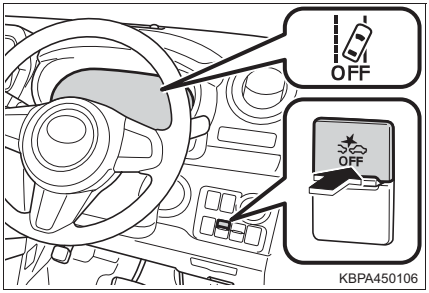
“ピピッ” とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。
もう一度 2 秒以上押し続けると、“ピピッ” とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態にもどります。



■ 車線逸脱警報機能を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ” とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。
もう一度押すと、“ピピッ” とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態にもどります。



知識

■ スマートアシストⅢの自動復帰について

次の機能は機能を停止した場合でも、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると自動的に作動可能状態にもどります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能

■ 車線逸脱警報機能について

車線逸脱警報機能の作動可能状態または停止状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

■スマートアシストⅢの作動状態について

ブザーとメーター内の表示でスマートアシストⅢの作動状態をお知らせします。

ブザー	表示	作動状態
“ピピピピピピッ”	（点滅）	衝突警報機能が作動
“ピピピピピ” と鳴り続ける	（点滅）	衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ、または 2 次ブレーキが作動
“ピピピッ” と鳴り続ける	（点滅）	衝突回避支援ブレーキ機能の 2 次ブレーキが作動した後、車両が停止 運転者の操作でブザーとメーター内の表示が終了します。
“ピピピピピピッ”	（点滅）	誤発進抑制制御機能（前方）の警報が作動
“ピピピピピ” と鳴り続ける	（点滅）	誤発進抑制制御機能（前方）の警報が作動するとともにエンジン出力を抑制
“ピピピピピッ”	（点滅）	誤発進抑制制御機能（後方）の警報が作動
“ピピピピピ” と鳴り続ける	（点滅）	誤発進抑制制御機能（後方）の警報が作動するとともにエンジン出力を抑制

ブザー	表示	作動状態
“ピピピピッ ピピピピッ”	（点滅）	車線逸脱警報機能が作動
“ピピピッ”	（点滅）	先行車発進お知らせ機能が作動
－		オートハイビームが作動

■スマートアシストⅢが作動しない場合

次のいずれかの場合、スマートアシストⅢの機能は作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- 「スマアシ故障」が表示されているとき（システム異常）
- 「スマアシ停止」が表示されているとき※（機能停止）

※ 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識による誤発進抑制制御機能（前方）は作動します。

警告

■**ステレオカメラについて**

●ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。

●ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

■**ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ステレオカメラ前面のフロントウインドウガラスは常にきれいにしてください。

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
- フロントウインドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 225, 231）
- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。（→ P. 277）
  - ・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。
  フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- トヨタ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しないで下さい。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けないでください。
- インナーミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメントパネル上部に物を置かないでください。フロントウインドウガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドウガラスへの映りこみにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。

警告

●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けないでください。

●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。

●トヨタ純正品以外のインナーミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

■ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ソナーは常にきれいにしてください。

・雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。
・お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、すみやかにふき取ってください。

●ソナーにワックスや撥水剤などを塗らないでください。

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水をあてないでください。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。

●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●ソナーを取りはずしたり、分解したりしないでください。

●ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。

●ソナー、およびその周辺部分にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。

●バンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。

●バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■汚れ検知機能について

●ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
汚れを検知した場合は、スマートアシストⅢの機能が自動的に停止します。

⚠ 注意

■スマートアシストⅢの機能停止について

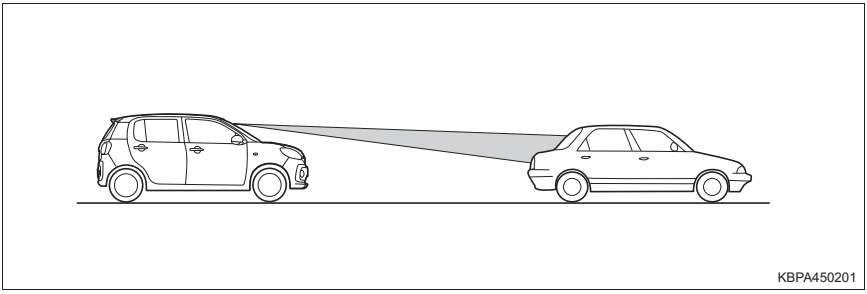
次のようなときは、状況によってはスマートアシストⅢの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。（→ P. 325）
状況が改善されれば再び機能は作動します。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
- エンジン始動直後
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
- ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。



◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

次の場合にブザーとメーター内の表示（P. 156）で注意をうながします。

- 車速約４～ 100km/h で走行中、前方車両に対し自車との速度差が約４～ 100km/h で衝突のおそれがあるとき
  状況によっては、二輪車、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。
- 車速約４～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約４～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

次の場合にブザーとメーター内の表示（P. 156）で注意をうながし、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

- 車速約４～ 80km/h で走行中、前方車両に対し自車との速度差が約４～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約４～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約４～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、次の場合にブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

- 車速約30 ～ 80km/h で走行中、前方車両に対し自車との速度差が約30 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約30 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 30 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突がさけられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果はさまざまな条件によりかわるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 170
・ 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 168、170

●安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について

●衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両や歩行者に作動します。二輪車や電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。

●緊急ブレーキが作動したとき、アクセル操作をしても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルを全開に踏み込むと衝突回避支援ブレーキを解除します。

●運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない場合があります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、作動車速内であっても、前方車両との速度差が約 30km/h を超える場合、スマートアシストⅢの性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車両との速度差が約 80km/h（対歩行者の場合は速度差が約 50km/h）を超える場合は、衝突回避支援ブレーキ機能は作動しません。

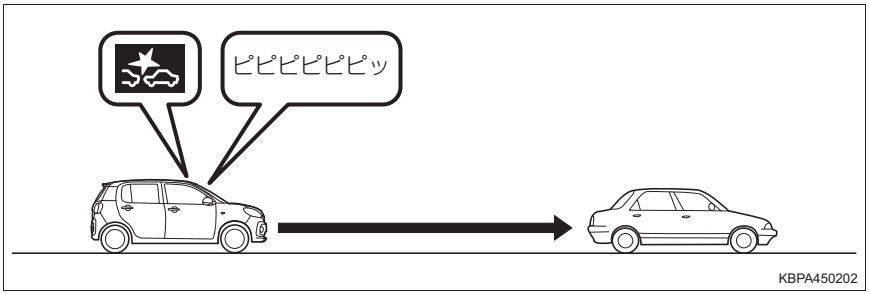
●シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 26）

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

1～4の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

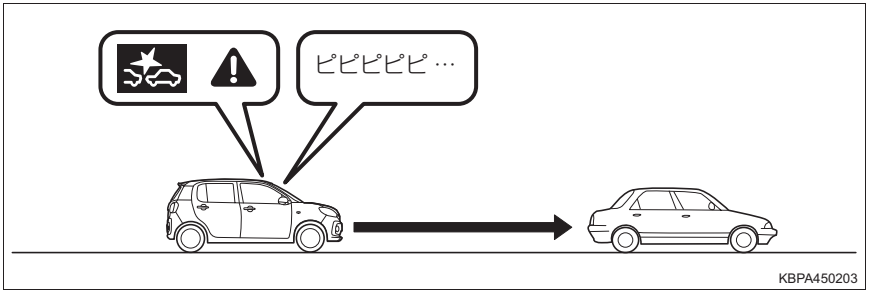
・システム作動中は、ブザーとメーター内の表示で運転者に注意をうながします。
・ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
・ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

1 衝突警報



前方車両・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとメーター内の表示で運転者に注意喚起して衝突回避操作をうながします。

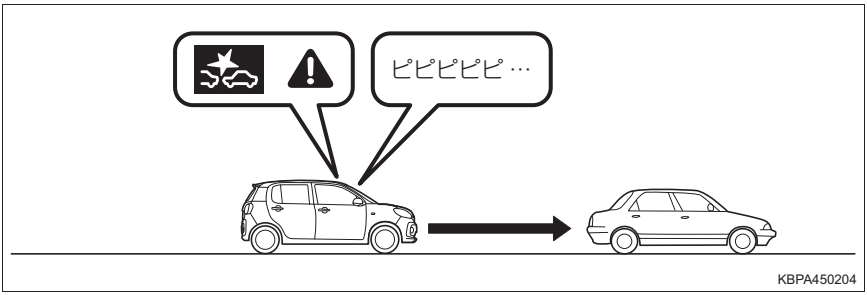
2 1次ブレーキ



前方車両・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

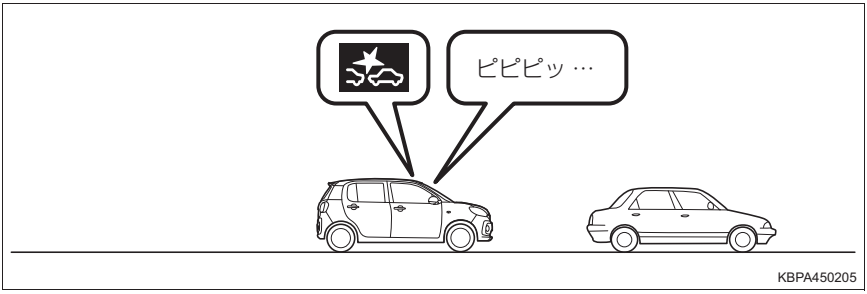
・前方車両・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとった場合は、ブレーキ制御を行いません。
・運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル・ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

3 2 次ブレーキ



前方車両・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1 次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続した後、ブレーキ制御を解除します。
停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

知識

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストの作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード

●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯

●「スマアシ停止」が表示されていない

●「スマアシ故障」が表示されていない

●シフトポジションが P・R 以外

●次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

機能	対象	作動車速、速度差 ※1
衝突警報機能	対車両	約 4 ～ 100km/h
	対歩行者	約 4 ～ 50km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約 4 ～ 80km/h
	対歩行者	約 4 ～ 50km/h
被害軽減ブレーキアシスト ※2	対車両	約 30 ～ 80km/h
	対歩行者	約 30 ～ 50km/h

※1 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

※2 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を停止するには

→ P. 155

■衝突回避支援ブレーキについて

●状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。

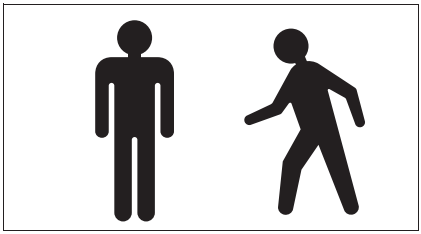
●衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。

●衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

⚠ 注意

■ステレオカメラについて

ステレオカメラは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- ●前方車両や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- ●車両の状態（積載量・乗員など）
- ●路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- ●前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- ●運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- ●エンジン始動直後
- ●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- ●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
  - ・ガラスコーティング剤を使用したとき
  - ・フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
  - ・フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
  - ・フロントウインドウウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
  - ・フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
  - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - ・トヨタ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）

⚠ 注意

- 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれやゆがみが生じたとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両、歩行者に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路など、凸凹やわだちのある道路のとき
- 前方車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方車両、歩行者に接近したとき
- 前方車両の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 前方車両や対向車両による水しぶきや雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどがあるとき
- 自車が車線変更を行い、前方車両のすぐうしろに接近したとき
- 前方車両が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- 対向車やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車両が傾いているとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- 歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが歩行者を認識できないとき

⚠ 注意

・歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
・身長の低い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
・歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
・歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
・集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
・ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
・周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
・対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者など）

■**衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合**

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

●狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき

●前方車両に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両の寸前まで接近して停止するとき

●停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき

●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

●水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき

●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき

●前方車両および対向車両の排気ガスや水、雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどで前方の視界が悪いとき

●ステレオカメラの光軸がずれているとき

●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき

●路面上に大きなペイントなどがある場合

●カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき

●カーブですれ違う対向車両があるとき

●駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき

⚠ 注意

- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合
- 複数台の前方車両などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 先行車両の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、濡れた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両と車両、車両と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさの物が並んでいるとき
- すれ違う歩行者、先行車両の二車線変更など、二つの物が交差して入れかわるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両のとき
- 横断歩行者が自車正面に差し掛かる前に立ち止まったとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

■**衝突回避支援ブレーキについて**

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

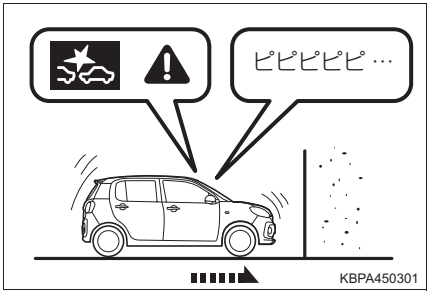
誤発進抑制制御機能（前方・後方）

誤発進抑制制御機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の表示（→ P. 156）による運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。

◆ 前方

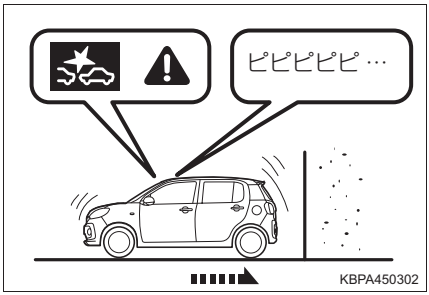
次の場合に作動します。

- ステレオカメラが前方約　4m 以内に障害物を認識している場合
- フロントソナーが前方約２～３ m 先までの壁などの障害物を認識している場合



◆ 後方

リヤソナーが後方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



警告

■誤発進抑制制御機能について

●誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進をゆるやかにするものではありません。

●誤発進抑制制御機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進をゆるやかにするものではありません。

●故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。

●前方と後方では、認識できる障害物が異なります。

●誤発進抑制制御機能とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていても誤発進抑制制御機能が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていなくても、誤発進抑制制御機能が作動する場合があります。

●万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストⅢを停止してください。（→ P. 155）

●運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。

●TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、誤発進抑制制御機能は作動しません。

●エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能は作動しません。

誤発進抑制制御機能の作動

■ 警報

車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の表示で警報し、運転者に衝突回避操作をうながします。

● 後方で作動したとき、ブザーはリバース警告ブザーよりも早い間隔で鳴ります。（→ P. 156）

■ エンジン出力の抑制制御

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の表示で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

● エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約 8 秒間継続します。

● エンジン出力の抑制制御中は、メーター内のマスターウォーニングが点灯します。

知識

■誤発進抑制制御機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

●エンジン回転中

●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯

●「スマアシ停止」が表示されていない ※1

●「スマアシ故障」が表示されていない

●ブレーキペダルを踏んでいない

●車速が 0 ～約 10km/h

●方向指示表示灯が消灯

●メーター内の TRC OFF 表示灯・VSC OFF 表示灯が消灯

●前方の場合は、シフトポジションが D・S・B

●後方の場合は、シフトポジションが R

●フロントワイパーを “ 高速 ” で作動させていない ※2

※1 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識による誤発進抑制制御機能（前方）は作動します。

※2 フロントワイパーを “ 高速 ” で作動させていても、ステレオカメラの認識による誤発進抑制制御機能（前方）は作動します。

■誤発進抑制制御機能（前方・後方）を停止するには

→ P. 155

⚠ 注意

■誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないおそれのある状況

次の条件の違いにより、誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないことがあります。

●前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）

●車両の状態（積載量・乗員など）

●路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）

●運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき

●車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・応急用タイヤ★など）

●車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し

●エンジン始動直後

●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合

●前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）

●勾配が急な坂道を走行しているとき

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
・前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
・フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
・ステレオカメラの温度が極端に高いとき
・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
・屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
・ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
・雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、障害物の認識が不完全になったとき
・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
・荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

・前方車両などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
・排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
・凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
・障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
・車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
・自車が進路変更して障害物のすぐうしろに接近したとき
・急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
・ステレオカメラの認識エリア外に障害物が存在するとき
・障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
・しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
・障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
・障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近しすぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
・障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
・障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
・自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）

・背の低い障害物
・小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
・針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
・急に前方に現れたもの
・車両前方を横切るもの
・人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
・地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
・凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
・ソナーの認識エリア外に存在する障害物

⚠ 注意

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

・バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
・動いているもの
・スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
・障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
・障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
・壁から柱や配管などが突き出しているとき
・認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
・炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
・雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
・周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
・ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
・衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動することがあります。

●前方車両に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき

●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

●水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき

●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき

●前方車両および対向車両の排気ガスや水、雪などの巻上げ、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどを通過するとき

●停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車両が自車に向かって接近するとき

●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき

●路面上に大きなペイントや段差、縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき

●カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき

●カーブですれ違う対向車両があるとき

●カーブや交差点に障害物があるとき

⚠ 注意

●縦列駐車から本線に合流するとき
●駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき
●キャリアカーに積載するとき
●河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
●縦列駐車をするとき
●前方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
●車両側面の近くに障害物があるとき
●狭いスペースに進入するとき
●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
●霧・雪・砂嵐など悪天候の状況
●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
●ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
●車両姿勢が大きく傾いたとき
●積載状況などにより車高が著しく変化した場合
●衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
●雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■**誤発進抑制制御機能（後方）が作動しない場合**

次のような障害物に対しては、誤発進抑制制御機能（後方）は作動しません。

●背の低い障害物
●小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
●針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
●急に後方に現れたもの
●車両後方を横切るもの
●人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
●地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
●凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
●ソナーの認識エリア外に存在する障害物

⚠ 注意

■誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないことがあります。

●運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）

●路面の状態（勾配・凹凸など）

●車両の状態（積載・乗員など）

●悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧など）

●エンジン始動直後

●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合

●後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）

●勾配が急な坂道を走行しているとき

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

・バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
・動いているもの
・スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
・障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
・障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
・壁から柱や配管などが突き出しているとき
・認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
・炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
・雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
・周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
・ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
・衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

⚠ 注意

■衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動することがあります。

●障害物の寸前まで接近して停止するとき

●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

●ビニールカーテン・旗などをもぐって通過するとき

●水しぶき・雪などの巻上げがあったとき

●障害物の横を至近距離で通過するとき

●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき

●縦列駐車をするとき

●後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき

●車両側面の近くに障害物があるとき

●路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき

●狭いスペースに進入するとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐など悪天候の状況

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき

●ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化した場合

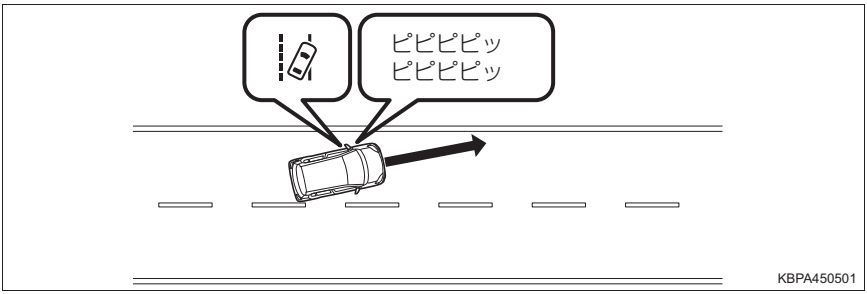
●衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

●雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白線または黄線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の表示で運転者に注意をうながします。



警告

■車線逸脱警報機能について

●車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。

●車線逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して警報する機能ではありません。

■車線逸脱警報を作動させない場合

次のような条件では、車線逸脱警報を作動させない場合があります。

●車線内を走行していないとき

●カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき

●車線幅が狭いとき

●方向指示器を使用しているとき

●急な操舵などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき

●車線逸脱警報が作動してから約 2 秒間

知識

■車線逸脱警報機能の作動条件

自車が次の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジンスイッチがイグニッション ON モード
- ●車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯
- ●「スマアシ停止」が表示されていない
- ●「スマアシ故障」が表示されていない
- ●車速が約 60 ㎞ /h 以上
- ●方向指示表示灯が消灯（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- ●直線または緩やかなカーブの道路を走行している

■車線逸脱警報機能を停止するには

→ P. 155

⚠ 注意

■車線逸脱警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- ●白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- ●悪天候（豪雨・吹雪・濃霧など）により白（黄）線が見えにくいとき
- ●路面に雪が残っていたり湿っているとき
- ●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- ●トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ●雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- ●木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- ●夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき

⚠ 注意

●道路の状態（特に次のような場合）

・車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
・道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
・交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
・車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
・車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
・坂道や丘の頂上に近付いているとき
・段差などにより車両が大きく揺れたとき
・路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
・道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
・車線が二重に描かれている道路を走行するとき
・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
・濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
・分岐・合流路などを走行するとき
・急なカーブのある道路を走行するとき
・道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
・ガードレールの影などがあるとき
・区画線が二重に描かれているとき
・道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

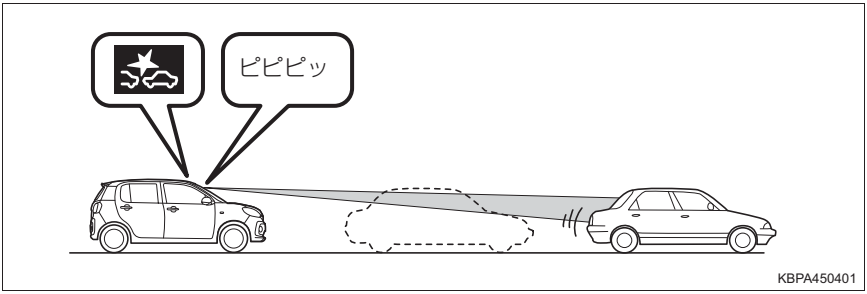
●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

・フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
・フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
・フロントウインドウウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分に拭き取れていないとき
・重い荷物を積んで車両が傾いているとき
・先行車との車間距離が短いとき
・自車が白線（黄線）に対してまっすぐに走行していないとき
・ステレオカメラが高温になったとき

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとメーター内の表示で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。



警告

■先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

■先行車発進お知らせ機能の作動条件

自車が次の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジンスイッチがイグニッション ON モード
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- ●「スマアシ停止」が表示されていない
- ●「スマアシ故障」が表示されていない
- ●シフトポジションが D・S・B でブレーキペダルを踏んでいる、またはシフトポジションが N
- ●停止してから数秒経過

■先行車発進お知らせ機能を停止するには

→ P. 155

■カスタマイズ機能

ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。

（カスタマイズ一覧：→ P. 368）

■先行車発進お知らせ機能が正常に作動しない場合

次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。

●停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき

●停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合

●天候や道路形状などにより先行車を認識できないとき

●ステレオカメラが先行車を見失ったとき

●横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）

●自車が停止したときに先行車が動いている場合

●先行車との距離が極端に短いとき

●先行車が急発進や急旋回した場合

●先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合

●先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき

●車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき

●荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき

●後端から積荷が飛び出している先行車のとき

●車高の低い先行車のとき

●車両が斜め、または横向きに停まっているとき

●ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき

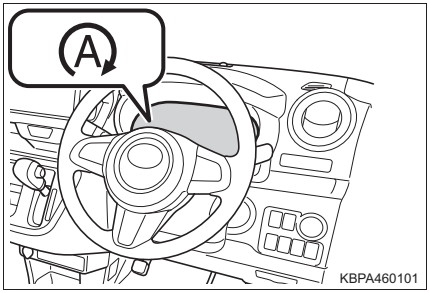
●凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

Stop & Start System (SMART STOP)

赤信号や交差点などで減速した際、停車前（約 9km/h）もしくは停車後に燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

■ エンジンが停止する

1 シフトレバーを D で走行中、エンジン停止が可能な状態になると、Stop & Start 表示灯が点灯する
（→ P. 188）



2 ブレーキペダルを踏み減速すると、停車前（約 9km/h）もしくは停車後にエンジンが自動的に停止する

Stop & Start 表示灯は点灯したままです。

■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

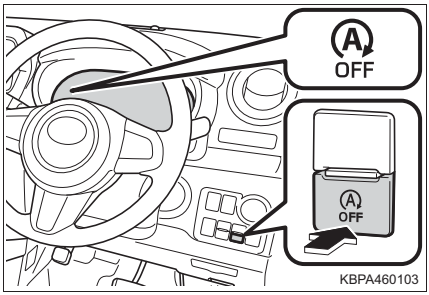
Stop & Start 表示灯が消灯します。
しばらく走行して、再びエンジン停止が可能な状態になると、Stop & Start 表示灯が点灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするにはStop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますが、エンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに（Stop & Start システムが作動可能状態にもどる）、Stop & Start システムによって、エンジンが停止します。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ油圧 (ブレーキの効き) を最長約 2 秒間保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。
駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

知識

■Stop & Start システムの作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start 表示灯が点灯し、エンジン停止が可能な状態になります。

・エンジンが十分暖まっているとき
・トランスミッションオイルが十分に暖まっているとき
・エンジン冷却水温が高すぎないとき
・エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと
（走行せずにアイドリング状態を続けていても、エンジンは停止しません）
・バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・ボンネットが閉まっているとき
・外気温が約 0 ℃以上のとき（メーター内に表示されている外気温と異なる場合があります）
・シフトレバーが D のとき
・

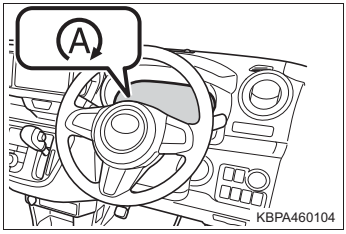
が OFF のとき（オートエアコン装着車）
・PTC ヒーター★が作動していないとき
・車内温度が快適なとき（マニュアルエアコンの PTC ヒーター装着車の冷房時、オートエアコン装着車の冷房時）
・システム（Stop & Start システム・エンジン電子制御・オートマチックトランスミッション電子制御・ABS・VSC・エアコン・電動パワーステアリング・車両通信）が正常なとき

●次の状況では、エンジン停止が可能な状態になるまで時間がかかる場合があります。

・バッテリーが放電しているとき
・バッテリー交換などにより、バッテリー端子をはずしたあと
・冷房初期（オートエアコン装着車）

■Stop & Start 表示灯について

走行中に Stop & Start システムの作動条件が満たされると、Stop & Start 表示灯が点灯し、停止時に Stop & Start システムが作動可能状態であることをお知らせします。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■停車前のエンジン停止条件

●Stop & Start 表示灯が点灯して、次の条件が満たされたとき、停車前にエンジン停止します。

・車速が約 9km/h になったとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき
・車幅灯が消灯しているとき
・フロントワイパーが作動していないとき
・ハンドルの切れ角が小さいとき
・急減速していないとき
・ABS、VSC が作動していないとき
・衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき

●次の状況では、停車前にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。

・ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
・勾配が急な坂道を走行しているとき
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・ゆるやかに減速しているとき

■停車後のエンジン停止条件

●Stop & Start 表示灯が点灯して、次の条件が満たされたとき、停車後にエンジン停止します。

・停車しているとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき
・ハンドル操作をしていないとき
・ABS、VSC が作動していないとき
・衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき

●次の状況では、停車後にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。

・ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき

■エンジン停止中の操作について

●右左折や合流時など、エンジン停止中に事前に発進準備をしたいときは、下記の操作で事前にエンジンを再始動することができます。

・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む
・ハンドル操作をする
・Stop & Start キャンセルスイッチを押す（→ P. 187）

●エンジン停止中にシフトレバーを D から N、または S･B にしてもエンジン停止は継続します。
ただし、シフト レバーを N にしたあと他のシフトポジションにすると、エンジンが再始動します。

●給油時はシフトレバーを P にし、エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止します。

■エンジンの再始動について

●エンジン停止中に次のいずれかの操作を行うと、エンジンが自動的に再始動します。

・ブレーキペダルから足を離したとき
・ブレーキペダルをさらに強く踏みこんだとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・ハンドル操作をしたとき
・シフトレバーを R・P にしたとき
・シフトレバーを N にしたあと、他のシフトポジションにしたとき
・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
・ を押したとき（オートエアコン装着車）
・運転席ドアを開けたとき
・運転席シートベルトをはずしたとき

●エンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start 表示灯は点滅後、消灯します）

・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・バッテリーの放電量が多いとき
・傾斜などで車両が動き出したとき
・停車前にエンジンを停止した後、下り坂で加速したとき
・警告灯が点灯するなど、各システム（エンジン電子制御・オートマチックトランスミッション電子制御・ABS・VSC・TRC・エアコン・電動パワーステアリング）に異常が発生したとき
・冷房時、エアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき
・PTC ヒーター★が作動したとき
・エンジン停止してから約 3 分経過したとき

●エンジン停止中に Stop & Start システムに異常が発生したり、スターターやバッテリーが交換時期になったときは、Stop & Start キャンセル表示灯が点滅し、エンジンが自動的に再始動します。

●次の状況では、エンジン停止の時間が短くなる場合があります。

・外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にエンジン停止をしたとき
・電装品などの消費電力が大きいとき

●オーディオの音量が大きいなど、エンジン停止中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時にオーディオの電源が一時的に OFF になることがあります。

●エンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に OFF になることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ボンネットを開けたときは

エンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。エンジンスイッチでエンジンを始動させてください。

■坂道発進補助機能について

●坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

●坂道発進補助機能の作動により、次の状態になることがありますが、異常ではありません。

・ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
・ブレーキペダルが振動する
・ブレーキから音が発生する

■Stop & Start システムについて

Stop & Start システムは赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

■警告ブザーについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時に Stop & Start 表示灯が高速で点滅します。

●運転席ドアが開いたとき

●運転席シートベルトをはずしたとき

●ボンネットが開いたとき

■Stop & Start キャンセル 表示灯が点滅したままのときは

スターターの交換時期、またはシステムに異常がある場合があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジン始動中に Stop & Start キャンセル 表示灯が数秒間点滅したときは

バッテリーの交換時期です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジン停止中のエアコンについて

●エンジン停止中はエアコン（冷房、除湿機能）がオフになり、送風になります。エアコンを作動させるときは、ブレーキペダルをさらに強く踏むか、Stop & Start キャンセルスイッチを押してエンジンを再始動させてください。

● AUTO を押してエアコンをオート設定にしているときは、エンジン停止中に風量が少なくなったり送風を停止することがあります。エンジンが再始動すると、風量は自動調整にもどります。（オートエアコン装着車）

■エンジン停止中にフロントウインドウガラスが曇ったとき

ブレーキペダルをさらに強く踏むか、Stop & Start キャンセルスイッチを押してエンジンを再始動させてください。

マニュアルエアコン装着車は A/C を押してエアコンを作動させ、吹き出し口を に切りかえる、オートエアコン装着車は FRONT を押して曇りを取ってください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■アイドリングストップ時間表示と総アイドリングストップ時間表示

→ P. 71, 72

■バッテリーを交換するとき

→ P. 355

警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

●エンジン停止中はブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。(Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ)
エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン停止中は車から離れないでください。(Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ)
次の操作を行うと、エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・ブレーキペダルから足を離す
・運転席ドアを開ける
・運転席シートベルトをはずす

■坂道発進補助装置について

●坂道発進補助装置は坂道で停車させる装置ではありません。装置が正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

●坂道発進補助装置を過信しないでください。発進するときに車が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー・ブレーキペダル・アクセルペダル・パーキングブレーキを操作して発進してください。

●ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

●ゆるやかな上り坂で停車前にエンジン停止した後、車が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、車が後退することがあります。
車が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。

●重い荷物を車内に積んでいるとき、または勾配が急な上り坂では、坂道発進補助装置が作動していても車が後退することがあります。パーキングブレーキをかけたりするなどして発進してください。

⚠ 注意

■Stop & Start システムが作動しているとき

●エンジン停止中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

●次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅するとき
・運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しないとき
・運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
・運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき

●バッテリーの端子から電化製品の電源をとらないでください。Stop & Start システムが正常に作動しなくなります。

コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約 10km/h 以下のときに、車両と障害物とのおおよその距離をソナーによって認識してブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせする装置です。

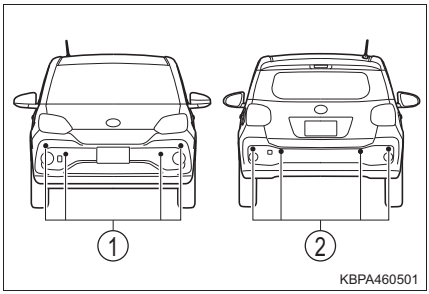
ソナーの位置・種類

① フロントソナー

フロントコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

② リヤソナー

リヤコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

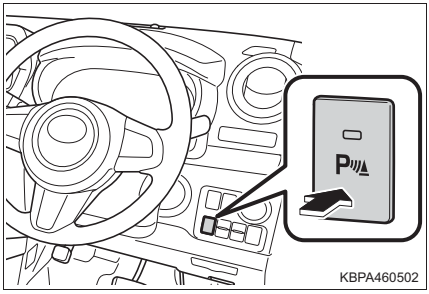


コーナーセンサーの切りかえ

スイッチを押す

スイッチを押すとコーナーセンサーは ON になり、作動灯が点灯します。

OFF にするには再びスイッチを押します。

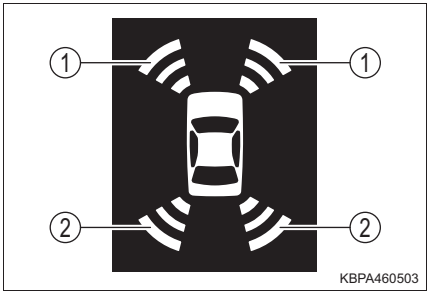


コーナーセンサーの表示のしかた

障害物を認識すると自動的に表示されます。

① フロントコーナーセンサー作動表示

② リヤコーナーセンサー作動表示



ブザーについて

作動条件をすべて満たした状態で、パーキングブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

● 障害物との距離が短くなると、ブザーが次の表のとおり変化します。

ブザー	ソナーと障害物との距離		
	フロントソナー（中央２個）	リヤソナー（中央２個）	フロントソナー（左右２個） リヤソナー（左右２個）
ピッピッピッ …（断続音）	約 100 ～ 45cm	約 150 ～ 45cm	約 60 ～ 45cm
ピピピ …（断続音）	約 45 ～ 30cm		
ピー（連続音）	約 30cm 以内		

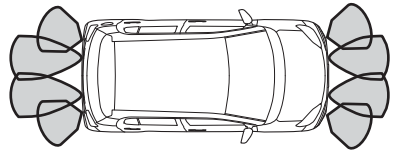
● ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、もっとも近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

ソナーが障害物を認識できる範囲

認識できる範囲は右図のとおりです。

ただし、障害物がソナーに近付きすぎると認識できません。

障害物の形状・条件によっては認識できる距離が短くなることや、認識できないことがあります。


KBPA460504

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・コーナーセンサースイッチが ON のとき
・中央 2 個のソナーは、シフトレバーが P、R 以外のとき
・左右 2 個のソナーは、シフトレバーが P 以外のとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー：

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・コーナーセンサースイッチが ON のとき
・シフトレバーが R のとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●作動条件を満たした状態で、パーキングブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

■ソナーの認識について

●ソナーの認識範囲は車両前部、および後部のバンパーのソナー周辺に限られます。

●障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴る前に、障害物に近付きすぎると、ブザーが鳴らない場合があります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

■ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が前方 2 箇所または後方 2 箇所（もしくは 4 箇所すべて）同時に表示されたときは

●コーナーセンサーの機能が低下しています。
コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。

●マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■コーナーセンサーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。

●ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。

●ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

警告

■コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●路面の状態（勾配、凹凸など）

●車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、応急用タイヤ★など）

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）

●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき

●障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）

●勾配が急な坂道を走行しているとき

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

・ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近しすぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
・地面から高い位置に存在する障害物のとき
・背の低い障害物のとき
・小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
・動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
・スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
・障害物の面が車両に対して斜めのとき
・地面に対して垂直でない壁のとき
・凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
・針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
・壁から柱や配管などが突き出しているとき
・認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物があるとき
・ソナーの認識エリア外に存在する障害物のとき
・炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
・雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
・周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
・ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
・衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**コーナーセンサーと誤発進抑制制御機能の作動について**

●コーナーセンサーと誤発進抑制制御機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していても誤発進抑制制御機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、誤発進抑制制御が作動する場合があります。

注意

■**コーナーセンサーについて**

次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき

●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき

●障害物の横を至近距離で通過するとき

●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき

●付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき

●車両側面の近くに障害物があるとき

●路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき

●狭いスペースに進入するとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）

●他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき

●ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき

●衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

●雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

⚠ 注意

■コーナーセンサーの異常について

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●障害物を認識していない状態で、コーナーセンサーが作動したとき

●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき

●事故などでソナー周辺が変形したとき

●スマートアシストⅢに異常があるとき、または「スマアシ停止」、「スマアシ故障」が表示されているとき（→P. 320 、325）

■洗車時の注意

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

バックカメラ★

バックカメラは車両を後退させるとき、ナビゲーションの画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。

装着されているナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

バックカメラの画面表示について

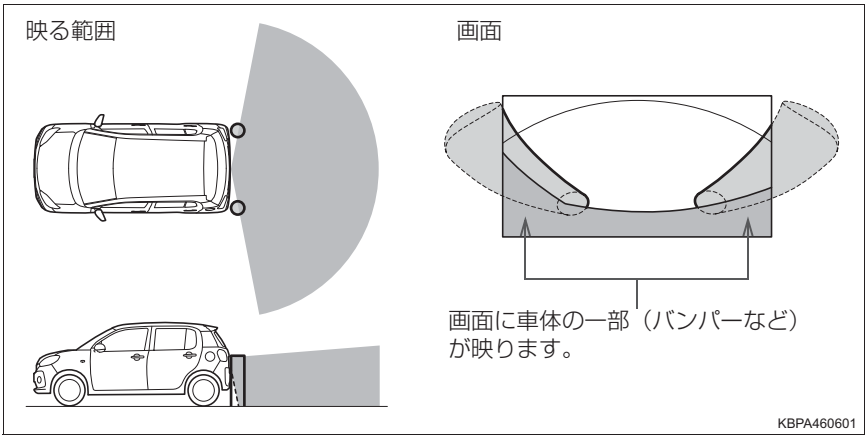
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときに、シフトレバーを R にすると、ナビゲーションの画面に車両後方の映像を表示します。

シフトレバーを R 以外にすると、元の画面にもどります。

バックカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

バックカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



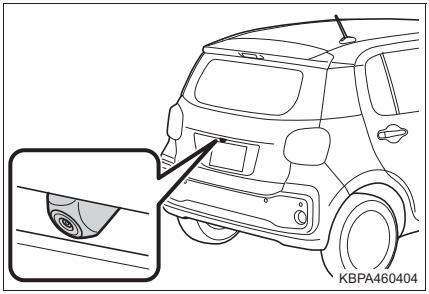
- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バックカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- バックカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
● バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
● バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

■ **カメラについて**

バックカメラは次の位置にあります。



● カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

知識

●次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。
・暗いところ（夜間など）
・レンズ付近の温度が高い、または低いとき
・バックカメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
・バックカメラ付近に異物（泥など）がついたとき
・太陽やヘッドランプの光が直接バックカメラのレンズに当たったとき

警告

■**バックカメラについて**

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。

●後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。

⚠ 警告

●画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。

●次のような状況では、使用しないでください。
・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
・タイヤチェーン、応急用タイヤ★を使用しているとき
・バックドアが完全に閉まっていないとき
・坂道など平坦でない路面

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

⚠ 注意

■カメラの取り扱いについて

●バックカメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
・カメラ周辺にはカメラの視野に影響をおよぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パノラミックビューモニター★

パノラミックビューモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成してナビゲーションの画面上に表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。

画面を左右２分割して表示し、左側にトップビュー、右側にはフロント、リヤビューが表示されます。

また、レフト＆ライトサイドビューやレフトサイド＆リヤビュー、フロントワイドビュー、リヤワイドビューでも、車両周辺の障害物を確認できます。

画面の映像、映る範囲はビューによって異なります。（→ P. 206）

装着されているナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

パノラミックビューモニターの画面表示について

エンジンスイッチがイグニッションONモードの状態で、シフトポジションの位置や車速、ナビゲーションの操作に応じたパノラミックビューモニター画面が表示されます。

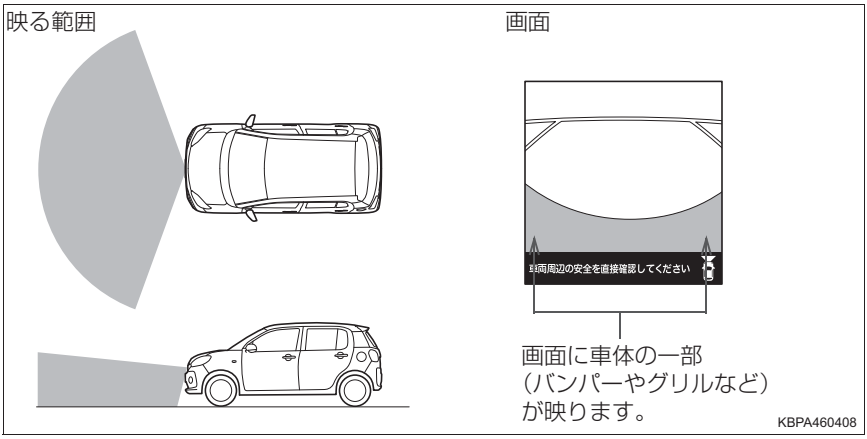
バックカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

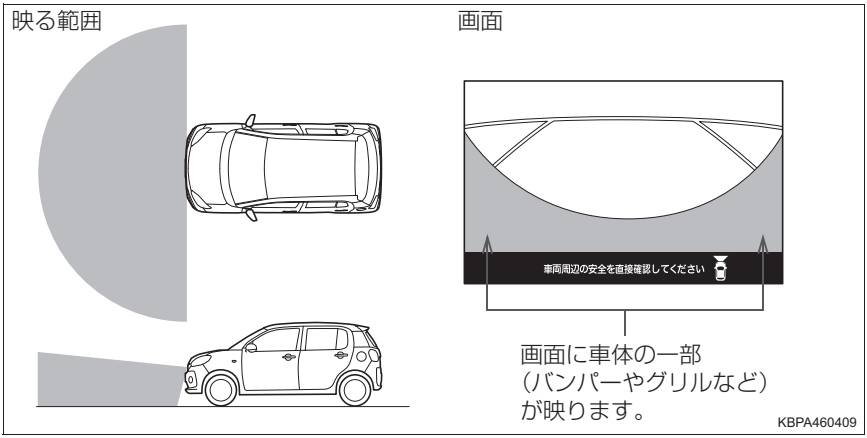
パノラミックビューモニターの注意点について

■ 画面の映る範囲について

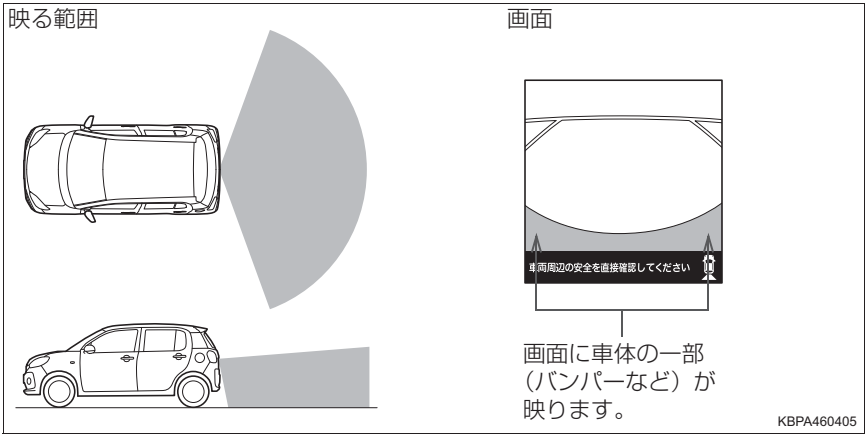
▶ フロントビュー



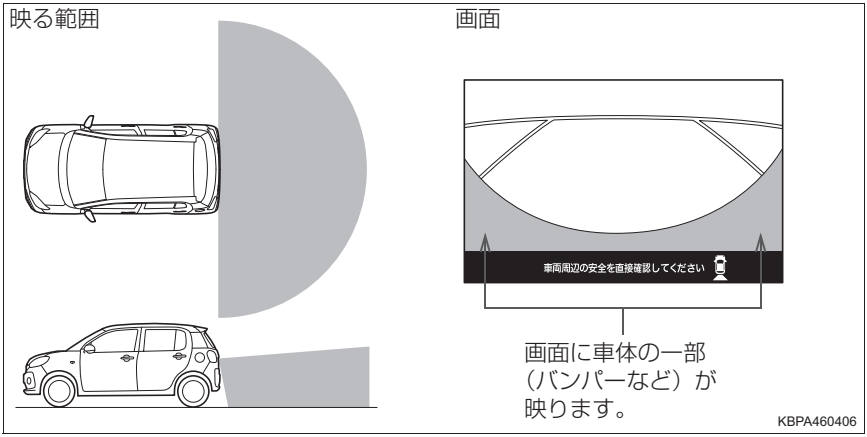
▶ フロントワイドビュー



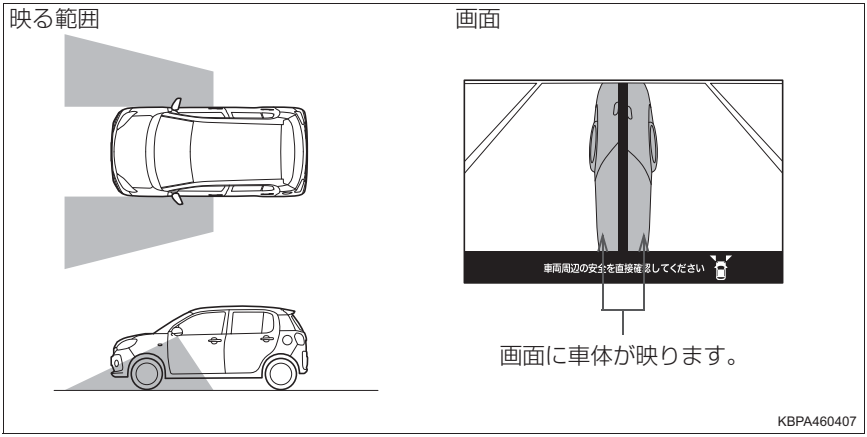
▶ リヤビュー



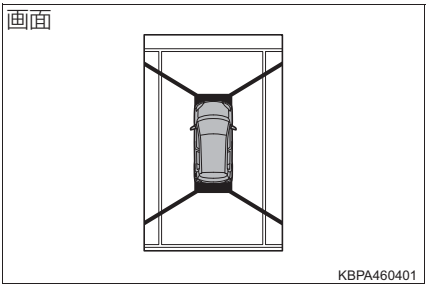
▶ リヤワイドビュー



▶ サイドビュー



▶ トップビュー

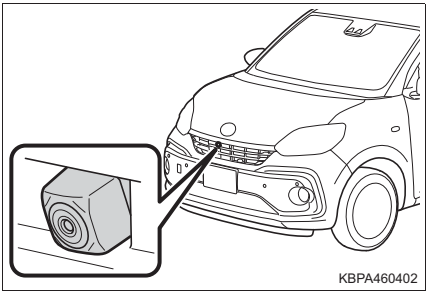


- トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。
- 乗員人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。
- パノラミックビューモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。
- カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- パノラミックビューモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

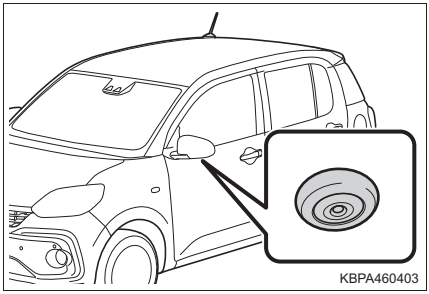
■ カメラについて

パノラミックビューモニターの各カメラは次の位置にあります。

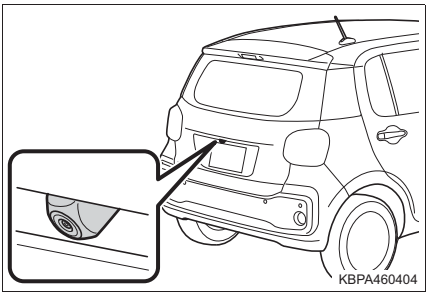
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ（左右）



▶ バックカメラ



● カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください

知識

●パノラミックビューモニター対応純正ナビゲーション以外を装着した場合は、パノラミックビューモニターが正常に作動しないことがあります。

●次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。

・暗いところ（夜間など）
・レンズ付近の温度が高い、または低いとき
・カメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
・カメラ付近に異物（泥など）がついたとき
・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズに当たったとき

警告

■パノラミックビューモニターについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パノラミックビューモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。

●運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。

●画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。

●次のような状況では、使用しないでください。
・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
・タイヤチェーン、応急用タイヤ★を使用しているとき
・フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
・坂道など平坦でない路面
・ドアミラーを格納しているとき

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■カメラの取り扱いについて

●パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ周辺にはカメラの視野に影響をおよぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ V フレックスフルタイム 4WD ★

オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。すべりやすい雪道や上り坂などでスムーズな発進、加速に貢献します。
通常の直進走行では FF（前輪駆動）に近い状態で走行します。
前・後輪に回転差が生じるとビスカスカップリングにより、その回転速度の差に応じた最適なトルクを後輪へ配分します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 坂道発進補助機能

坂道での発進性を補助するため、駆動力が発生するまでのあいだブレーキ油圧（ブレーキの効き）を最長約 2 秒間保持して、車両が後退するのを抑制し、坂道発進を容易にします。（→ P. 187）

◆ スマートアシストⅢ

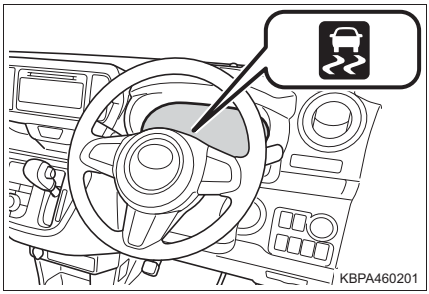
→ P. 151

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC・TRC が作動しているとき

VSC･TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



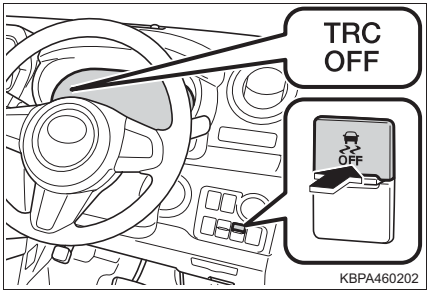
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に OFF を押し３秒以上保持してください。
TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態に戻ります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
但し、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。
10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または、N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■スリップ表示灯が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 60km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

警告

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■V フレックスフルタイム 4WD について★

●この車の 4WD（V フレックスフルタイム 4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。

●脱輪などにより、いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 367）
異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC・V フレックスフルタイム 4WD★が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも同一サイズ、同一銘柄で著しい摩耗差のないものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 269）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。
  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する

●摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず４輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコン・デフォッガーの使い方

マニュアルエアコン.....224

オートエアコン.....229

運転席シートヒーター.....236

5-2. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ.....238

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....240

・インテリアランプ.....240

・マップランプ.....241

5-4. 収納装備

収納装備一覧.....242

・助手席シートアンダートレイ.....243

・ドアポケット.....243

・カップホルダー（運転席 / 助手席）／ボトルホルダー.....244

・アッパーボックス／グローブボックス.....246

・アームレストポケット.....247

・小物入れ.....247

ラゲージルーム内装備.....248

・デッキボード.....248

・デッキボックス.....249

・停止表示板収納スペース.....249

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....250

・サンバイザー.....250

・バニティミラー.....250

・時計.....251

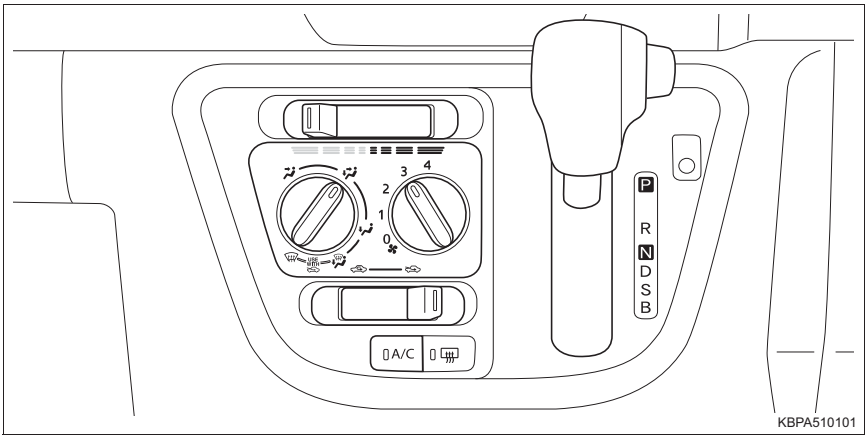
・アームレスト.....252

・アシストグリップ.....253

・アクセサリーソケット.....254

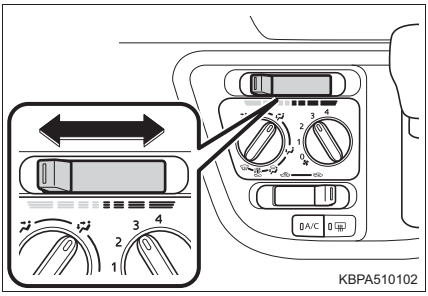
・買い物フック.....255

マニュアルエアコン★



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節レバーを右に、下げるときには左に操作する

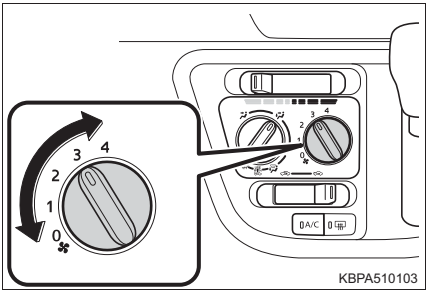


A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調節ダイヤルを右に、減らすときは左にまわす

送風を止めるときはダイヤルを0の位置に合わせる



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえダイヤルをまわす

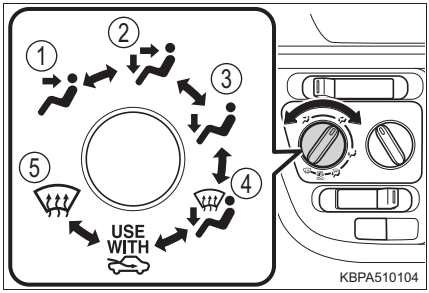
① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風･フロントウインドウガラスの曇りを取る

⑤ フロントウインドウガラスの曇りを取る



その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

内外気切りかえレバーを の位置に操作すると外気導入、 の位置に操作すると内気循環に切りかわります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

吹き出し口切りかえダイヤルを にまわし、内外気切りかえレバーを に操作する

A/C を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

■ リヤウインドウデフォッガー

リヤウインドウの曇りを取るときに使用ください。

を押す

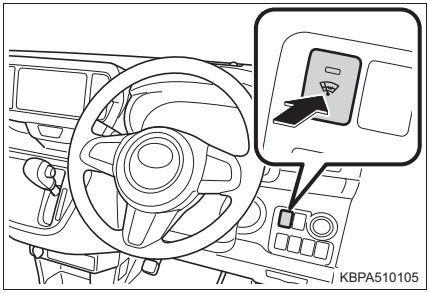
リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

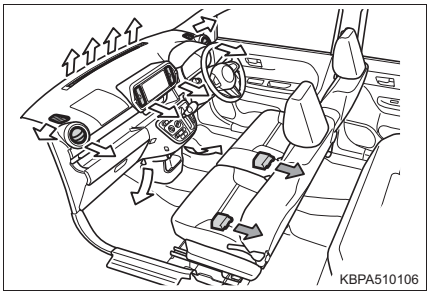
ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

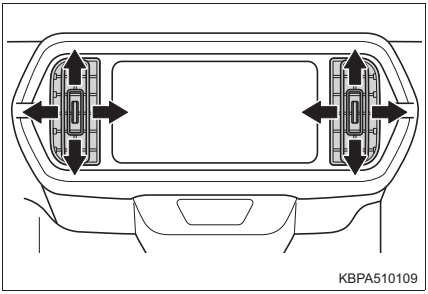
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



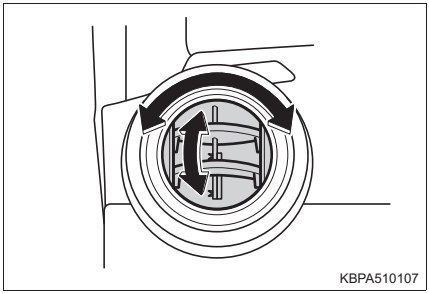
⇦ ：寒冷地仕様車のみ

■ 風向きの調整

▶ 中央吹き出し口



▶ 左右吹き出し口

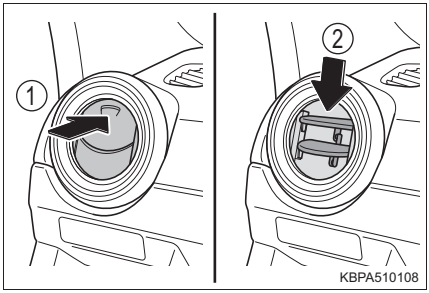


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口の開閉

① くぼみを押して開ける

② カバーを下げて閉じる



知識

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調節レバーの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■外気温度が0℃付近のとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ USE WITH について

このマークは、吹き出し口切りかえダイヤルを または に合わせるときに内外気切りかえレバーを にすることをおすすめするためのものです。

内外気切りかえレバーを にすることでガラスが曇りにくくなります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■PTC ヒーター★

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

●ファンが作動しているとき

●最大暖房時

●エンジン冷間時

●外気温が低いとき

■エアコンフィルターについて

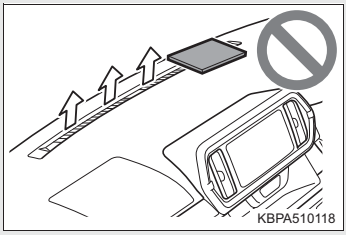
→ P. 275

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

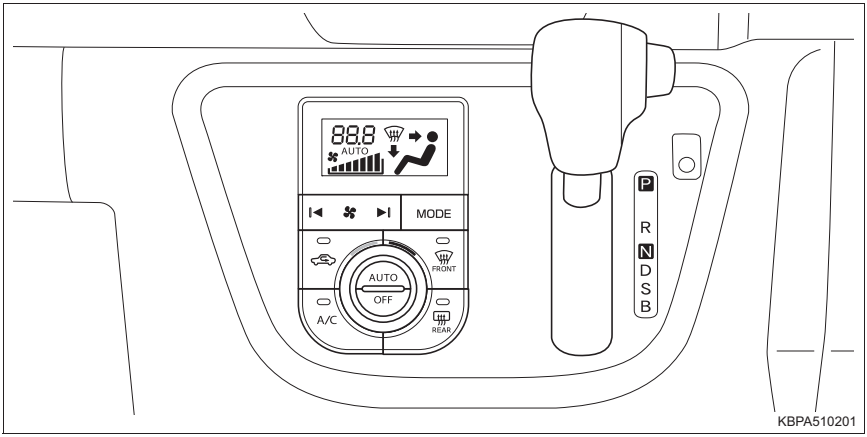
■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコン★

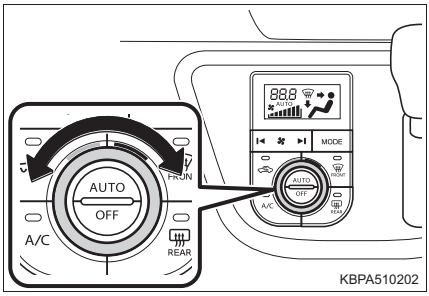
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右に、下げるときは左にまわす

が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。



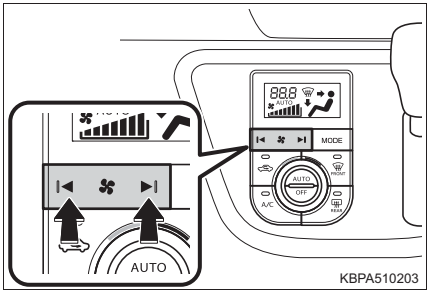
■ 風量を切りかえる

風量を調節するには の

（増）か

（減）を押す

を押すと、送風がとまります。



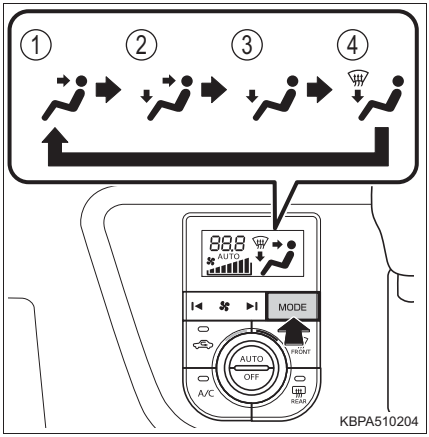
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

MODE を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風
② 上半身と足元に送風
③ 足元に送風
④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



オート設定を使うとき

1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

2 温度を設定する

3 A/C を押す

押すたびにエアコンの ON/OFF が切りかわります。

4 送風をとめたいときは OFF を押す

■ オート設定時の表示について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO の表示が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切りかわります。

曇りが取れたら再度

を押すと、前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー

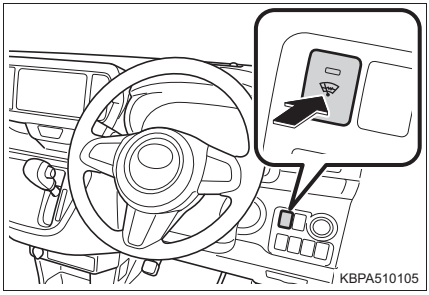
リヤウインドウの曇りを取るときに使用ください。

を押す

リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。



ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

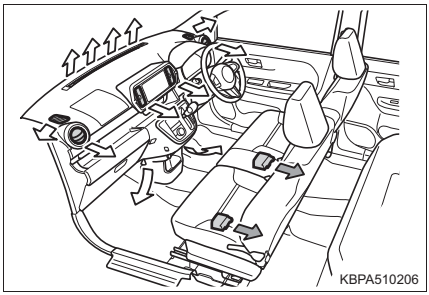
ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

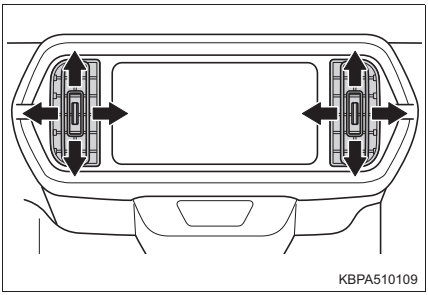
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



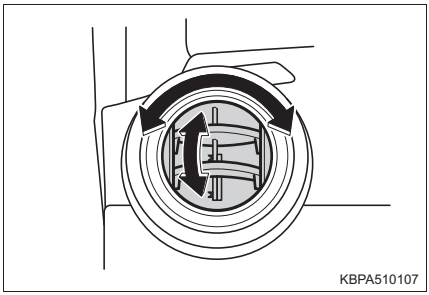
⇦：寒冷地仕様車のみ

■ 風向きの調整

▶ 中央吹き出し口



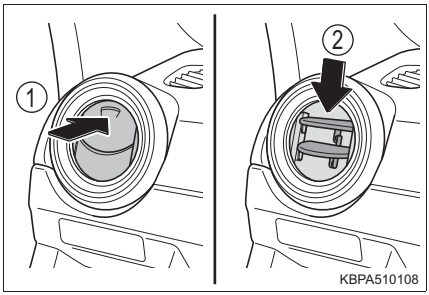
▶ 左右吹き出し口



■ 吹き出し口の開閉

① くぼみを押して開ける

② カバーを下げて閉じる



知識

■駐車時について

エンジンスイッチが OFF のときはこもり臭防止のため、外気導入へ切りかわります。

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■外気温度が0℃付近のとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■PTC ヒーター★

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

●ファンが作動しているとき

●最大暖房時

●エンジン冷間時

●外気温が低いとき

■エアコンフィルターについて

→ P. 275

■カスタマイズ機能

AUTO を ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧→ P. 368）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

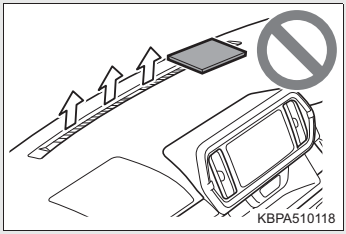
⚠ 警告

■**フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

●湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■**ウインドシールドデアイサー★作動中の警告**

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

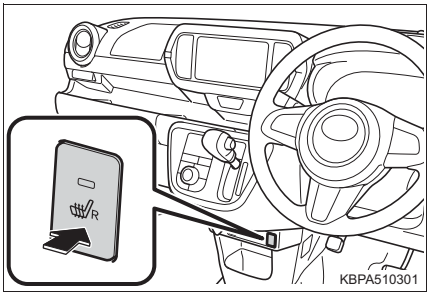
■**吹き出し口について**

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転席シートヒーター★

スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。



知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **使用しないときは**

スイッチをもう一度押してください。作動表示灯が消灯します。

警告

●低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたがシートヒーターに触れないようにご注意ください。

・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
・皮膚の弱いかた
・疲労の激しいかた
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

●異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

・長時間連続で使用しないでください。
・毛布・クッションなどを使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で使用しないでください。

ステアリングスイッチ★

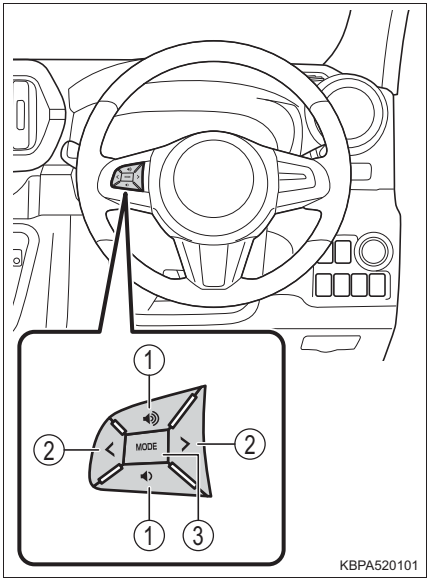
ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱書をご覧ください。

① 音量を調節する

② CD、ラジオなどの操作

③ モードを切りかえる



モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき MODE を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音量を調節するには

オーディオの電源が ON のとき または を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調節できます。運転のさまたげにならない適度な音量でお聞きください。

選局または選曲するには

オーディオの電源が ON のとき または を押す

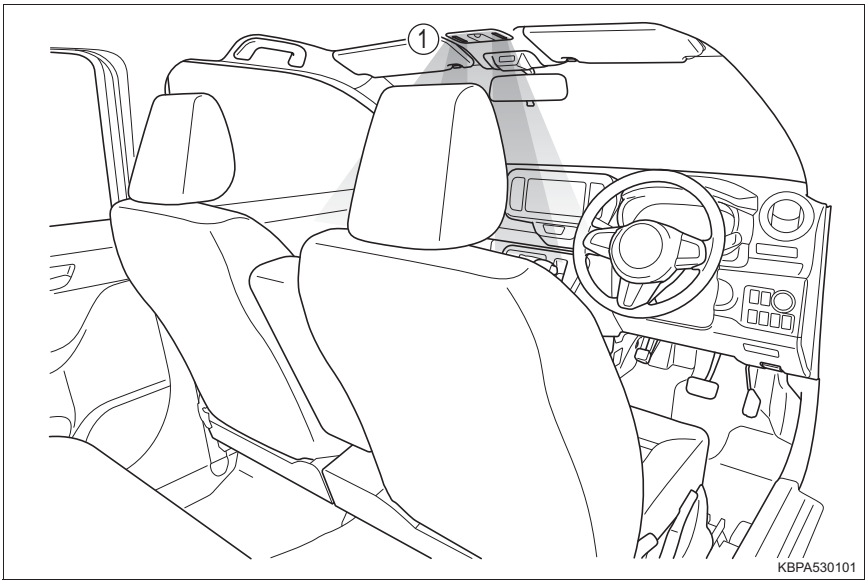
スイッチを押して、お聞きになりたい放送局や CD で再生したい曲を選択します。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

室内灯一覧



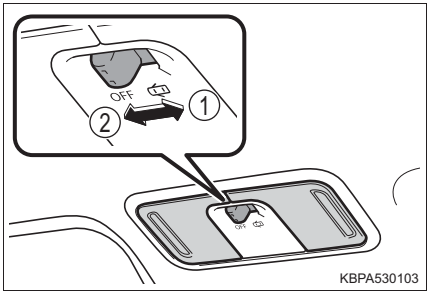
① インテリアランプ／マップランプ（→ P. 240, 241）

インテリアランプ

① ドアポジション

ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

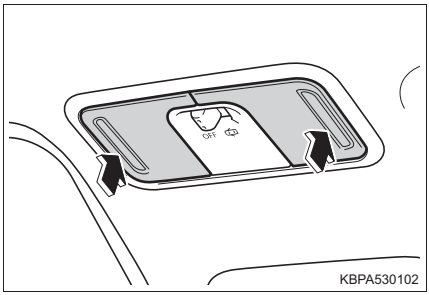
② ランプを消灯する



マップランプ

ランプを点灯・消灯する

インテリアランプスイッチがドアポジションでドアが開いているときは、レンズを押しても消灯しません。



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム（ドア連動機能）

インテリアランプスイッチがドアポジションのとき、ドアの施錠・解錠／開閉、エンジンスイッチの状態により、インテリアランプが自動的に点灯、消灯します。

■バッテリーあがりを防止するために

●半ドア状態でインテリアランプのスイッチがドアポジションのときは約 10 分後に自動消灯します。

●マップランプが点灯したままの場合、約 12 分後に自動消灯します。

■カスタマイズ機能

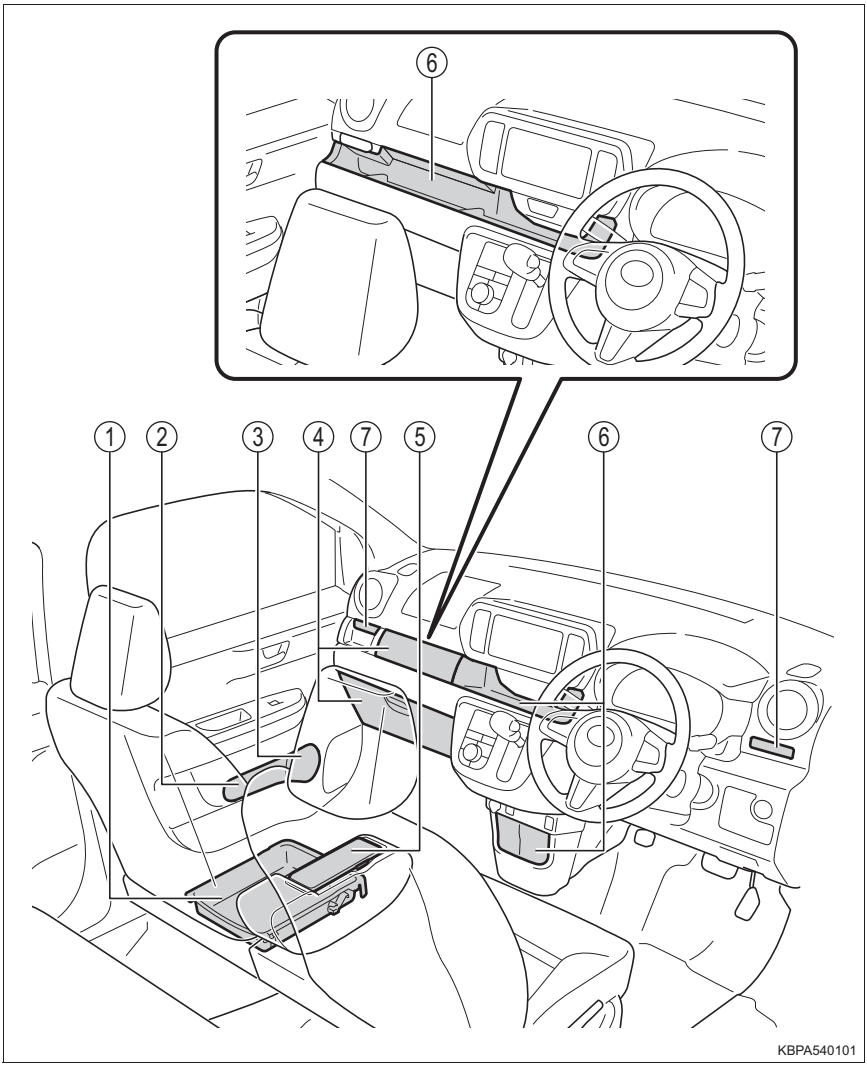
イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：P. 368）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① 助手席シートアンダートレイ★ （→ P. 243）

② ドアポケット （→ P. 243）

③ ボトルホルダー （→ P. 244）

④ アッパーボックス★／グローブボックス （→ P. 246）

⑤ アームレストポケット （→ P. 247）

⑥ 小物入れ★ （→ P. 247）

⑦ カップホルダー （→ P. 244）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

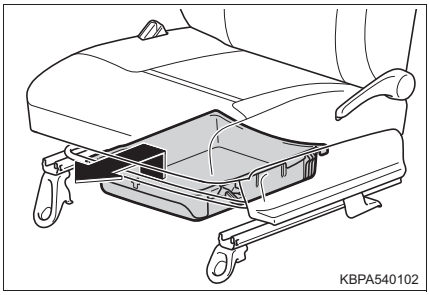
警告

●メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

●収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

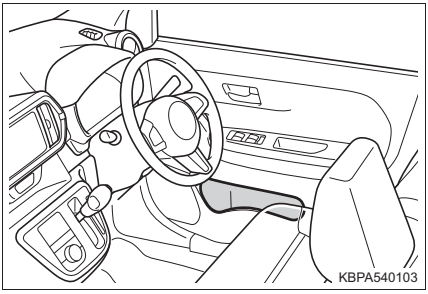
助手席シートアンダートレイ★

トレイを上に持ち上げ、前に引き出す

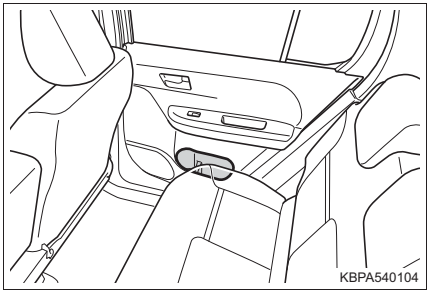


ドアポケット

▶ フロントドア



▶ リヤドア



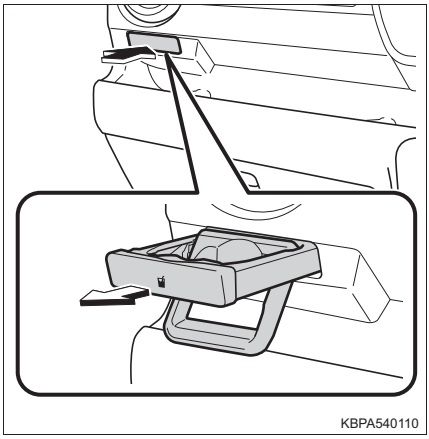
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カップホルダー（運転席 / 助手席）／ボトルホルダー

■ カップホルダー（運転席 / 助手席）

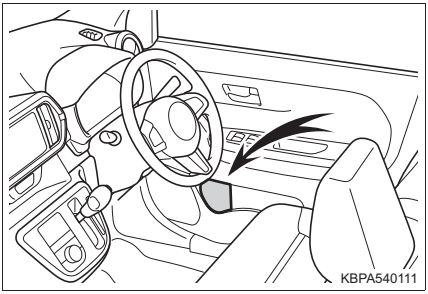
押して開ける

再び押すと閉まります。

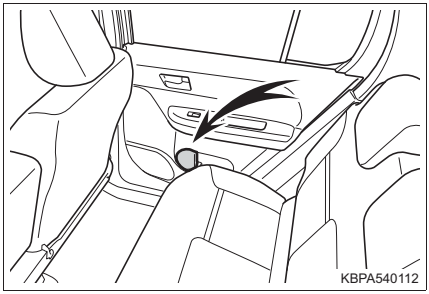


■ ボトルホルダー

▶ フロントドア



▶ リヤドア



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。
- フロントシート（運転席側）カップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- カップホルダーを使わないときは、必ずもとにもどしておいてください。
  急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

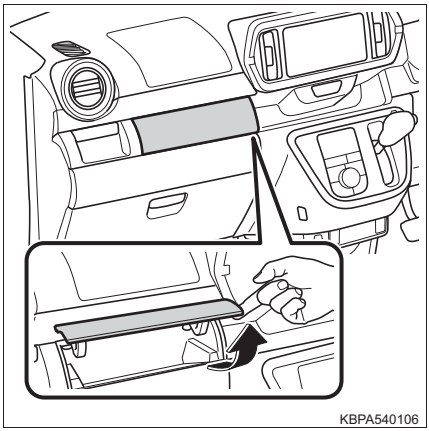
注意

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- 故障を防ぐため、飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- 破損を防ぐため、カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- 次のような異物が入ると、カップホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。
  - ・爪楊枝・ヘアピン等の小さいもの、細かいもの
  - ・タバコの灰
  - ・芳香剤の液体

アッパーボックス★／グローブボックス

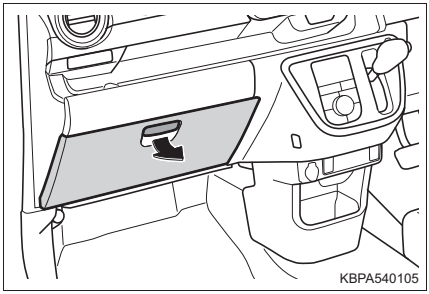
▶ アッパーボックス

フタを持ち上げる



▶ グローブボックス

レバーを引いて開ける



警告

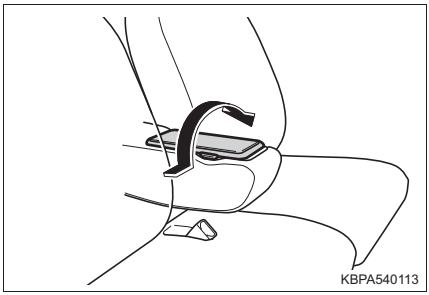
■走行中の警告

アッパーボックスおよびグローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたアッパーボックスまたはグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

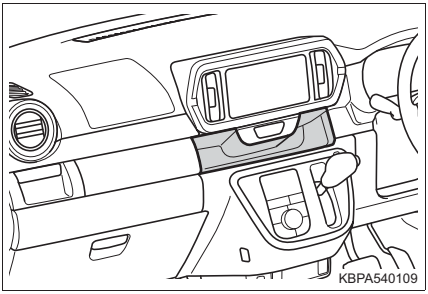
アームレストポケット

ボタンを押してフタを持ち上げる

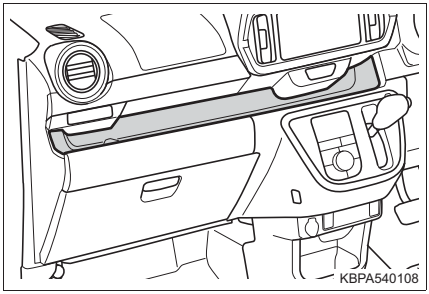


小物入れ

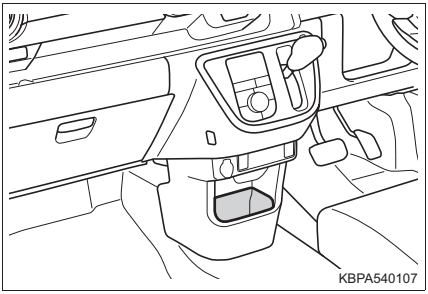
▶ センタートレイ★



▶ 助手席ロングアッパートレイ★



▶ センターロアボックス



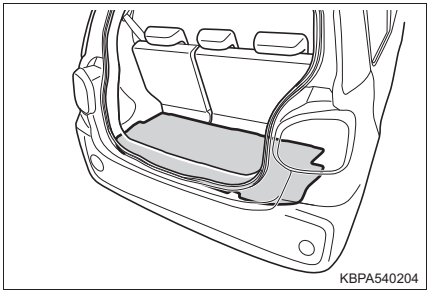
⚠ 警告

トレイ内に転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

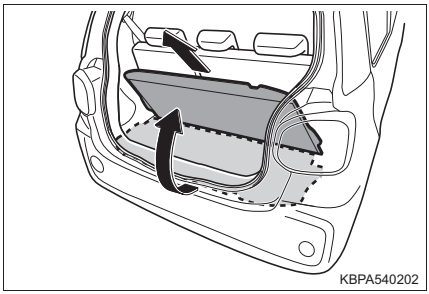
ラゲージルーム内装備

デッキボード



■ デッキボードを取りはずすには

デッキボードを持ち上げ、手前に引いて取りはずす



⚠ 警告

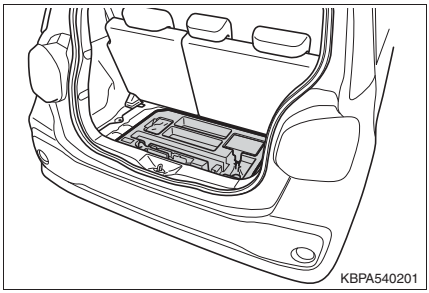
■デッキボードを操作するときは

荷物を載せた状態で操作しないでください。
指をはさんだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

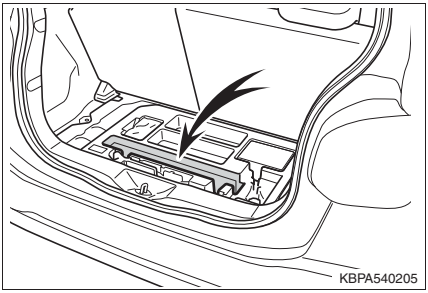
デッキボックス★



停止表示板※ 収納スペース

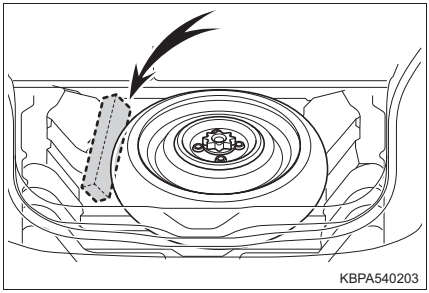
※ 停止表示板はトヨタ販売店で購入することができます。

▶ タイヤパンク応急修理セット装着車



デッキボックスに収納することができます。

▶ 応急用タイヤ装着車



デッキボード下に収納することができます。

知識

停止表示板のケースの大きさ、形によっては、収納できないことがあります。

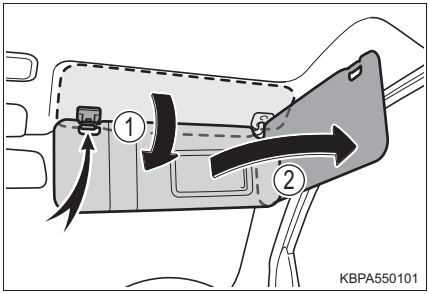
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の室内装備

サンバイザー

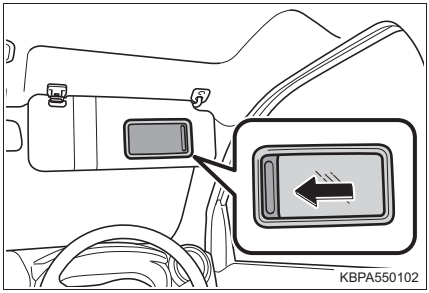
① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける



時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

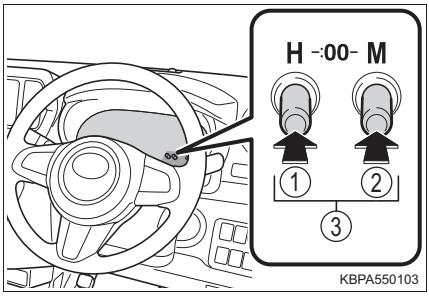
① “時” を調整する（H）

② “分” を調整する（M）

③ “分” を 00 にする ※

ボタン（①）、（②）を同時に 1 秒以上押します。

※（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00



知識

■時刻が表示されるとき

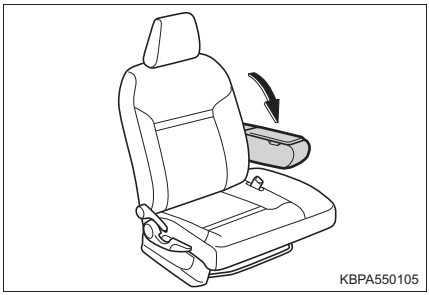
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子を脱着したとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

アームレスト

手前に倒して使用します。

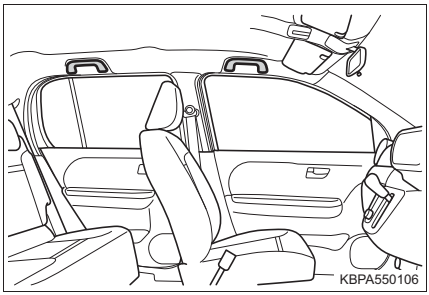


⚠ 注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ★

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。
アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

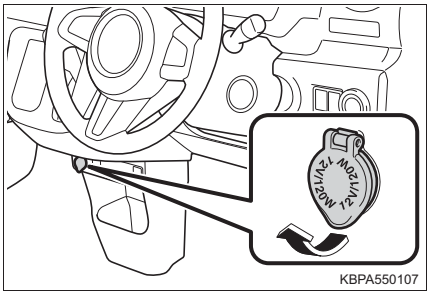
破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクセサリーソケット

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

⚠ 注意

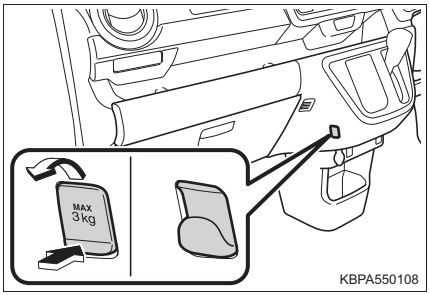
■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物 が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

買い物フック



警告

使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの状態にもどしておいてください。

注意

買い物フックの破損を防ぐために、3kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....258
内装の手入れ.....262
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 265
ガレージジャッキ.....267
ウォッシャー液の補充.....268
タイヤについて.....269
タイヤ空気圧について 273
エアコンフィルターの交換 ...275
ワイパーゴムの交換.....277
キーの電池交換.....283
ヒューズの点検・交換.....285
電球（バルブ）の交換.....288

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う
  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

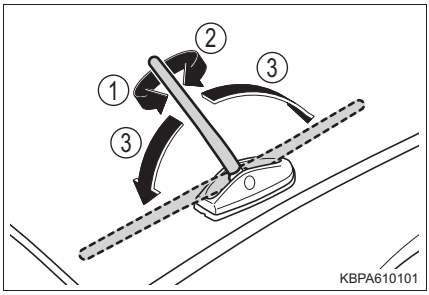
洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

① 取りはずす

② 取り付ける

③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



知識

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：

・ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択する
・アンテナを取りはずす
車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子カードキーが作動範囲内にある場合、洗車などで水圧にてドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチが押され、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

●光沢を失うおそれがあるため、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ドアミラーの損傷を防ぐために

自動洗車機を使用するときは、ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。

⚠ 注意

■アンテナの取り扱いについて

アンテナを取り扱うときは無理な力をかけないでください。ボデーの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

●車庫の天井などにアンテナがあたるときは格納してください。

●次のようなときはアンテナを取りはずしてください。

・カーカバーをかけるとき
・自動洗車機を使用するとき
・降雪時に長時間駐車するとき

■アンテナの取りはずしについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機を使用するときなどアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

■洗車時の注意

洗車をするときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。車体がへこむおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴム又は樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV・IR カット機能付きドアガラス★について

●ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。

●ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 33)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

●メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
  特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を清掃するとき

ステレオカメラ（→ P. 154）にさわらないように注意してください。
誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストⅢの誤作動や故障につながるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV・IR カット機能付きドアガラス★を清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）や鋭利なもの、硬いものを使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

■液体芳香剤を使用するときは

こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。
液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

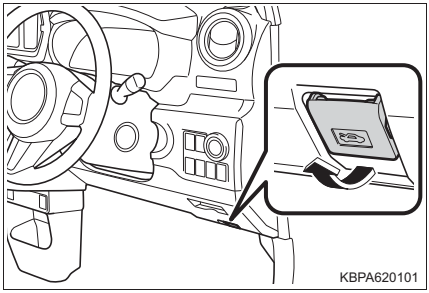
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

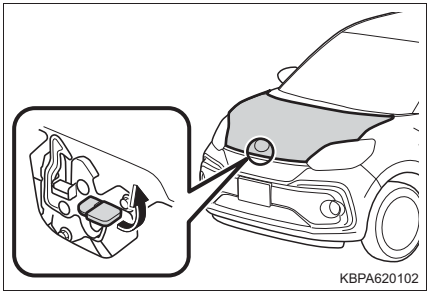
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

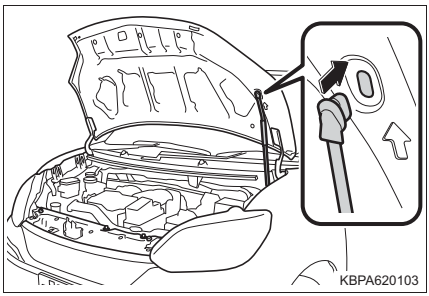
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

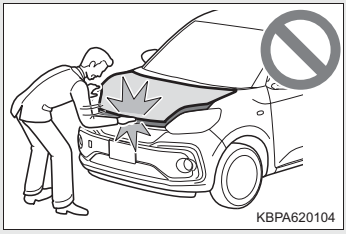
エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■オイルを点検・交換するとき

オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ボンネットを開けるとき

フロントワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

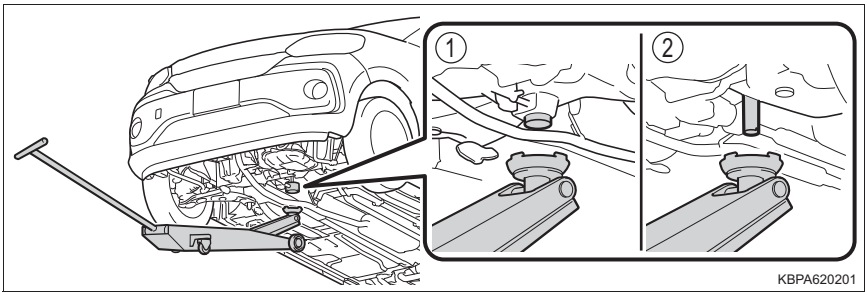
■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

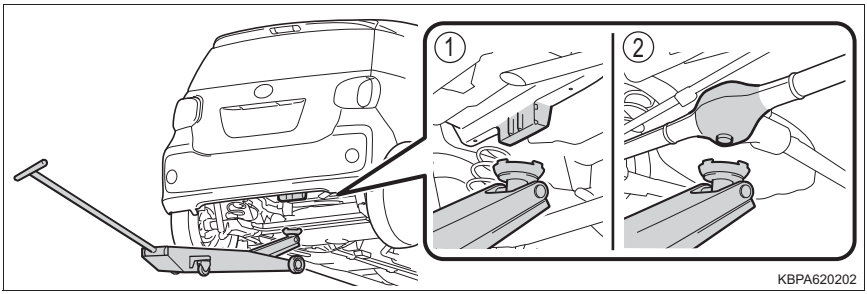
◆ フロント側



① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

◆ リヤ側



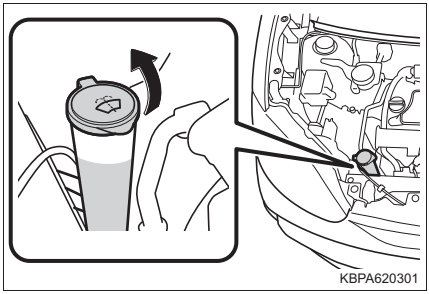
① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ **ウォッシャー液を補充するとき**

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

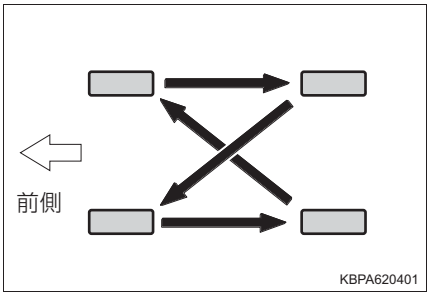
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。



知識

■タイヤ空気圧の数値

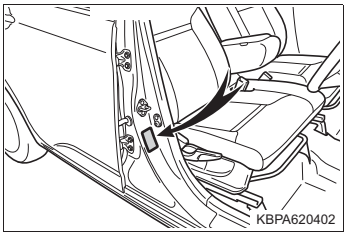
▶ 標準タイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
165/65R14 79S	250（2.5）	250（2.5）
175/55R15 77V	250（2.5）	250（2.5）

応急用タイヤ★：420kpa（4.2kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ空気圧の点検

- 1ヶ月に1回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤローテーションについて

タイヤパンク応急修理セット装着車は、応急用タイヤ★が搭載されていないため、応急用タイヤを利用するタイヤローテーションができません。トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド＆スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない。

●他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

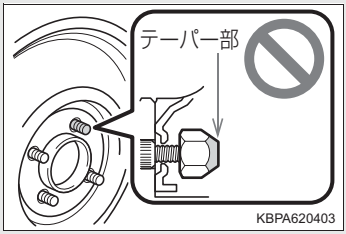
●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。（→ P. 367）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●過度の摩耗

●偏摩耗

●操縦安定性の低下

●タイヤの過熱による破裂

●タイヤとホイールのあいだからの空気もれ

●ホイールの変形、タイヤの損傷

●走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

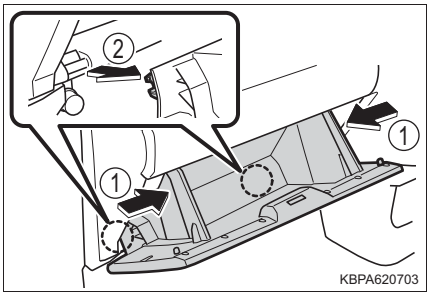
交換のしかた

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 グローブボックスを取りはずす

① 側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずす

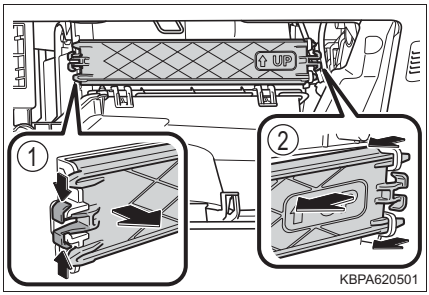
② 下部のツメをはずす



3 フィルターカバーを取りはずす

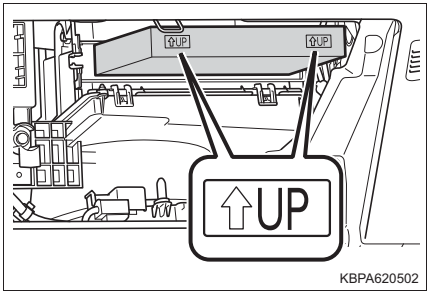
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、フィルターカバーを抜く



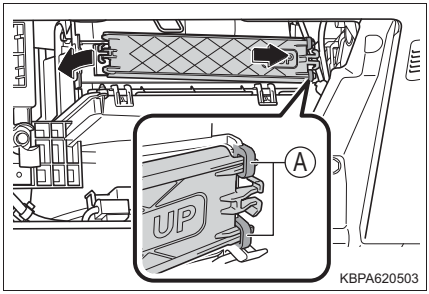
4 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

フィルターカバーはA部に入れてから、取り付けてください。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

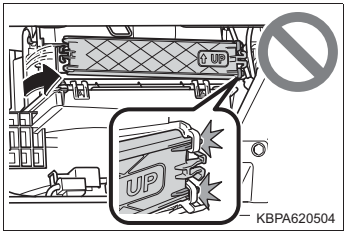
⚠ 注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



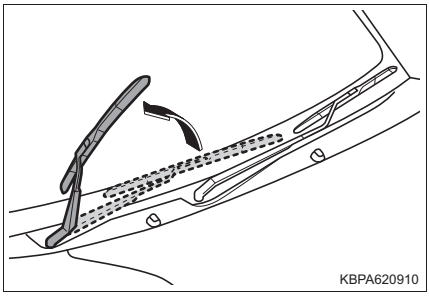
ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

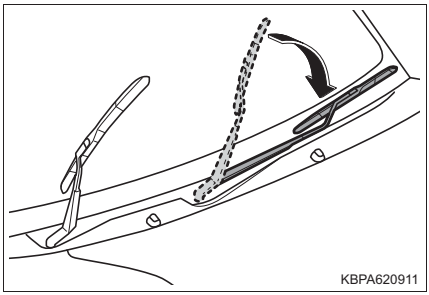
ワイパーアームの取り扱い方法

■ フロントワイパー

1 ワイパーアームを起こすときは、運転席側から助手席側の順番でアームを持ち上げる



2 もとの位置にもどすときは、助手席側から運転席側の順にアームを降ろす

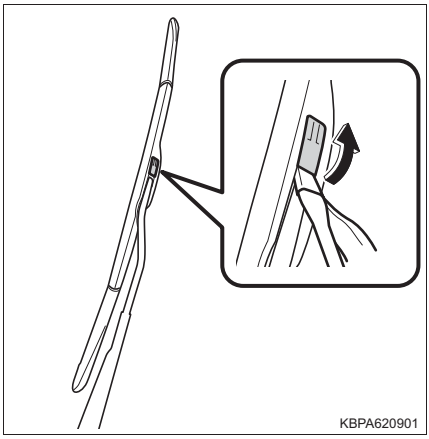


フロントワイパー

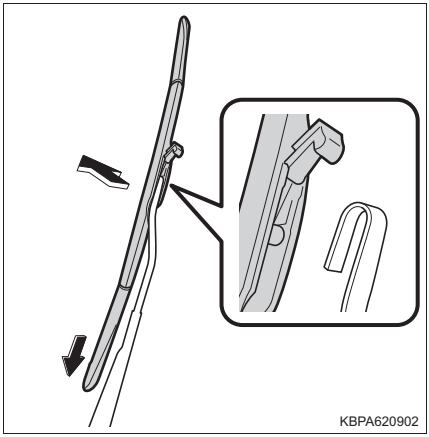
■ フロントワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こし、マイナスドライバーを挿し込んで、カバーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



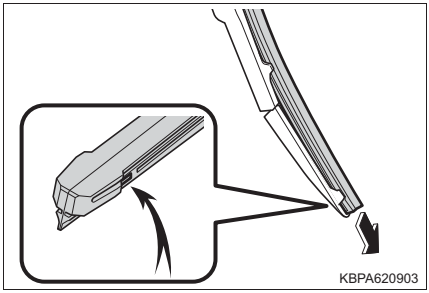
2 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす



3 取り付けるときは、逆の手順で取り付ける

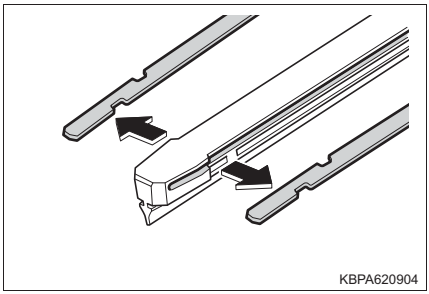
■ フロントワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ストッパーをワイパーブレードのツメからはずし、そのまま引き抜く



2 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

ブレードの切り欠きと反りの向きに注意して取り付けてください。



3 取り付けるときは、ワイパーゴムのストッパーがないほうからワイパーブレードに挿入する

4 ワイパーゴムのストッパーをワイパーブレードのツメで確実に固定する

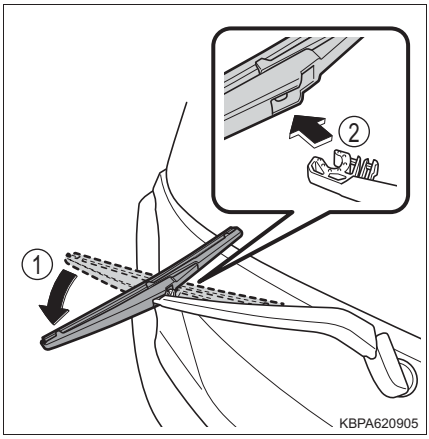
リヤワイパー★

■ リヤワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを取りはずす

① ツメのかん合がはずれる位置までワイパーブレードを回す

② ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

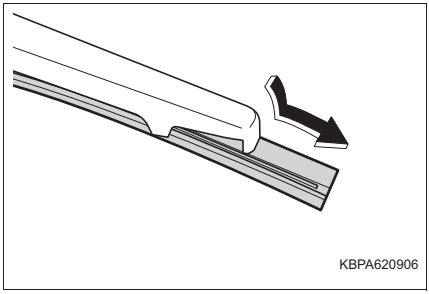


2 ワイパーブレードを取り付けるときは1と逆の手順で取り付ける

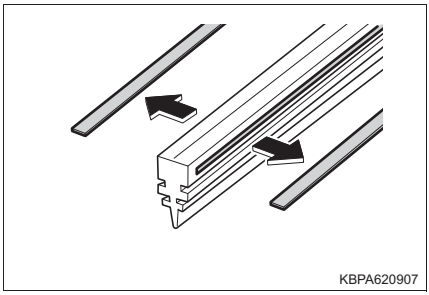
ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

■ リヤワイパーゴムの交換

1 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く



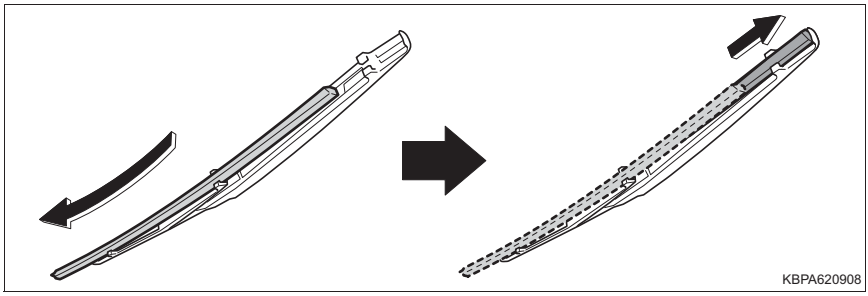
2 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 ワイパーブレード中央部のツメを通してワイパーゴムを挿入し、2つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った1つのツメに通す

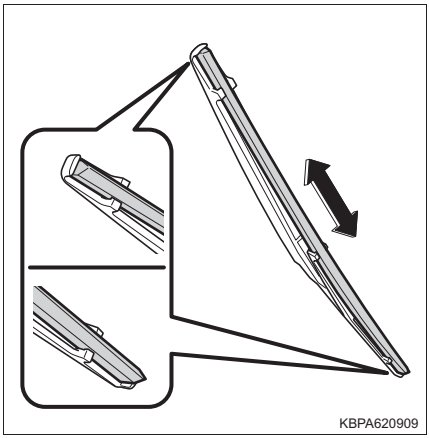
ワイパーゴムにウォッシャ液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



4 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

・ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。

・ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- ワイパーを交換するときはツメの破損に注意してください。
- ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずした後はウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

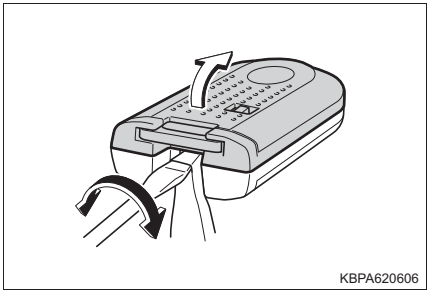
- 薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

1 カバーをはずす

トヨタマーク側を上にしてはずしてください。

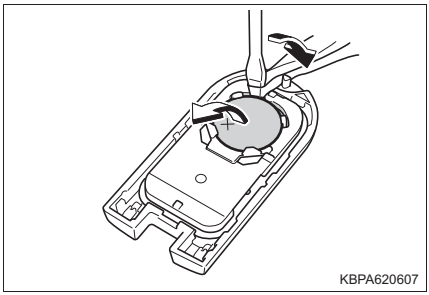
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。


KBPA620606

2 消耗した電池を取り出す

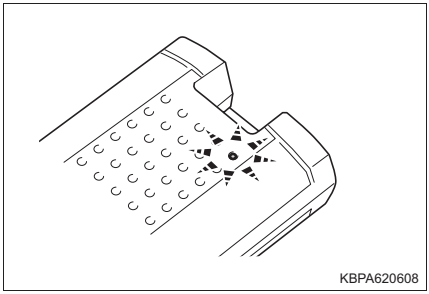
カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。


KBPA620607

3 カバーを取り付ける

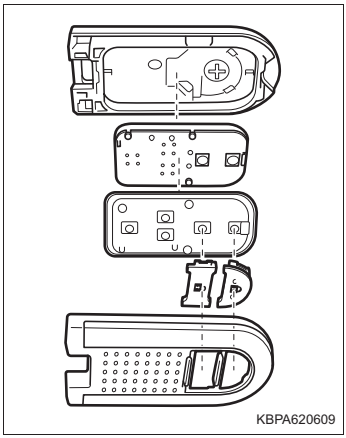
スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する


KBPA620608

知識

■電子カードキーの部品がばらけたときは

図を参考に組み付けてください。



■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子カードキーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●キーフリーシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

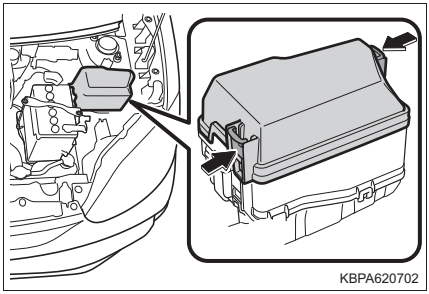
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

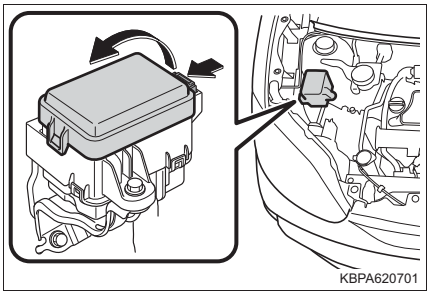
▶ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

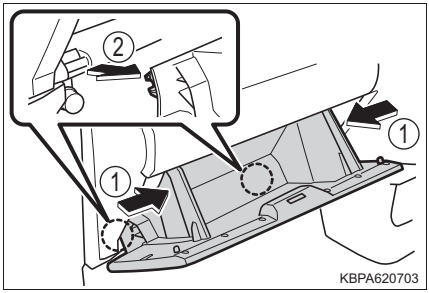


▶ 助手席足元

グローブボックスをはずす

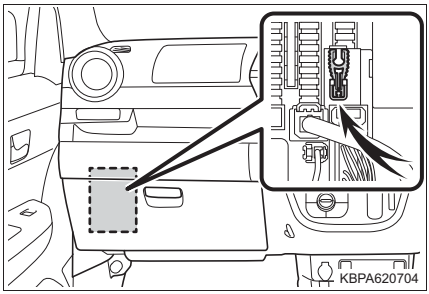
① 側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずす

② 下部のツメをはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

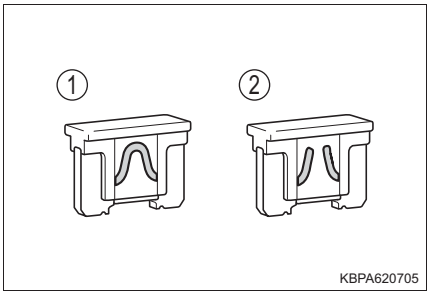


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 288）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

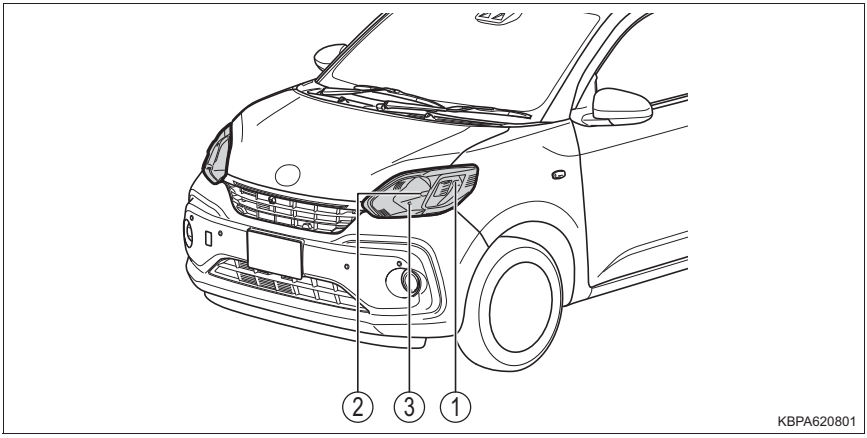
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 367）

バルブ位置

■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

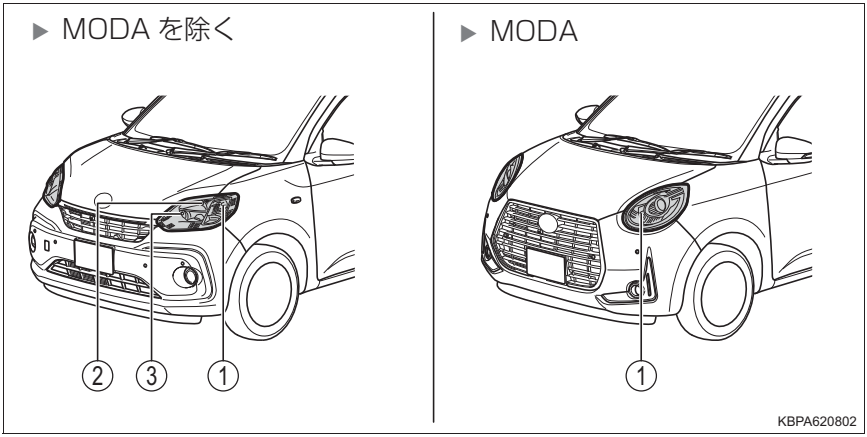


① フロント方向指示／非常点滅灯

② ヘッドランプハイビーム／ロービーム

③ 車幅灯

▶ LED ヘッドランプ装着車

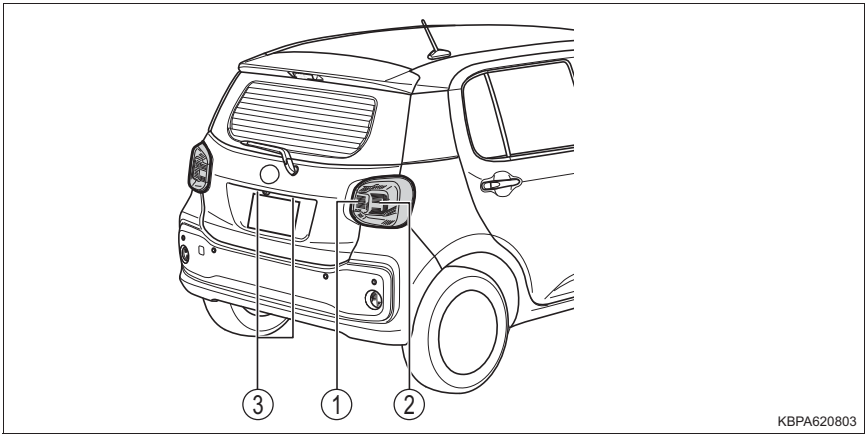


① フロント方向指示／非常点滅灯

② ヘッドランプハイビーム

③ 車幅灯

■ リヤ



① 後退灯

② リヤ方向指示／非常点滅灯

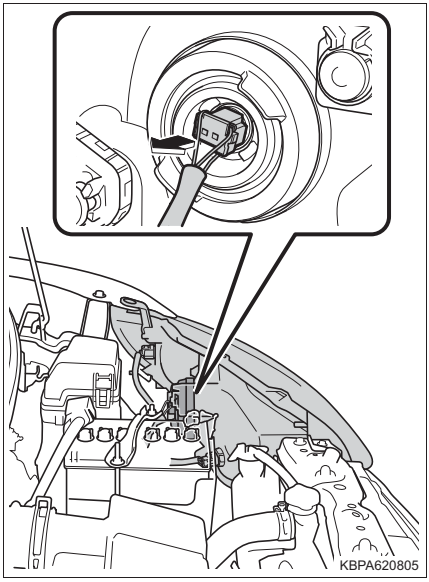
③ 番号灯

電球交換のしかた

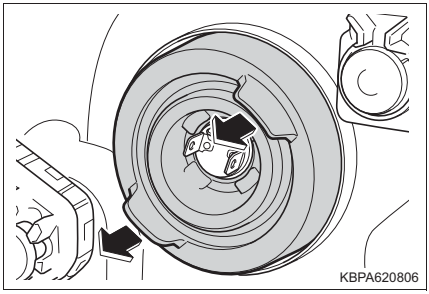
ヘッドランプ、車幅灯、フロント方向指示兼非常点滅灯はボンネットを開けてから作業してください。

■ ヘッドランプハイビーム／ロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ボンネットを開けて、コネクターを取りはずす



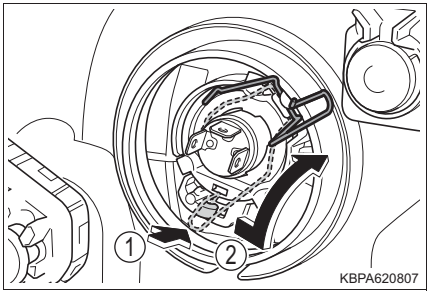
2 ゴムカバーを取りはずす



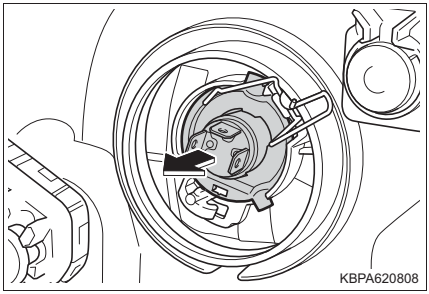
3 留め金をはずす

① 留め金を押してフックからはずす

② 留め金を持ち上げる

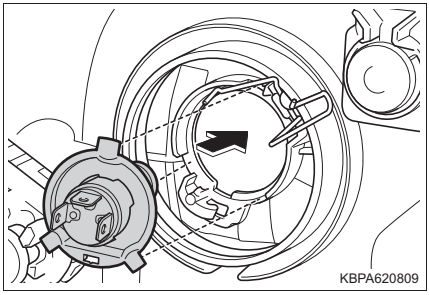


4 電球を取りはずす



5 電球を交換し取り付ける

取り付け部と電球のツメ(3ヶ所)を合わせて挿し込み、固定します。



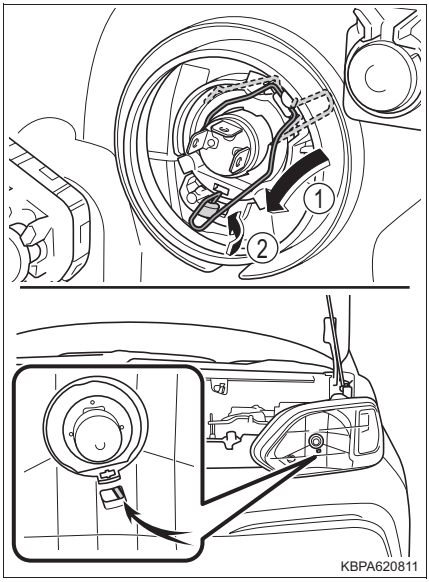
6 留め金を取り付ける

① 留め金を下げる

② 留め金を押しフックにひっかけて固定する

バルブの固定状態は、車両前側のレンズ面からも確認できます。

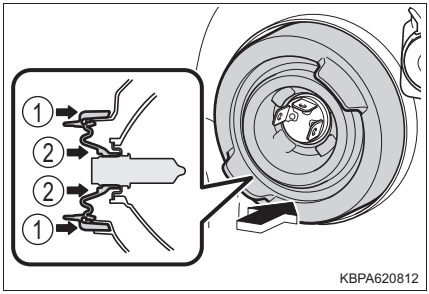
確実に固定されている場合は、クリップが見えます。



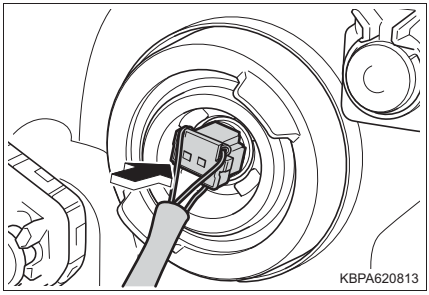
7 ゴムカバーを取り付ける

① ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

② ゴムカバーの内周(電球まわり)を全周にわたり電球の金属部分が確認できるまで押しこむ

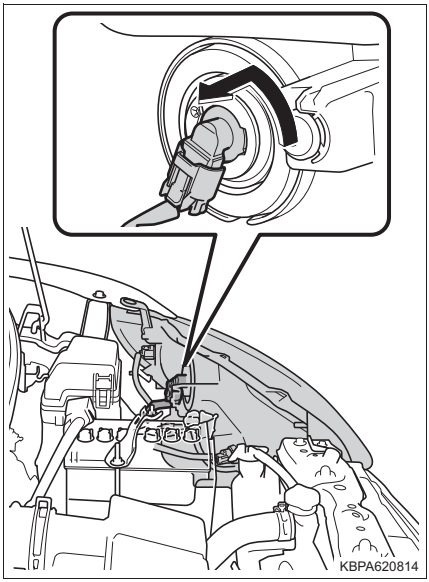


8 コネクターを取り付ける

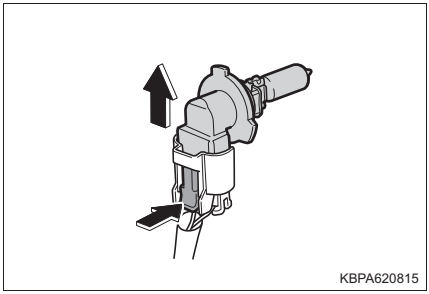


■ ヘッドランプハイビーム（MODA を除く LED ヘッドランプ装着車）

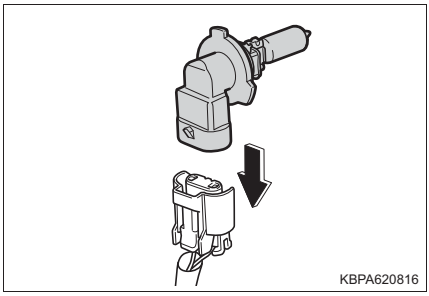
1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



2 コネクタのツメを押し、電球を取りはずす



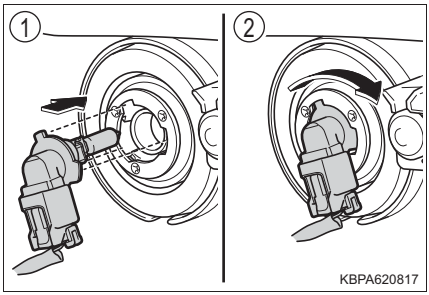
3 電球を交換し、コネクタに取り付ける



4 ソケットをまわして固定する

① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約 45° 傾けながら挿し込む

② 電球を右に回して固定する

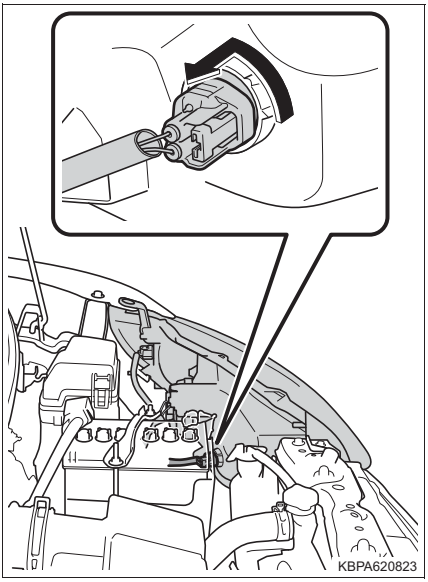


取り付けたあとは、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

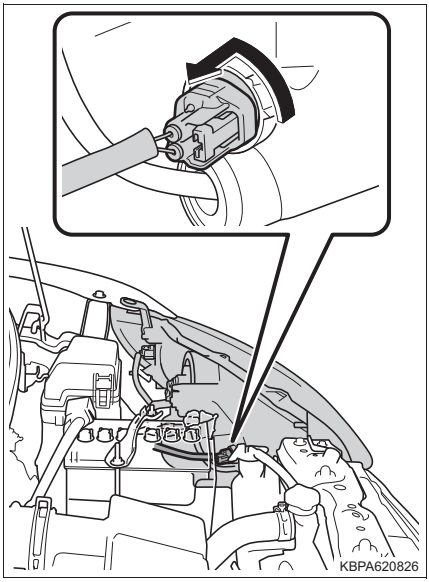
■ 車幅灯

1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす

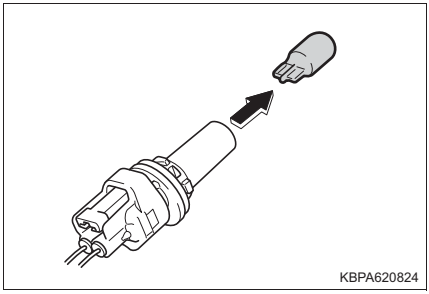
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



▶ MODA を除く LED ヘッドランプ装着車

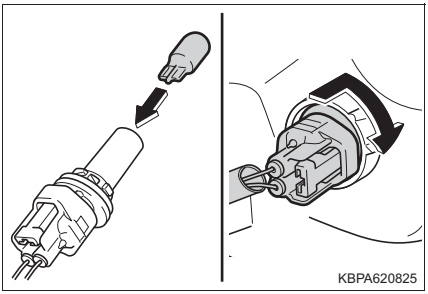


2 電球を取りはずす

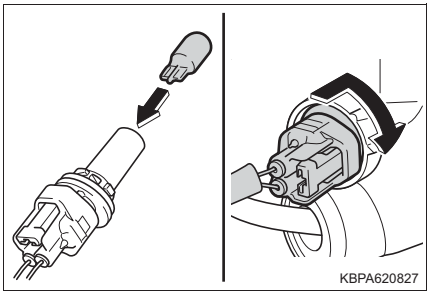


3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



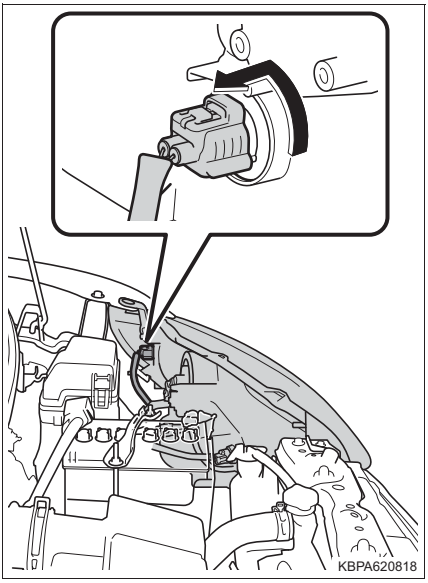
▶ MODA を除く LED ヘッドランプ装着車



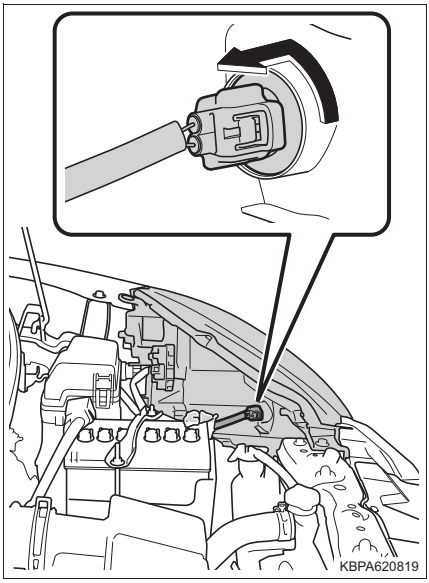
■ フロント方向指示兼非常点滅灯

1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす

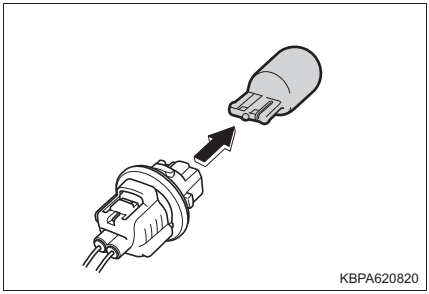
▶ MODA を除く



▶ MODA

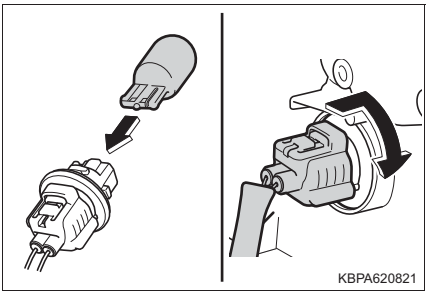


2 電球を取りはずす

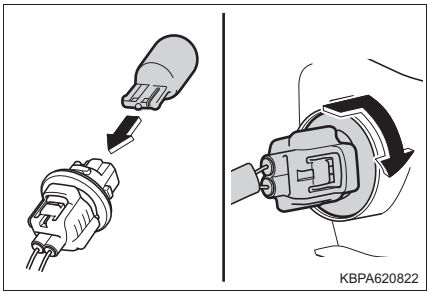


3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

▶ MODA を除く

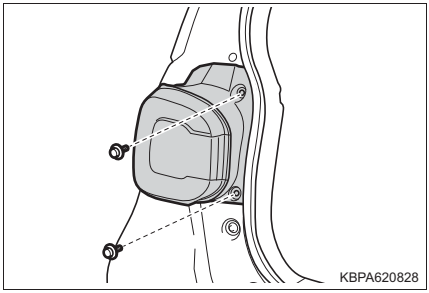


▶ MODA



■ 後退灯・リヤ方向指示兼非常点滅灯

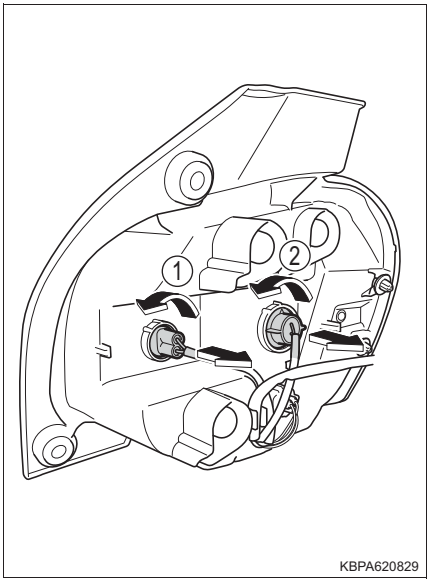
1 バックドアを開けて、ボルト（2 本）をはずし、ランプ全体をはずす



2 ソケットを取りはずす

① 後退灯

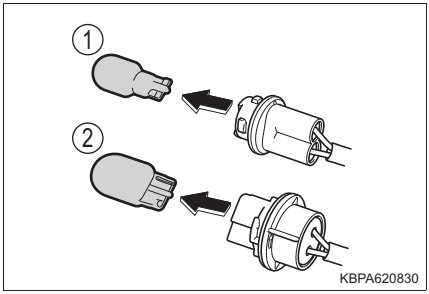
② リヤ方向指示兼非常点滅灯



3 電球を取りはずす

① 後退灯

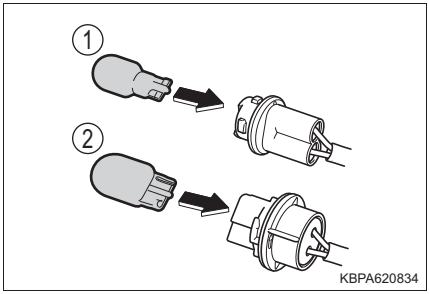
② リヤ方向指示兼非常点滅灯



4 電球を交換し取り付ける

① 後退灯

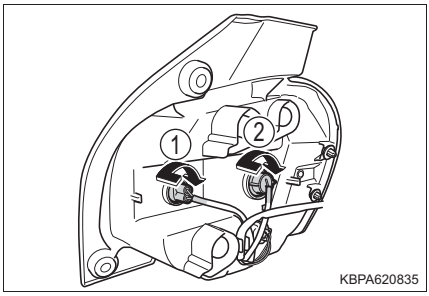
② リヤ方向指示兼非常点滅灯



5 ソケットを取り付ける

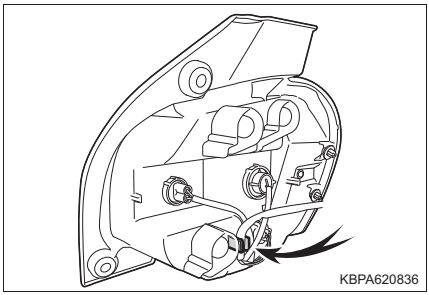
① 後退灯

② リヤ方向指示兼非常点滅灯



6 配線がランプ本体に確実に取り付けられていることを確認する

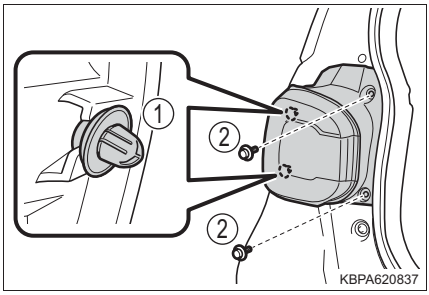
配線を取り付けるときは、配線のテーピング中央部をクランプに取り付けてください。



7 車両側とランプ本体のクリップの位置を合わせ、ランプ本体を車両前方へ押す

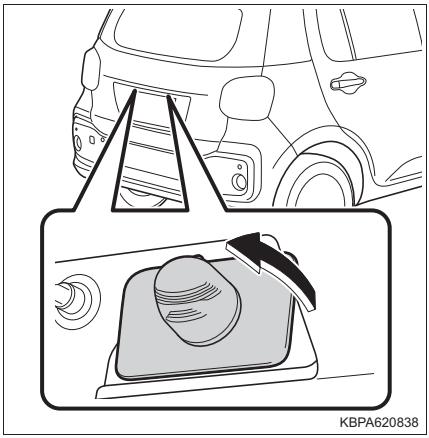
① ランプ本体を前方に押し込みランプのクリップ（2ヶ所）をはめる

② ボルト（2 本）を取り付ける

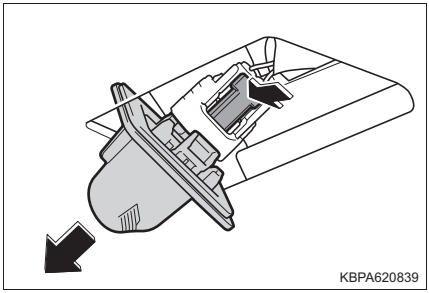


■ 番号灯

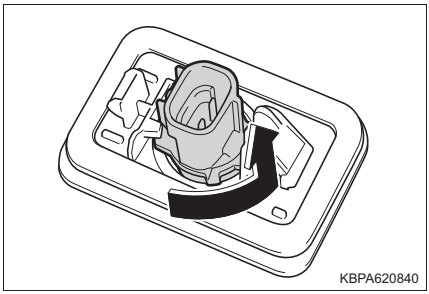
1 ランプ本体を取りはずす


KBPA620838

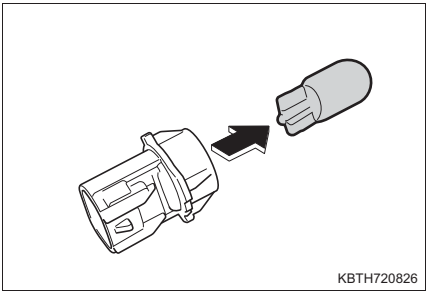
2 ツメを押し、コネクターを取りはずす


KBPA620839

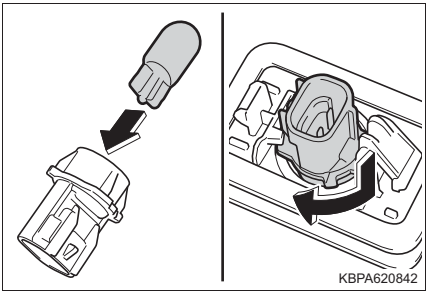
3 ソケットをまわして取りはずす


KBPA620840

4 電球を取りはずす



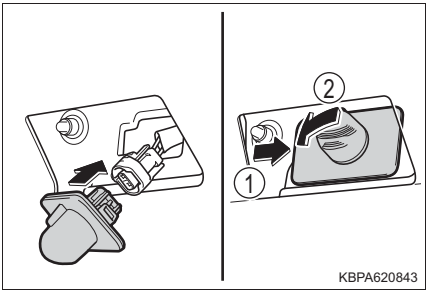
5 新しい電球を取り付け、ソケットをまわしてレンズに取り付ける



6 コネクターを挿し込み、ランプ本体を取り付ける

① 車両右側に押し込む

② ランプ本体を押す



■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプハイビーム／ロービーム（MODA）
- ヘッドランプロービーム（MODA を除く LED ヘッドランプ装着車）
- LED イルミネーションランプ★
- 車幅灯（MODA）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
  （サイド方向指示灯付ドアミラー非装着車）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
  （サイド方向指示灯付ドアミラー装着車）
- 制動灯／尾灯
- ハイマウントストップランプ
- フロントフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

LED イルミネーションランプ★、制動灯／尾灯・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 288

警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
  やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは.....304
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....305
発炎筒.....306
車両を緊急停止するには.....308
水没・冠水したときは.....309

7-2. 緊急時の対処法

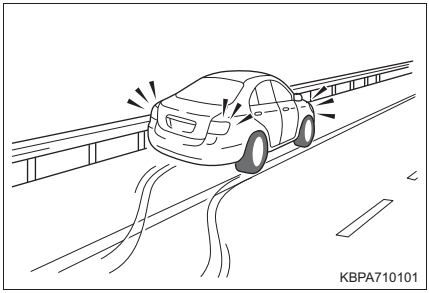
けん引について.....310
フューエルポンプシャット
オフシステム.....318
警告灯がついたときは.....319
“スマアシ停止”が
表示されたときは.....325
パンクしたときは
（タイヤパンク応急修理
セット装着車）.....327
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....339
エンジンが
かからないときは.....350
電子カードキーが正常に
働かないときは.....352
バッテリーが
あがったときは.....354
オーバーヒートしたときは...357
スタックしたときは.....360

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

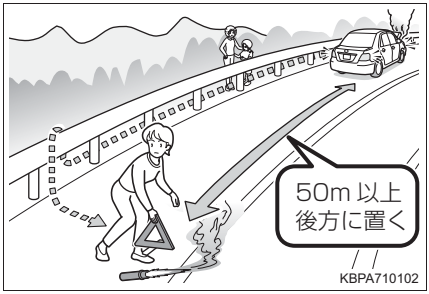
非常点滅灯（→ P. 305）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 306）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

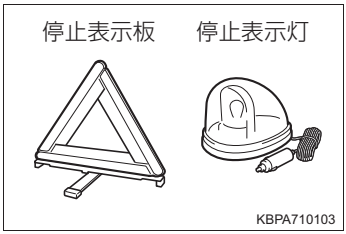


知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。

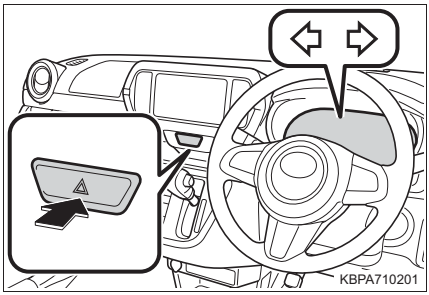


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

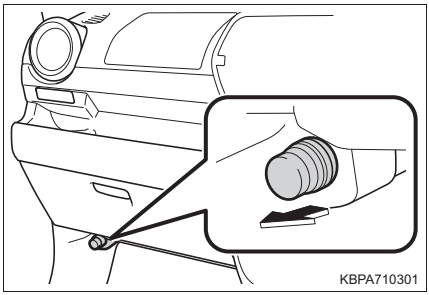
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

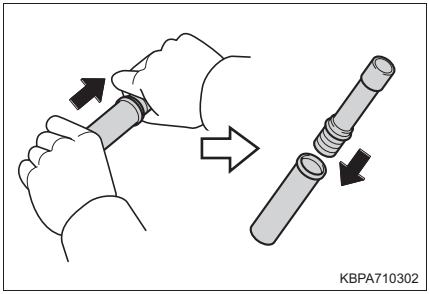
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

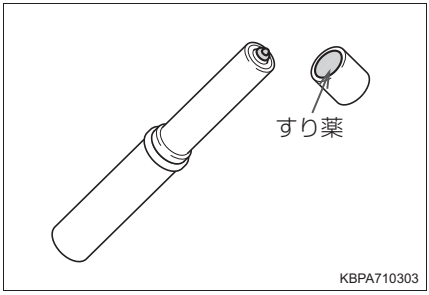


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する

3 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

KBPA710402

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。
冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。
車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。
この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

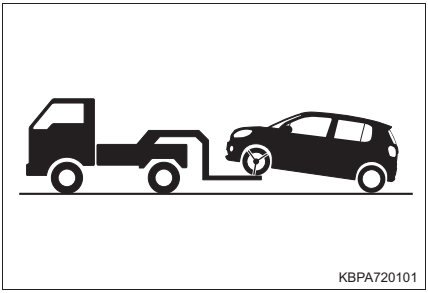
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

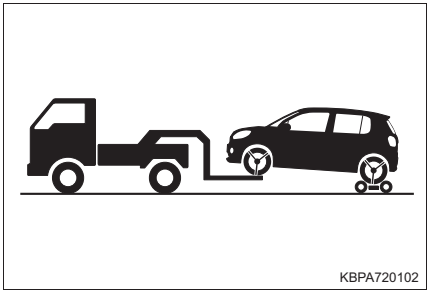
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは（FF 車）



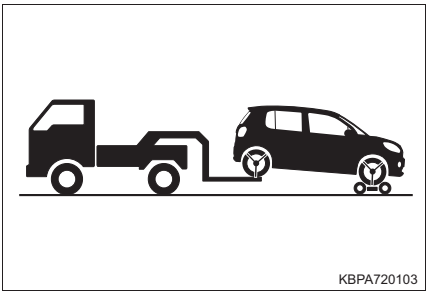
パーキングブレーキを解除する

▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

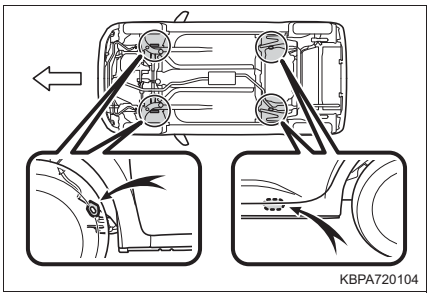

KBPA720103

台車を使用して前輪を持ち上げる

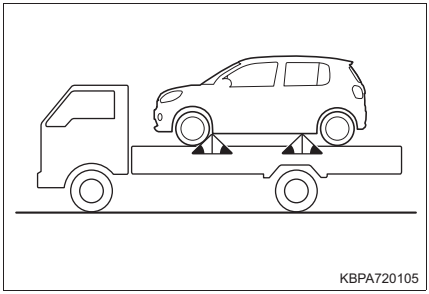
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

輸送後は、リヤ側に取り付いているフタをもとにもどしてください。


KBPA720104

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する


KBPA720105

他車にけん引してもらうとき

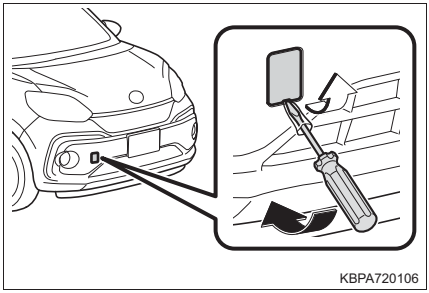
1 けん引フックを取り出す（→ P. 328, 340）

2 けん引フックを取り付ける

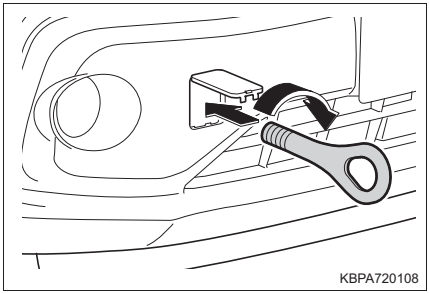
▶ MODA を除く

マイナスドライバーを使ってフタをはずす

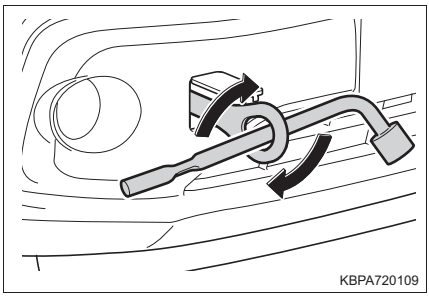
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


KBPA720106

けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める


KBPA720108

ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

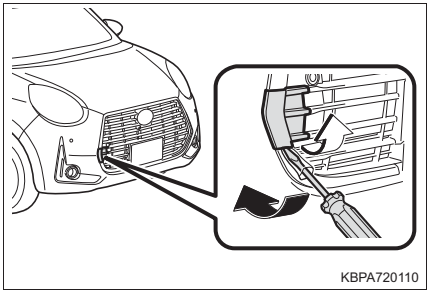

KBPA720109

▶ MODA

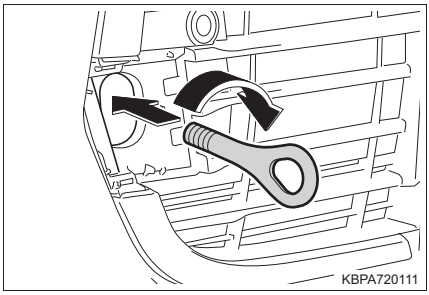
マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

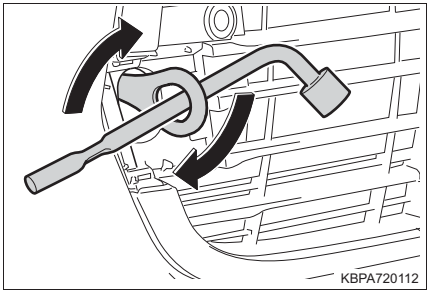
取りはずしたフタを紛失しないようにご注意ください。



けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

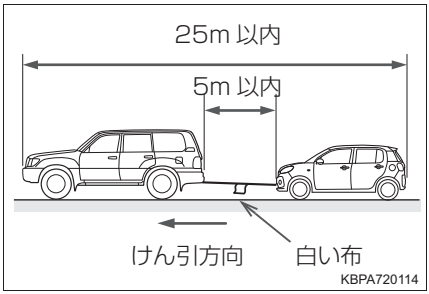


3 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

4 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



5 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

6 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 132

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

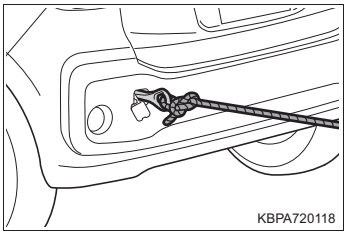
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルーム内に搭載されています。（→ P. 328, 340）

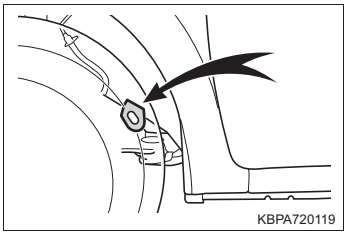
■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



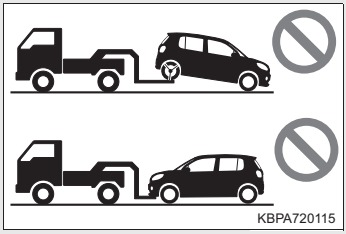
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

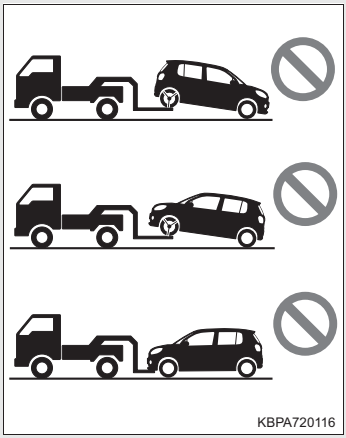
▶FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

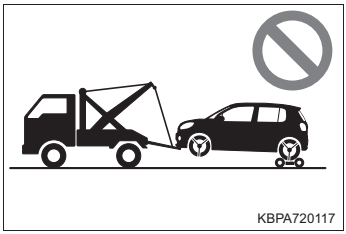
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

1 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

2 エンジンを再始動する

⚠ 注意

■ **エンジンを始動する前に**

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー ※1） ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	充電警告灯 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	油圧警告灯（警告ブザー） エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
（赤色点滅または点灯）	**高水温警告灯** エンジン冷却水温の異常 （水温の上昇にともない、点滅から点灯にかわります。→ P. 357） **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
CVT（点滅）	**オートマチックトランスミッション警告灯** オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ABS 警告灯 ABS の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（赤色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
※2 （黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** 電圧不足・エレクトリックパワーステアリングのオーバーヒート **→ ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作をひかえてください。約 10 分経過すると通常の重さにもどります。**
（黄色）	**オートハイビーム警告灯** オートハイビームの異常 **→ トヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF OFF ※3 スマアシ故障	**スマートアシスト OFF 表示灯** **車線逸脱警報 OFF 表示灯** **マスターウォーニング** **マルチインフォメーションディスプレイに “ スマアシ故障 ” が表示** スマートアシストⅢの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	コーナーセンサー表示灯（警告ブザー） **マスターウォーニング** コーナーセンサーの異常 **→ トヨタ販売店で点検を受けてください。**
（点灯）	**スリップ表示灯** ・ブレーキアシストの異常 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 （VSC・TRC 作動時は点滅します。→ P. 213） ・ヒルスタートアシストコントロールの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
OFF （点滅）	**Stop & Start キャンセル表示灯** ・Stop & Start システムの異常 ・スターターの交換時期 （Stop & Start システム非作動時は点灯します→P. 187） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
※4 OFF （点滅→消灯）	**Stop & Start キャンセル表示灯** バッテリーの交換時期 （Stop & Start システム非作動時は点灯します→ P. 187） **→ トヨタ販売店で点検を受けてください。**
	LED ヘッドランプオートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（点灯）	**キーフリー警告灯** キーフリーシステムの異常 （キーフリー警告灯が点滅したときは→ P. 323） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	LED ヘッドランプ警告灯★ LED ヘッドランプの異常 異常時は LED ヘッドランプは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください**
	ブレーキオーバーライドシステム警告灯 ブレーキオーバーライドシステムの作動時 **→ アクセルペダルから足を離してください。**
	半ドア警告灯（警告ブザー ※5） いずれかのドアまたはバックドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が 2WD 車は 5.4L 以下、4WD は 6.6L 以下になった **→ 燃料を補給する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（点滅）	**運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯**※6**(警告ブザー**※7**)** 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**
	後席シートベルト締め忘れ警告灯 ※8 **（警告ブザー** ※9**)** 後席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する。**
	パーキングブレーキ未解除警告灯（警告ブザー ※10**)** パーキングブレーキがかかっているとき **→ パーキングブレーキを解除する**

※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

※2 パワーステアリング警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

※3 スマートアシストⅢの異常：
ステレオカメラ、ソナーに異常がある場合に表示されます。

※4 Stop & Start キャンセル表示灯：
エンジン始動時に、数秒間点滅します。

※5 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときにブザーが鳴ります。

※6 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

※7 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトが締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトが締め忘れたままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

※8 後席シートベルト締め忘れ警告灯：
リヤシートベルトが非装着の状態で、エンジンスイッチがイグニッション ON モードにしたとき、もしくはリヤシートベルトをはずすと点灯します。
リヤシートベルトを着用する、または走行後約 30 秒経過すると消灯します。
また、走行後リヤシートベルトをはずした状態でリヤドアを開閉すると点灯します。

※9 後席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
車速が約 5km/h 以上で乗員がリヤシートベルトをはずすと約 30 秒間鳴り続けます。一度警告ブザーが鳴ると、約 5km/h 以下で走行しても約 30 秒間鳴り続けます。
リヤシートベルトを着用する、もしくはリヤドアを開閉すると、ブザーが停止します。

※10 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリー警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告灯	警告内容・対処方法
—	（高速点滅）	**キーフリー警告灯** 電子カードキーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした **→ 電子カードキーを携帯する** ※1
5 回	（高速点滅）	**キーフリー警告灯** エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた **→ 電子カードキーを携帯する**
3 回	（点滅）	**キーフリー警告灯** 電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチを OFF にした **→ 新しい電池に交換する** ※2 **（→ P. 283）**

※1 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。（→ P. 283）

※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたときも点滅します。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、Stop & Start 表示灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告灯	警告内容・対処方法
連続音（約 5 秒間）	（高速点滅）	**Stop & Start 表示灯** Stop & Start システムによるエンジン停止中に運転席ドアを開けた **→ 運転席ドアを閉める**
連続音（約 5 秒間）	（高速点滅）	**Stop & Start 表示灯** Stop & Start システムによるエンジン停止中に運転席シートベルトをはずした **→ 運転席シートベルトを着用する**
連続音（約 5 秒間）	（高速点滅）	**Stop & Start 表示灯** Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けた **→ ボンネットを閉めた後、シフトレバーを P にして、エンジンスイッチでエンジンを始動する**

⚠ 警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

“スマアシ※停止”が表示されたときは

スマートアシストⅢの機能が停止すると、“スマアシ停止”と機能停止コードがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

※“スマアシ”はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

機能停止コード一覧

警告灯	警告内容・対処方法
スマアシ 停止11E	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない → **原因状態が解消されると復帰**
スマアシ 停止12E	ステレオカメラ（車両前側）内が高温になった → **原因状態が解消されると復帰** エンジン始動後、２次ブレーキが３回作動した → **安全な場所に停車し、エンジンスイッチを OFF にしたあと、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする**
スマアシ 停止14E	スマートアシスト初期学習中 → **しばらく走行すると復帰**
スマアシ 停止15E	雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部※1またはリヤソナー部※2に付着している → **ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰**
スマアシ 停止16E	フロントワイパーを“高速”で作動させている → **原因状態が解消されると復帰**

※1 シフトレバーがＤ・Ｓ・Ｂのとき

※2 シフトレバーがＲのとき

知識

■機能停止コードについて

●処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。
通常の走行に支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●機能停止コード「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。

●「11E」はシフトレバーがR以外、「15E」「16E」はシフトレバーがPまたはN以外のときに表示します。

●「15E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。

●シフトレバーがD･S･Bのときは、フロントワイパーを“高速”で作動させていても、「16E」、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理セット装着車）

タイヤパンク応急修理セット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。
タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 328）
タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

⚠ 警告

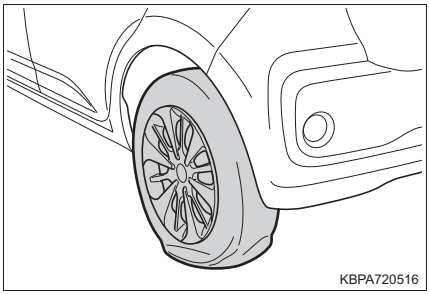
■**タイヤがパンクしたときは**
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。


KBPA720516

・パンク修理剤がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

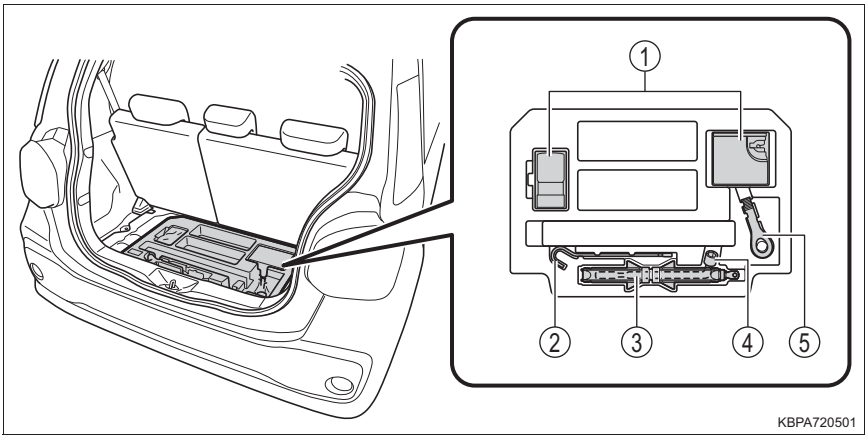
知識

■タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク

次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●パンク修理剤の有効期限が切れているとき

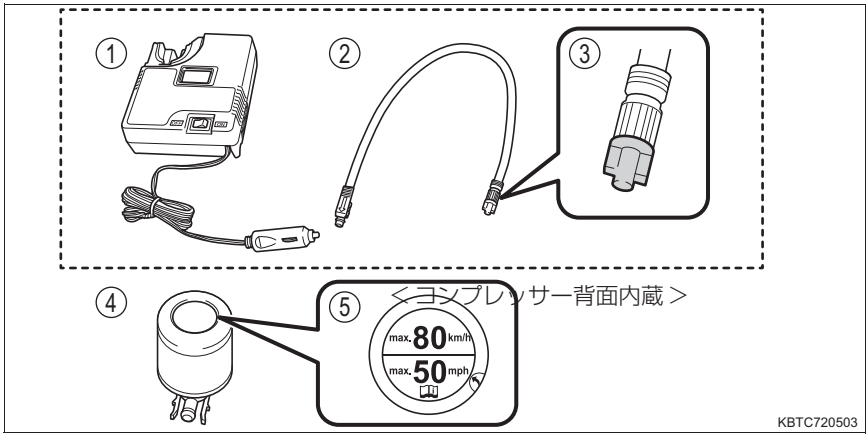
タイヤパンク応急修理セット・工具の搭載位置



① タイヤパンク応急修理セット
② ジャッキハンドル ※
③ ジャッキ ※
④ ホイールナットレンチ ※
⑤ けん引フック

※ ジャッキの使い方（→ P. 345）

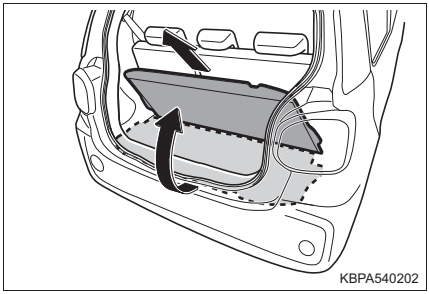
タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称



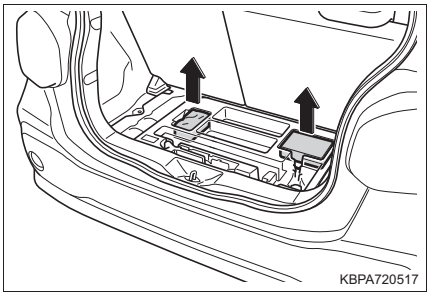
① コンプレッサー
② ホース
③ ホース栓
④ パンク修理剤ボトル
⑤ 速度制限シール

タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

1 デッキボードを持ち上げ、手前に引いて取りはずす



2 タイヤパンク応急修理セットを取り出す

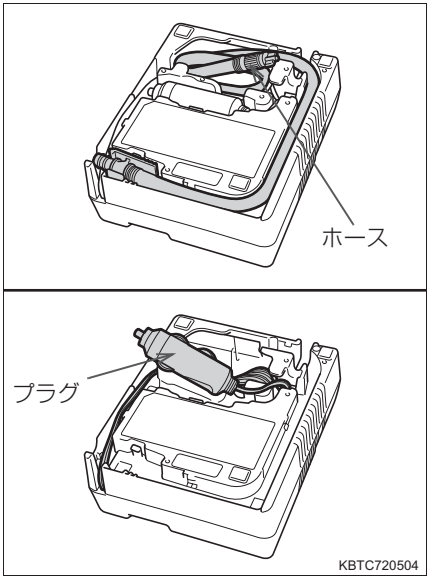


応急修理するとき

1 パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
（新しく購入したパンク修理剤ボトルには、緩衝材が入っていません）

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

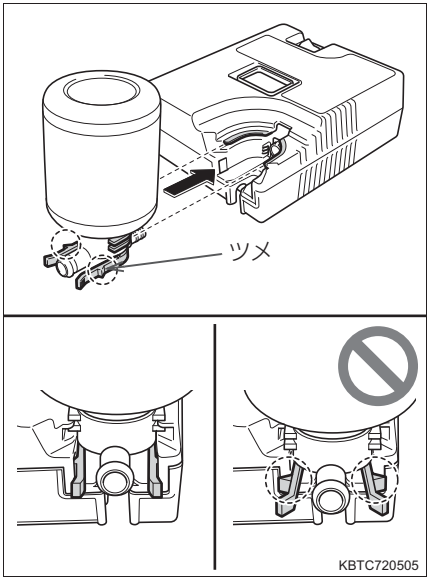


3 パンク修理剤ボトルをよく振る

パンク修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

4 コンプレッサーにパンク修理剤ボトルを強く押し込み固定する

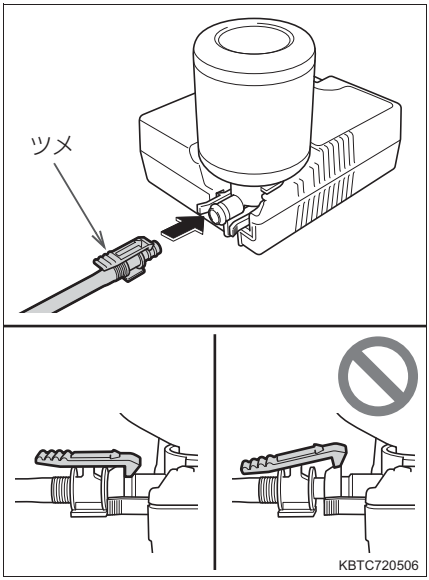
ボトルのツメが固定されるまで、しっかり押し込んでください。



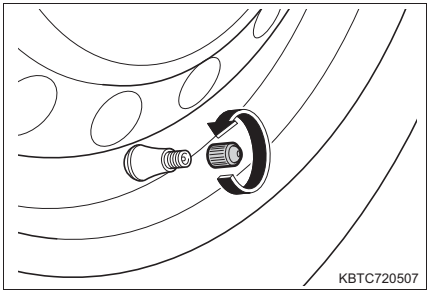
5 パンク修理剤ボトルにホースを差し込む

ホースのツメが固定されるまでしっかり差し込んでください。

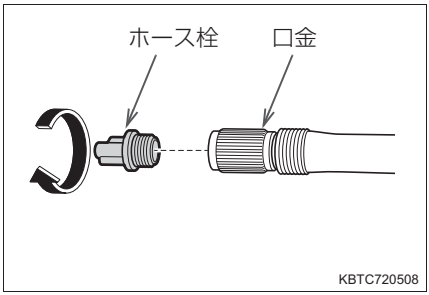
接続部が確実に固定されていることを確認してください。



6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す

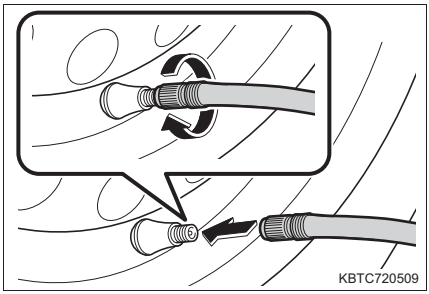


7 ホースの口金からホース栓を取り外す

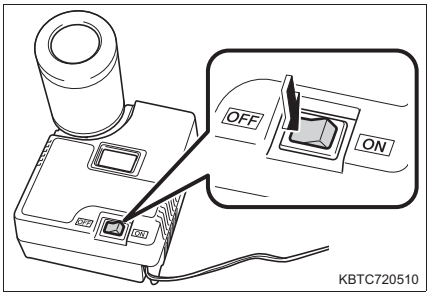


8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホースの口金を回して最後までしっかりねじ込みます。

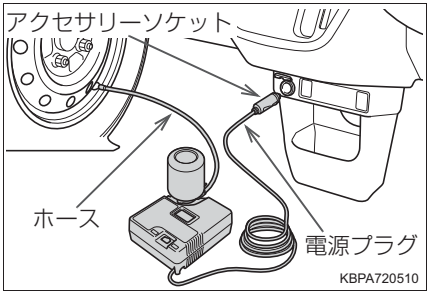


9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する

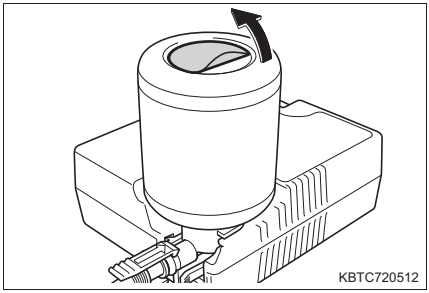


10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリーソケットに差し込む

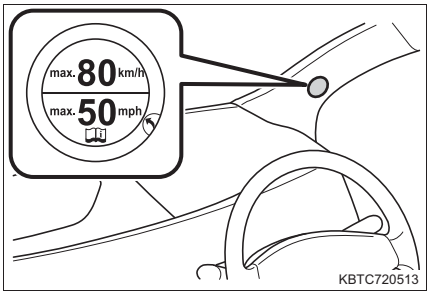
手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリーソケットに差し込んでください。



11 パンク修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



13 タイヤの指定空気圧を確認する

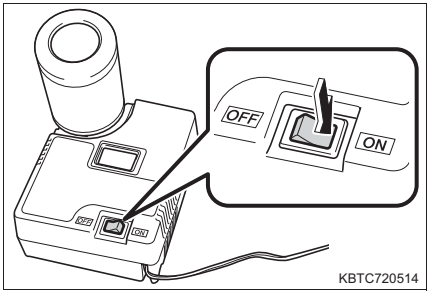
タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

14 エンジンを始動する

15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、パンク修理剤と空気を充填する

5 分以内に昇圧し始めない場合、タイヤをジャッキで浮かせて手で２～３回以上回し、パンク修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。

（ジャッキの使い方→ P. 345）

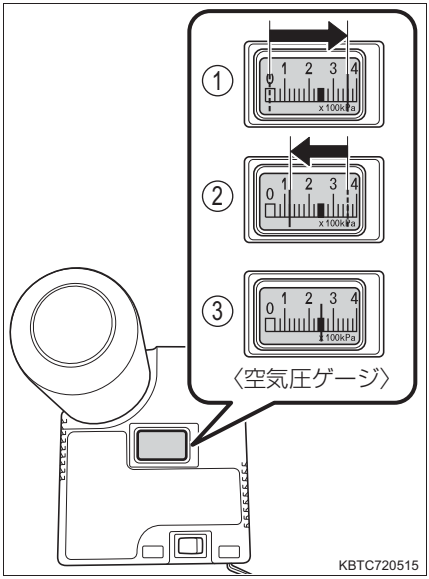


16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくはパンク修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約300～400kPaまで上がります。

② 1分程度（低温の場合は5分程度）で実際の空気圧表示になります。

③ 指定空気圧になるまで昇圧します。



次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。トヨタ販売店、または JAF などにご連絡ください。

・パンク修理剤が5分以内に充填できない
・25 分以内に指定空気圧まで上がらない

17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す

ホースの口金を取り外すときにパンク修理剤が漏れることがあります。

19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

21 一旦パンク修理剤ボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

コンプレッサーに取り付けたボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残ったパンク修理剤がこぼれるおそれがあります。

22 空気が抜けるのを防ぐため、ただちに走行を開始する

急加速･急ブレーキ･急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転してください。

23 約 5km 程度走行後、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを OFF にする

24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する
- コンプレッサーを車両に接続する
- エンジンを始動する
- コンプレッサーの電源を “ ON ” にして作動させたあと、電源を “ OFF ” にして空気圧ゲージで確認する

25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する

▶ 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合

手順 6 ～ 23 を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。

▶ 空気圧が 130kPa 以下に低下していた場合

タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、トヨタ販売店、または JAF などにご連絡ください。

26 異常がなければ、ただちにトヨタ販売店まで走行する
- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
- 100km 以上の距離を走行しないでください。

知識

■応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■タイヤパンク応急修理セットの点検について

●パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はパンク修理剤ボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込み、エンジンスイッチをアクセサリーモードにして、作動の確認をしてください。

■タイヤパンク応急修理セットについて

●タイヤパンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。

●タイヤパンク応急修理セットのパンク修理剤ボトルとホースは、1本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルとホースの交換は、トヨタ販売店にご相談ください。

●外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●タイヤパンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などでただちにふき取ってください。

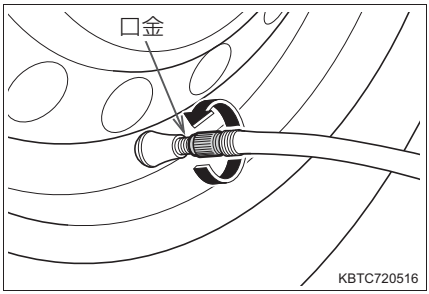
●コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

●新しいパンク修理剤ボトルは、トヨタ販売店でご購入ください。

■空気を入れ過ぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



⚠ 警告

■タイヤパンク応急修理セットについて

●タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●タイヤパンク応急修理セットはお客様のお車専用です。他車には使わないでください。他車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■パンク修理剤について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●コンプレッサーの使用中に、作動がにぶくなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を “ OFF ” にし、30 分以上放置してください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メーターやウインドウガラスなど、運転の妨げになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●お車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルを取られたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
・空気圧を確認してください。130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■タイヤパンク応急修理セットについて

●タイヤパンク応急修理セットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。

●タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●タイヤパンク応急修理セットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧ゲージなどに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 269 を参照してください）

警告

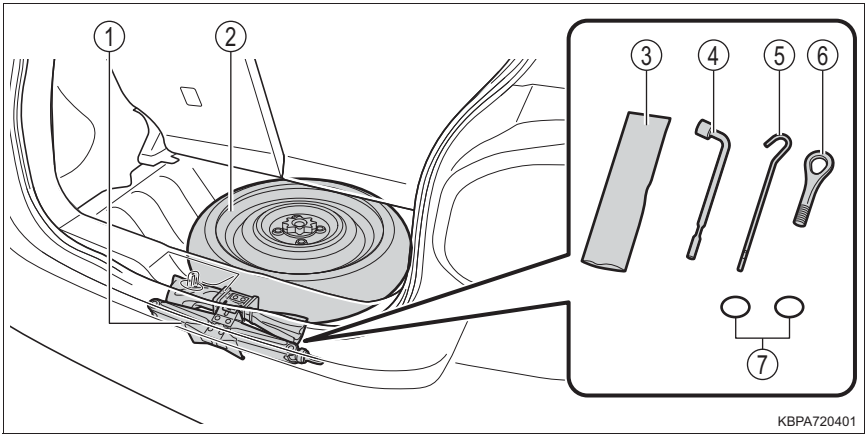
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



① ジャッキ
② 応急用タイヤ
③ 工具袋
④ ホイールナットレンチ
⑤ ジャッキハンドル
⑥ けん引フック
⑦ ゴムバンド

警告

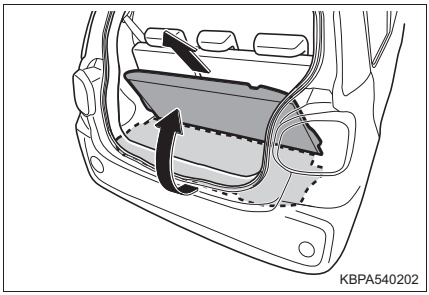
■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ●ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ●ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ●車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり車を走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- ●車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキと工具の取り出し方

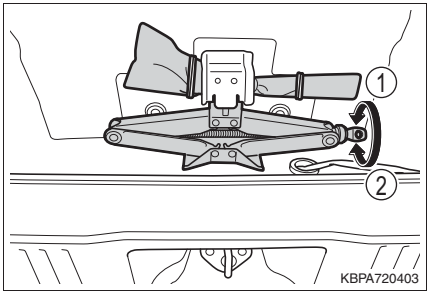
1 デッキボードを持ち上げ、手前に引いて取りはずす



2 ジャッキと工具を取り出す

① 締まる

② ゆるむ



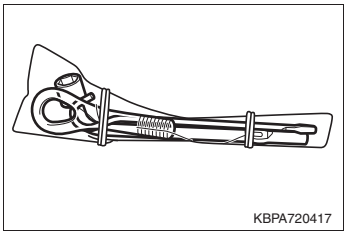
知識

■ジャッキを収納するには

使用後はもとの位置にもどし、確実に固定してください。

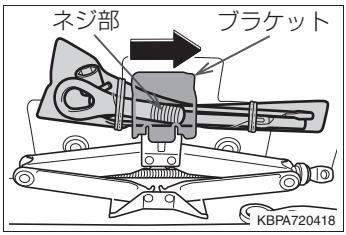
■工具を収納するときは

1 図のようにホイールナットレンチ、ジャッキハンドル、けん引フックを工具袋に収納し、ゴムバンドで固定する



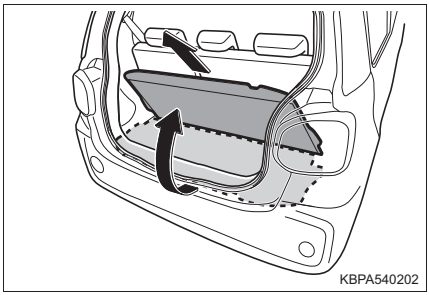
2 工具をブラケットの中に固定されるまで押し込む

けん引フックのネジ部がブラケットに通るまで押し込む

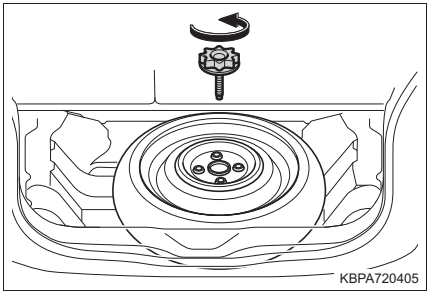


応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボードを持ち上げ、手前に引いて取りはずす



2 止め具をはずし、タイヤを取り出す



警告

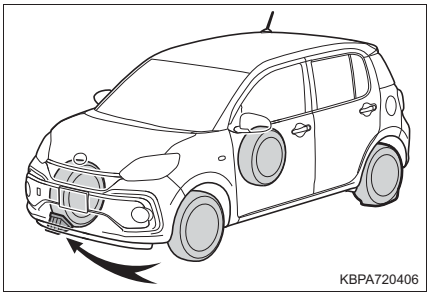
■**応急用タイヤを収納するとき**

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め ※ をする

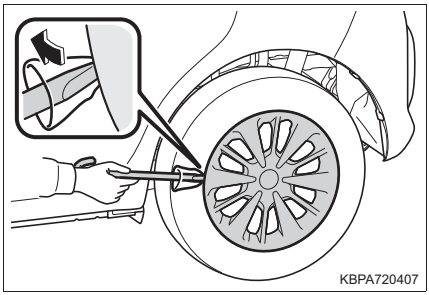
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



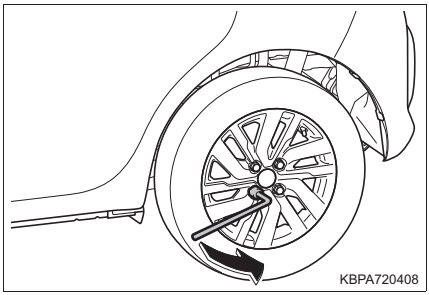
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ホイールキャップをはずす ※

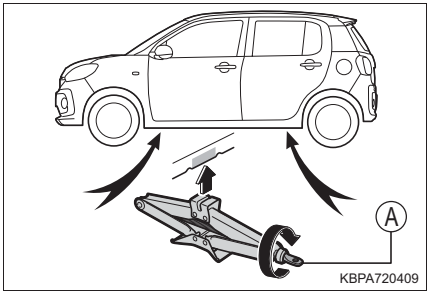
※ スチールホイールのみ
傷が付くのを防ぐため、ジャッキハンドルの先端に布などを巻いて保護してください。



3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

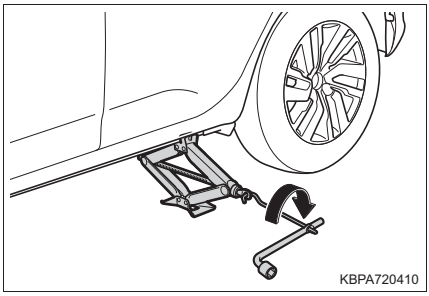


4 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



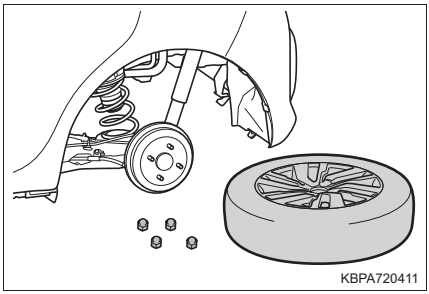
5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体をあげる

ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

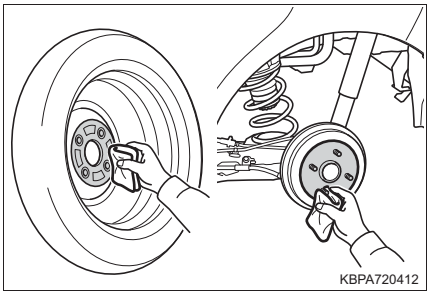
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部やナットのテーパー部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
（→ P. 272）

応急用タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る

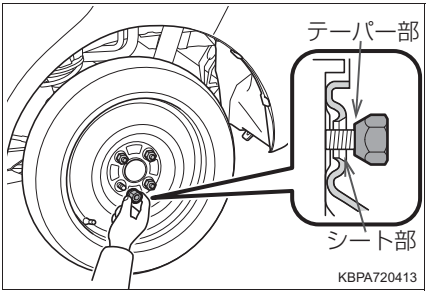
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



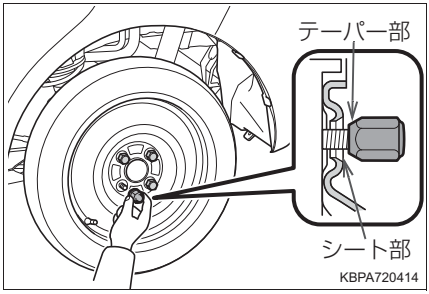
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

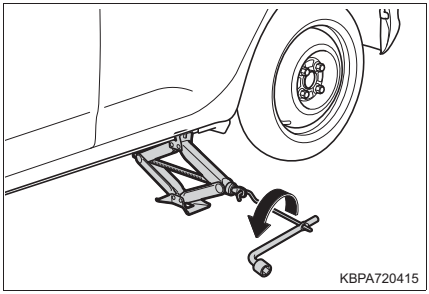
▶スチールホイール装着車



▶アルミホイール装着車

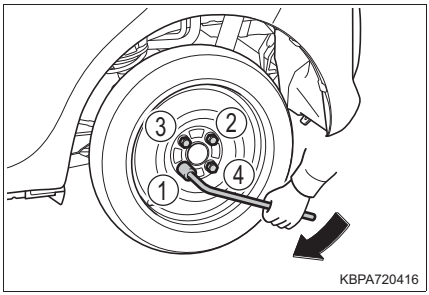


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→ P. 367）

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときはご注意ください。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■応急用タイヤを使用するとき

●お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

⚠ 警告

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・EPS
・VSC
・TRC
・スマートアシストⅢ

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

・V フレックスフルタイム 4WD システム★

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときは注意してください。

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 126）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 126）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
  （→ P. 60）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 354）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない

- 電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。
  異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 352）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 354）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

電子カードキーが正常に働かないときは

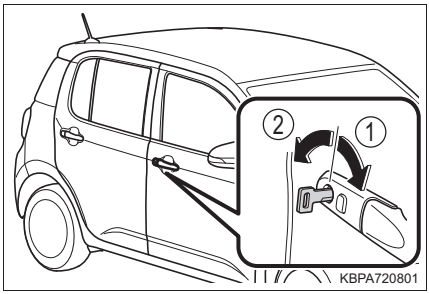
電子カードキーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 85）、電子カードキーの電池が切れたときは、キーフリーシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→ P. 79）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② 全ドア解錠

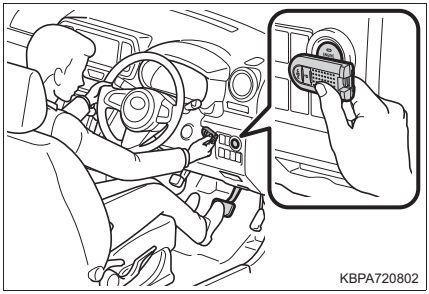


エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子カードキーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。



3 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 283）

■エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 127）

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

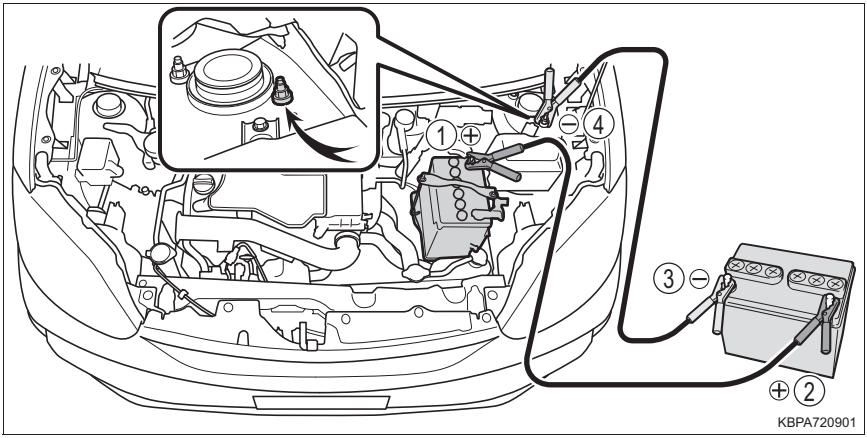
1 バッテリーの ＋ 端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ



2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

3 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける

4 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防止するために

●エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリーがあがった直後はキーフリーシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで施錠・解錠を実施してください。

●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。２回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。
同等の性能のものと交換してください。
適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

■車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 319）が赤色点滅または点灯したり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

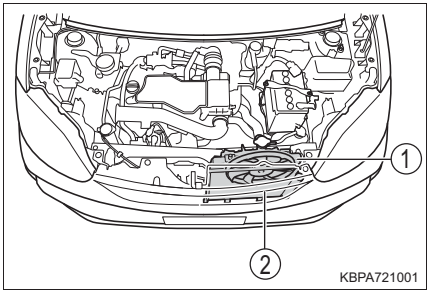
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ファン

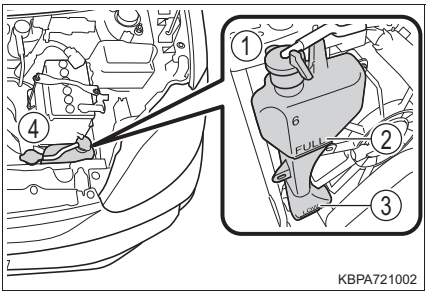
② ラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



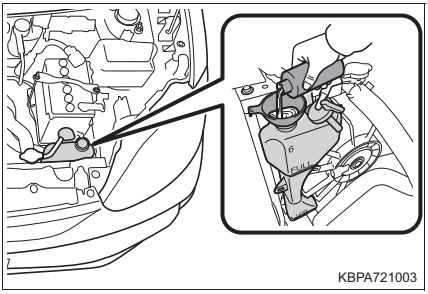
4 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL”（上限）と “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク
② “FULL”（上限）
③ “LOW”（下限）
④ ラジエーターキャップ



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

●手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●エンジンおよびラジエーターが熱い場合はラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2. タイヤ前後の土や雪を取り除く
3. タイヤの下に木や石などをあてがう
4. エンジンを再始動する
5. シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

   VSC・TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC・TRC を停止してください。（→ P. 213, 214）

⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....362
8-2. カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧.....368
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....371

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）	
無鉛レギュラーガソリン	FF（前輪駆動）	4WD（4 輪駆動）
	36	38

エンジンオイル

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値※）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, SAE 5W-30	1KR-FE	2.9	3.1

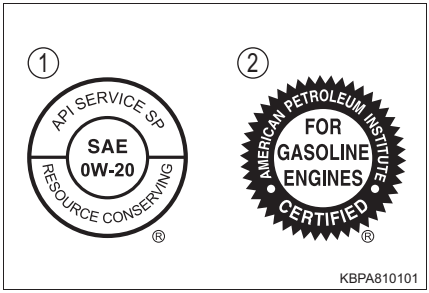
※エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

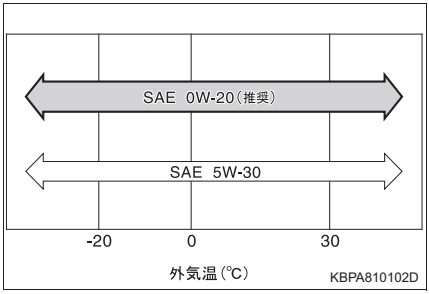
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	1KR-FE	4.3

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値）
トヨタ純正 CVT フルード　FE	5.8

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.57

リヤディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.83

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	0.5 ～ 3
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	80 以上

※ エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 245 N（25 kgf）のときのノッチ ※ 数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

バッテリー

形式
M-42

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
2.0

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	165/65R14 79S	14 × 5J	250（2.5）	250（2.5）
	175/55R15 77V	15 × 5J	250（2.5）	250（2.5）
応急用タイヤ★	T115/70D14 88M	14 × 4T	420（4.2）	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハロゲンヘッドランプ装着車 （バルブタイプ：H4） LED ヘッドランプ装着車 ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	60/55 60
	車幅灯	5
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	5
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	インテリアランプ／マップランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
M700A	1KR-FE （1.0L ガソリン）	FF（前輪駆動）
M710A	1KR-FE （1.0L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ キーフリーシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 81, P. 90）

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし

■ キーフリーシステム（→ P. 81）

機能の内容	初期設定	変更後
キーフリーシステムの作動	あり	なし

■ スマートアシストⅢ（先行車発進お知らせ機能）（→ P. 184）

機能の内容	初期設定	変更後
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング	標準	やや早い
		早い

■ オートエアコン★（→ P. 229）

機能の内容	初期設定	変更後
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない

■ ランプ（→ P. 135）

機能の内容	初期設定	変更後
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→ P. 240）

機能の内容	初期設定	変更後
ドア開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間	15 秒	7.5 秒
エンジンスイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし

■ ドアミラー（→ P. 107）

機能の内容	初期設定	変更後
ドアミラースイッチの操作による格納・復帰	エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは ON モードで格納・復帰	エンジンスイッチが ON モードで格納・復帰
エンジンスイッチの操作と連動して復帰	エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは ON モードで復帰	エンジンスイッチが ON モードで復帰

■ フロントワイパー（車速感応式間欠ワイパー装着車）（→ P. 143）

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応間欠作動機能	する	しない

■ リヤワイパー＆ウォッシャー★（→ P. 145）

機能の内容	初期設定	変更後
リバース連動機能	する	しない
間欠作動時間の調整	標準	早い
		遅い
間欠作動開始時に 4 秒間の低速作動	する	しない
リヤウォッシャー連動機能	しない	する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 方向指示レバー（→ P. 133）

機能の内容	初期設定	変更後
レバーを途中まで動かしたときの３回点滅する機能	する	しない
逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の３回点滅が始まるまでのレバー保持時間	レベル２	レベル１～４
右左折後に消灯させるハンドルの角度調整	レベル３	レベル１～９

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	機能の内容	参照
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P. 110

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....374
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....377
アルファベット順さくいん.....378
五十音順さくいん.....379

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 79）
- キーまたは電子カードキーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 80）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 283）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
  施錠するときはエンジンスイッチをOFFにしてください。（→P. 127）
- 電子カードキーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは電子カードキーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 85）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 91）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？ （→ P. 126）
- シフトレバーは P になっていますか？ （→ P. 126）
- キーが車内の検知される場所にありますか？ （→ P. 83）
- ステアリングロックされていませんか？ （→ P. 129）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→ P. 352）
- バッテリーがあがっていませんか？ （→ P. 354）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
  エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないときは（→ P. 132）を参照してください。

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます（→ P. 128）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 110）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 128）

警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 377）をご確認ください。

警告灯が表示されたとき

- 警告灯が表示されたときは、（→ P. 319）をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 339）
- タイヤパンク応急修理セット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理セットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 327）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 360）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときに電子カードキーを車内から持ち出している	P. 323
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 138
エンジンを停止したとき	電子カードキーの電池残量が少なくなっている	P. 323

走行しているとき

状況	原因	詳細
停車しているとき	先行車が発進しても、停車し続けた	P. 184
走り出したとき	いずれかのドア･バックドアが確実に閉まっていない	P. 321
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 322
	運転席・助手席・後席のシートベルトを着用していない※	P. 322
	ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた	P. 172
走行しているとき	前方障害物に対して衝突の危険性がある	P. 162
	走行車線から逸脱する可能性がある	P. 181
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 119

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

4WD
（4 ホイールドライブ）. . . . . .P. 212
A/C
（エアコン）. . . . . .P. 224, 229
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. . . . . .P. 212
ECO
（エコノミー／エコロジー）. . . . . .P. 116
EDR
（イベントデータレコーダー）. . . . . P. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. . . . . .P. 212
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. . . . . .P. 364
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. . . . . .P. 42
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. . . . . .P. 33
TRC
（トラクションコントロール）. . . . . .P. 212
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. . . . . .P. 212

五十音順さくいん

あ

アームレスト 252
アームレストポケット 247
アイドリングストップ 186
　アイドリングストップ時間 71
　Stop & Start System 186
　Stop & Start System
　　キャンセルスイッチ 187
　Stop & Start キャンセル
　　表示灯 187
　Stop & Start システム 186
　Stop & Start 表示灯 186
アウターミラー（ドアミラー）... 107
　オート作動 108
　調整 107
アクセサリーソケット 254
アシストグリップ 253
アッパーボックス 246
アンチロックブレーキシステム
　（ABS）..... 212
アンテナ 258

い

イグニッション
　スイッチ 126
位置交換
　（タイヤローテーション）..... 269
一体可倒シート 98
イベントデータレコーダー
　（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 60
イルミネーテッドエントリー
　システム 241
　カスタマイズ機能 368
　作動について 241
　点灯する部位 240
インジケーター 66
インテリアランプ 240
　スイッチ 240
　ワット数 367
インナーミラー 106

う

ウインカー（方向指示灯）..... 133
　電球（バルブ）の交換 288
　方向指示レバー 133
　ワット数 367
ウインドウ 110
　ウォッシャー 143, 145
　パワーウインドウ 110
　リヤウインドウ
　　デフォッガー 225, 231
ウインドウロックスイッチ 110
ウインドシールド
　デアイサー 226, 231
ウォーニングランプ（警告灯）.... 319
ウォッシャー 143, 145
　液の補給 268
　スイッチ 143, 145
　タンク容量 366
　冬の前の準備・点検 218
動けなくなったときは
　（スタック）..... 360
運転 114
　環境に配慮した運転 116
　寒冷時の運転 218
　正しい運転姿勢 24
　手順 114
運転席・助手席シートベルト
　締め忘れ警告灯 322

え

エアコン
オートエアコン 229
フィルターの交換 275
マニュアルエアコン 224
エアバッグ 33
SRS エアバッグ警告灯 319
作動条件 37
配置 33
エコドライブ
インジケーター 116
エンジン
イグニッション
スイッチ 126
エンジン回転計
（タコメーター） 68
エンジンがかからない 350
エンジン警告灯 319
エンジンスイッチ 126
オーバーヒート 357
かけ方 126
ボンネット 265
エンジンイモビライザー
システム 60
エンジンオイル 363
冬の前の準備・点検 218
メンテナンスデータ 363
油圧警告表示 319
エンジンスイッチ
操作方法 126

お

オイル
油脂類の容量と銘柄 363
応急修理セット 327
応急用タイヤ 339
空気圧 367
収納場所 340
スペアタイヤ 340
取り出し方 343
オートエアコン 229
オートハイビーム 139
オートマチック
トランスミッション（A/T）
オートマチック
トランスミッション 131
シフトレバーが
シフトできない 132
オートレベリングシステム
警告灯 321
作動について 138
オーバーヒート 357
オープナー
給油口 149
バックドア 93
ボンネット 265

お子さまを乗せるとき.....41
ウインドウロックスイッチ.... 110
エアバッグに関する警告..... 34
お子さまのシートベルト着用... 30
お子さまを乗せるときの警告... 31
キーの電池に関する警告..... 284
シートベルトに関する警告..... 30
チャイルドシート 42
チャイルドシートの取り付け... 53
チャイルドプロテクター..... 91
発煙筒の取り扱いに
関する警告 307
バックドアに関する警告..... 94
バッテリーに関する警告..... 356
パワーウインドウに
関する警告 112
オドメーター 71
機能 71
表示の切りかえボタン..... 70

か

カーテンシールドエアバッグ.....33
カーペット.....262
洗浄 262
フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示.....72
外装の電球（バルブ）.....288
交換要領 288
ワット数 367
買い物フック.....255
カスタマイズ機能.....368
ガソリンスタンドでの情報.....396
型式 367
カップホルダー 244
ガラスの曇り取り
（リヤウインドウ
デフォッガー）.....225, 231
ガレージジャッキ 267
冠水路走行.....123
寒冷時の運転.....218

き

キー 78
イグニッション
スイッチ 126
エンジンが始動できない..... 352
エンジンスイッチ 126
キー 78
キーナンバープレート..... 78
キーの構成..... 78
キーの電池が切れた 283, 352
キーをなくした 79, 80
正常に働かない 352
施錠・解錠ができない..... 352
電子カードキー 78
電子カードキーの作動範囲..... 83
電池交換..... 283
メカニカルキー 79, 352
ワイヤレスリモコン 90
キーフリーシステム 81
アンテナの位置 83
エンジンスイッチ 126
エンジンの始動 126
カスタマイズ設定 368
警告ブザー..... 84, 323
作動範囲..... 83
正常に働かないとき 352
電波がおよぼす
影響について 89
ドアの施錠・解錠 90
バックドアの解錠 93
給油 147
給油のしかた 147
メンテナンスデータ 362
緊急時シートベルト固定機構 29
緊急時の対処
イベントデータレコーダー 8
エンジンがかからない..... 350
オーバーヒートした..... 357
キーの電池が切れた..... 283, 352
キーをなくした..... 79, 80
警告灯がついた..... 319
けん引..... 310
故障したときは..... 304
車両を緊急停止する..... 308
水没・冠水したときは..... 309
スタックした 360
電子カードキーが
正常に働かない..... 352
電子カードキーの
電池が切れた..... 283, 352
発炎筒 306
バッテリーがあがった..... 354
パンクした 327, 339
非常点滅灯 305
緊急ブレーキシグナル..... 213

く

空気圧（タイヤ）..... 367
メンテナンスデータ 367
空調（エアコン）
オートエアコン 229
フィルターの交換 275
マニュアルエアコン 224
区間距離計
（トリップメーター）..... 71
機能 71
切りかえボタン 70
曇り取り
フロントウインドウ
ガラス..... 225, 231
リヤウインドウ
デフォッガー 225, 231
クラクション（ホーン）..... 105
クリアランスランプ（車幅灯）... 135
スイッチ..... 135
電球（バルブ）の交換..... 288
ワット数..... 367
クリップ
フロアマット..... 22
グローブボックス..... 246

け

警音器（ホーン）..... 105
計器類（メーター）..... 68
マルチインフォメーション
ディスプレイ 70
メーター..... 68
警告灯.....63, 319
アンチロックブレーキ
システム（ABS）.....320
運転席・助手席シートベルト
締め忘れ 322
SRS エアバッグ 319
LED ヘッドランプ 321
LED ヘッドランプ
オートレベリング.....321
エンジン 319
オートハイビーム.....320
オートマチック
トランスミッション 319
キーフリー 321
高水温 319
後席シートベルト
締め忘れ 322
コーナーセンサー表示灯 320
車線逸脱警報 OFF 表示灯 320
充電.....319
Stop & Start キャンセル
表示灯 321
スマートアシスト OFF
表示灯 320
スリップ表示灯.....320
燃料残量 321
パーキングブレーキ未解除 322
パワーステアリング.....320
半ドア 321
プリテンショナー.....319
ブレーキ 319
ブレーキオーバーライド
システム 321
マスターウォーニング.....320
油圧.....319

警告ブザー
運転席・助手席
シートベルト締め忘れ..... 322
キーフリーシステム 84
後席シートベルト締め忘れ.... 322
誤発進抑制制御機能
（前方・後方）..... 156
コーナーセンサー 197
車線逸脱警報機能 157
衝突回避支援ブレーキ機能.... 156
衝突警報機能..... 156
Stop & Start
System..... 193, 324
先行車発進お知らせ機能..... 157
パーキングブレーキ
未解除走行時 322
パワーステアリング 320
半ドア走行時..... 321
ブレーキ..... 319
ランプ消し忘れ 138
リバース 132
化粧ミラー（バニティミラー）... 250
けん引..... 310
けん引されるとき 310
フック..... 312

こ

交換
エアコンフィルター.....275
キーの電池 283
タイヤ 339
電球（バルブ）.....288
ヒューズ 285
ワイパーゴム 277
工具（ツール）.....328, 340
光軸調整ダイヤル 136
後席シートベルト締め忘れ
警告灯.....322
航続可能距離.....72
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換.....288
ワット数 367
コーナーセンサー 196
誤発進抑制制御機能
（前方・後方）.....172
小物入れ.....247
コンライト
（自動点灯・消灯装置）.....135

さ

サイドエアバッグ 33
サイド方向指示灯 133
方向指示レバー.....133
ワット数 367
サイドミラー（ドアミラー）.....107
操作 107
坂道発進補助機能 187
サンバイザー 250

し

シート.....97, 98
シートの調整に関する警告.....97
正しい運転姿勢.....24
チャイルドシート.....42
チャイルドシートの固定.....53
調整.....97
手入れ.....262
ヘッドレスト.....101
シートアンダートレイ.....243
シートヒーター.....236
シートベルト.....26
お子さまの着用.....30
緊急時シートベルト固定機構...29
シートベルト締め忘れ
警告灯.....322
正しく着用するには.....26
チャイルドシートの固定.....53
着け方・はずし方.....26, 27, 28
手入れ.....262
妊娠中の方の着用.....31
シートベルト締め忘れ警告灯.....322
シートベルトプリテンショナー.....29
機能.....29
プリテンショナー警告灯.....319
室内灯（インテリアランプ）.....240
インテリアランプ.....240
スイッチ.....240
マップランプ.....241
ワット数.....367
始動のしかた.....126
シフトポジション.....131
シフトレバー.....131
オートマチック
トランスミッション.....131
シフトレバーが
シフトできない.....132
リバース警告ブザー.....132
シフトロックシステム.....132
車線逸脱警報 OFF 表示灯.....155
車線逸脱警報機能.....181
車線逸脱警報作動灯.....157
車速
スピードメーター.....68
ジャッキ
ガレージジャッキ.....267
車載ジャッキ.....328, 340
タイヤ交換.....339
ジャッキハンドル.....328, 340
車幅灯.....135
電球（バルブ）の交換.....288
ランプスイッチ.....135
ワット数.....367
車両カスタマイズ機能一覧.....368
車両型式.....367
車両仕様（スペック）.....367
車両データの記録.....7
車両を緊急停止するには.....308
収納装備.....242, 248
手動光軸調整ダイヤル.....136
ジュニアシート.....43
仕様（車両仕様）.....367
衝突回避支援ブレーキ機能
（対車両・対歩行者）.....162
衝突警報機能
（対車両・対歩行者）.....162
初期設定.....112, 371
助手席シートアンダートレイ.....243

す

スイッチ
イグニッション 126
インテリアランプ 240
ウインドウロック 110
ウインドシールド
デアイサー 226, 231
ウォッシャー 143, 145
エンジンスイッチ 126
シートヒーター 236
ステアリング 238
Stop & Start キャンセル 187
スマートアシスト
OFF スイッチ 155
ドアミラー 107
パワーウインドウ 110
非常点滅灯
（ハザードランプ） 305
VSC OFF 214
フォグランプ 142
マップランプ 241
ランプ 135
リヤウインドウ
デフォッガー 225, 231
ワイパー 143, 145
スターター
エンジンの始動 126
スターターがまわらない 350
スタック 360
ステアリングスイッチ 238
ステアリングホイール
（ハンドル） 104
位置調整 104
パワーステアリング警告灯 320
ステアリングロック 128, 129
ステレオカメラ 154
Stop & Start System 186
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換 288
スノータイヤ（冬用タイヤ） 218
スピードメーター 68
スペアタイヤ（応急用タイヤ） 339
空気圧 367
交換方法 344
収納場所 340
スペック（車両仕様） 367
スマートアシスト OFF
スイッチ 155
スマートアシスト OFF
表示灯 155
スマートアシスト
機能停止コード 325
スマートアシスト
“故障” 表示 320
スマートアシスト作動灯 156
スマートアシストⅢ 151
スマートアシスト
“停止” 表示 325
スモールランプ（車幅灯） 135
電球（バルブ）の交換 288
ランプスイッチ 135
ワット数 367

せ

清掃 258, 262
アルミホイール 259
外装 258
シートベルト 262
内装 262
制動灯
電球（バルブ）の交換 288
積算距離計
（オドメーター）..... 71
機能 71
表示の切りかえ・
リセットボタン 70
セキュリティ
インジケーター 60
先行車発進お知らせ機能 184
洗車 258
前照灯（ヘッドランプ）..... 135
LED ヘッドランプ警告灯 321
LED ヘッドランプ
オートレベリング警告灯 321
手動光軸調整ダイヤル 136
電球（バルブ）の交換 288
ライトセンサー 137
ランプ消し忘れ警告ブザー 138
ランプ消し忘れ防止機能 137
ランプスイッチ 135
ワット数 367

そ

速度計（スピードメーター）..... 68
ソナー 154

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 133
電球（バルブ）の交換 288
方向指示レバー 133
ワット数 367
タイヤ 269
応急用タイヤ 339
空気圧 273, 367
交換 339
締め付けトルク 347
スペアタイヤ 339
点検 269
パンク応急修理セット 327
パンクしたときは 327, 339
冬用タイヤ 218
ホイールサイズ 367
ローテーション
（位置交換）..... 269
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 360
タイヤチェーン 218
タコメーター 68

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 218
チェンジレバー（シフトレバー）
オートマチック
トランスミッション..... 131
シフトレバーが
シフトできない 132
リバース警告ブザー 132
チャイルドシート..... 42
ISOFIX バーでの取り付け..... 56
シートベルトでの固定..... 54
選択方法..... 42
チャイルドプロテクター 91
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 134
操作 134
未解除走行時
警告ブザー 322
メンテナンスデータ 366

つ

ツール（工具）..... 328, 340

て

停止表示板収納スペース.....249
ディスプレイ 70
トリップ
インフォメーション 71
手入れ.....258, 262
アルミホイール.....259
外装 258
シートベルト 262
内装 262
テールランプ（尾灯）.....135
電球（バルブ）の交換.....288
ランプスイッチ.....135
デッキボックス 249
デッキボード.....248
デフォッガー
フロントガラス.....225, 231
リヤウインドウ
デフォッガー.....225, 231
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....288
ワット数 367
点検基準値
（メンテナンスデータ）.....362
電子カードキー 78
作動範囲 83
正常に働かないとき 352
電池が切れた 352
電池交換 283
電池交換（キー）.....283

と

ドア 90
キーフリーシステム 81
チャイルドプロテクター 91
ドアガラス 110
ドアポケット 243
半ドア警告灯 321
半ドア走行時
警告ブザー 321
ロックレバー 91
ワイヤレスリモコン 90
ドアガラス 110
ドアポケット 243
ドアミラー 107
オート作動 108
操作 107, 108
盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム 60
時計 251
トップテザーアンカー 58
トラクションコントロール
（TRC）..... 212
トランスミッション 131
操作 131
メンテナンスデータ 365
トリップ
インフォメーション 71
トリップメーター 71
機能 71
切りかえボタン 70

な

内装
収納装備 242, 248
手入れ 262

に

荷物
積むときの注意 124
ラゲージルーム 248

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタック）..... 360

ね

燃費
平均燃費 72
燃料 362
ガソリンスタンドでの情報 396
給油 147
種類 362
燃料残量警告灯 321
容量 362
燃料計 68

は

パーキングブレーキ..... 134
操作 134
未解除走行時
警告ブザー 322
メンテナンスデータ 366
パーソナルランプ..... 241
スイッチ..... 241
ワット数..... 367
排気ガス 40
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 136
電球（バルブ）の交換..... 288
ランプスイッチ 135
ワット数..... 367
ハザードランプ（非常点滅灯）... 305
スイッチ..... 305
電球（バルブ）の交換..... 288
ワット数 367
挟み込み防止機能
運転席ドアガラス 111
発炎筒 306
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 288
ワット数 367
バックカメラ 202
バックドア 93
バッテリー
バッテリーあがりを
防ぐために 355
バッテリーがあがった..... 354
冬の前の準備点検 218
バニティ（化粧用）ミラー.....250
パノラミックビューモニター.....205
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）.....288
ワット数 367
パワーウインドウ 110
ウインドウロックスイッチ 110
閉めることが
できないときは.....111
操作.....110
挟み込み防止機能.....111
パワーステアリング 212
パワーステアリング警告灯 320
パンクした
応急用タイヤ装着車.....339
タイヤパンク応急修理セット
装着車 327
番号灯
（ライセンスプレートランプ）...135
電球（バルブ）の交換.....288
ランプスイッチ 135
ワット数.....367
ハンドル
（ステアリングホイール）.....104
位置調整.....104
パワーステアリング警告灯 320

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 212
ヒーター
オートエアコン 229
シートヒーター 236
マニュアルエアコン 224
非常点滅灯（ハザードランプ）... 305
スイッチ..... 305
電球（バルブ）の交換..... 288
ワット数 367
尾灯（テールランプ）..... 135
電球（バルブ）の交換..... 288
ランプスイッチ 135
ヒューズ 285
表示灯 66
日よけ（サンバイザー）..... 250
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 212

ふ

ブースターケーブルの
つなぎ方 354
フォグランプ 142
スイッチ..... 142
電球（バルブ）の交換..... 288
ブザー
キーフリーシステム 84
誤発進抑制制御機能
（前方・後方）..... 156
コーナーセンサー 197
シートベルト締め忘れ警告.... 322
車線逸脱警報機能 157
衝突回避支援ブレーキ機能.... 156
衝突警報機能..... 156
Stop & Start
System 193, 324
先行車発進お知らせ機能 157
パーキングブレーキ未解除
走行時警告.....322
パワーステアリング.....320
半ドア走行時警告.....321
ブレーキ 319
ランプ消し忘れ.....138
リバース警告 132
フック
買い物フック 255
けん引フック 312
フロアマット固定フック 22
フューエルメーター（燃料計）.....68
フューエルリッド（給油口）.....147
給油のしかた 147
冬の前の準備（寒冷時の運転）....218
冬用タイヤ.....218
ブレーキ
パーキングブレーキ.....134
ブレーキ警告灯.....319
メンテナンスデータ.....366
ブレーキアシスト.....212
スリップ表示灯.....320
機能.....212
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる.....119
ブレーキフルード.....366
フロアマット.....22
フロントシート.....97
シートヒーター.....236
正しい運転姿勢.....24
調整.....97
手入れ.....262
フロントシートの調整に
関する警告.....97
ヘッドレスト 101

フロントターンシグナルランプ
電球の交換 288
レバー 133
ワット数 367
フロントフォグランプ 142
スイッチ 142
電球（バルブ）の交換 288
フロント方向指示灯 133
電球（バルブ）の交換 288
方向指示レバー 133
ワット数 367
分割可倒シート 99

へ

平均燃費 72
ヘッドランプ 135
LED ヘッドランプ
オートレベリング警告灯 321
手動光軸調整ダイヤル 136
電球（バルブ）の交換 288
ライトセンサー 137
ランプ消し忘れ警告ブザー 138
ランプ消し忘れ防止機能 137
ランプスイッチ 135
ワット数 367
ヘッドレスト 101
ベビーシート 43

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 269, 339
メンテナンスデータ 367
ホイールナットレンチ 328, 340
方向指示灯 133
電球（バルブ）の交換 288
方向指示レバー 133
ワット数 367
ホーン（警音器） 105
補給口（燃料） 147
保証 9
ボトルホルダー 244
ボンネット 265
開け方 265

ま

マスターウォーニング 320
マップランプ 241
スイッチ 241
ワット数 367
マニュアルエアコン 224
マルチインフォメーション
ディスプレイ 70

み

ミラー
インナーミラー 106
ドアミラー 107
バニティミラー 250

め

メーター（計器類）..... 68
警告灯 319
表示切りかえボタン 70
表示灯 66
マルチインフォメーション
ディスプレイ 70
メーター 68
メカニカルキー 79
メンテナンスデータ 362

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 368
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 360
油脂類 362

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 135
電球（バルブ）の交換 288
ランプスイッチ 135
ワット数 367
ライトセンサー 137
ラゲージルーム
デッキボード 248
ラジエーター
オーバーヒート 357
メンテナンスデータ 365
ランプ
インテリアランプ 240
室内灯 240
電球（バルブ）の交換 288
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 305
フロントフォグランプ 142
ヘッドランプ（前照灯）..... 135
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 133
マップランプ 241
ライトセンサー 137
ランプ消し忘れ防止機能 137
ワット数 367
ランプ消し忘れ防止機能 137

り

リヤウインドウ
デフォッガースイッチ ... 225, 231
リヤシート 98
前倒し 98
リヤ方向指示灯 133
電球（バルブ）の交換 288
方向指示レバー 133
ワット数 367
リヤワイパー 145

る

ルームミラー
（インナーミラー）..... 106
ルームランプ（室内灯）..... 240
スイッチ 240
ワット数 367

れ

冷却水 365
冬の前の準備 218
メンテナンスデータ 365
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 357
メンテナンスデータ 365
レバー
シフト 131
方向指示 133
ボンネット解除 265
ロック（ドア）..... 91

ろ

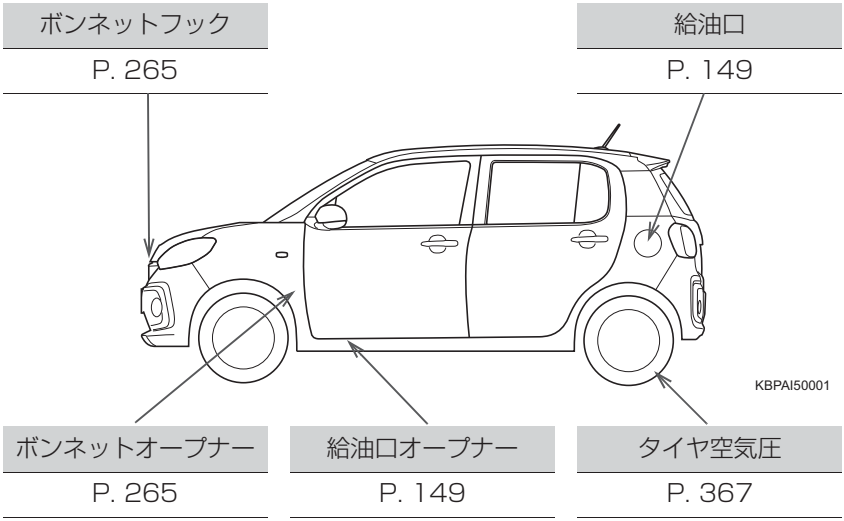
ロック
ウインドウロック 110
キーフリーシステム 81
シフトロックシステム 132
チャイルドプロテクター 91
ドア 90
ワイヤレスリモコン 90

わ

ワイパー＆
ウォッシャー 143, 145
ワイパーブレード（寒冷地用）.... 219
ワイヤレスリモコン 90
作動の合図 90
操作 90
電池の交換 283
半ドア警告ブザー 321
ワックス 258
ワット数 367

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	FF（前輪駆動）：36L 4WD（4 輪駆動）：38L	
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン	P. 147, 362
タイヤが冷えているときの空気圧		P. 367
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 　1KR-FE エンジン車： 2.9 L オイルとフィルター交換時 　1KR-FE エンジン車： 3.1 L	
エンジンオイルの種類		P. 363

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700

受付時間についてはホームページにてご確認ください。
https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

所在地 〒450－8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

M B1236
01999ー B1236
CKS-2022年12月 1 日
2022年 8 月 1 日初版
2022年12月 8 日 2版
パッソ